

令和7年

とよたの消防



豊田市消防本部

Toyota City Fire Department



豊田市民の誓い

(前文)

わたくしたちは、七州をのぞむ美しい山河にかこまれ、輝かしい衣の里の歴史と伝統をうけつぎながら、明日に向かって伸びゆく豊田市の市民です。

(本文)

- 一、緑をはぐくみ、川を大切にして、豊かな自然を愛しましょう。
- 一、スポーツに親しみ、教養を高めて、文化の向上につとめましょう。
- 一、元気で働き、若い力をそだてて、幸せな家庭をつくりましょう。
- 一、互いに助けあい、心の輪をひろげて、あたたかい町をつくりましょう。
- 一、いのちを尊び、きまりを守って、住みよい社会をつくりましょう。

「豊田市民の誓い - シンボルマーク -」

昭和53年3月、ふれあい豊かな地域社会づくりの目標として、市民共通の願いを5項目に託した「豊田市民の誓い」が誕生しました。

以後20余年を経過し、平成18年3月4日に開催された豊田市制55周年記念式典で、「豊田市民の誓い」の新シンボルマークが発表されました。

新シンボルマークは、市町村合併を機に、新しい市域の子どもを始め全市民に「市民の誓い」の理念を周知啓発し、前文と本文の5項目を市民生活と結び、実践活動の推進を図ることを目的としています。

「豊田市の花“ひまわり”の種をモチーフに、本文の5項目を明るいラインで表し、実践活動を通して、わたくしたち市民の手で、豊田市を未来に向かって育て伸ばそう」という意味を表しています。

◆◆◆<表紙写真> 緊急消防援助隊で活躍した小型救助車◆◆◆

令和6年9月21日から23日にかけて石川県能登半島で発生した「令和6年奥能登豪雨災害」に緊急消防援助隊愛知県大隊特殊装備小隊として小型救助車を派遣しました。

この小型救助車は、コンパクトながら悪路での走行力や登坂能力に優れており、土砂災害現場や山間地での活躍が期待され、令和5年から足助消防署に配備しています。

はじめに

この年報は、令和7年4月1日現在における当市の状況と令和6年の当市における消防の現況及び火災等の発生状況等を統計的に収録し、今後の消防行政の効率的な運営に役立てるとともに、当市における消防の実態についてご理解を深めていただくことを目的として編集したものです。

なお、本書中の火災・救急・救助統計は、暦年をもって表し、予算関係及びその他の事項については、会計年度で表しています。

令和7年5月

豊田市消防本部

一 目 統 計

R7.4.1現在の数値（●印：R6年度の数値 ★印：R6年の数値）

<p>面積</p> <p>918.32km²</p> 	<p>人口 人口密度</p> <p>415,138人 452人/km²</p> <p>ミライのフツ－をつくろう</p> <p>SDGs </p> <p>未来都市とよた</p>	<p>世帯数</p> <p>190,271世帯</p> 	<p>署所数</p> <p>4消防署 5分署 7出張所</p> 
<p>消防予算</p> <p>120億2,709万円 〔市民1人あたり28,971円〕</p> 	<p>消防職員数</p> <p>541人 〔市民767人に1人〕</p> 	<p>救急隊/救急救命士数</p> <p>18隊 / 155人</p> 	<p>消防団員数</p> <p>1,779人 〔市民223人に1人〕</p> 
<p>女性消防クラブ会員数</p> <p>94人</p> 	<p>少年消防クラブ会員数</p> <p>18,965人</p> 	<p>幼年消防クラブ会員数</p> <p>10,370人</p> 	<p>高校生消防クラブ会員数</p> <p>99人</p> 
<p>自主防災会の組織数</p> <p>322組織 〔組織率100%〕</p>  <p>自助 共助</p>	<p>防火対象物●</p> <p>15,836棟</p>  <p>SAFETY</p>	<p>危険物施設数●</p> <p>1,196施設</p> 	<p>防火危険物安全協会会員数</p> <p>318会員</p> 
<p>防災学習センター利用者数●</p> <p>25,893人 〔計 669,955人〕</p> 	<p>本部・署車両数 / 団車両数</p> <p>124台 / 129台</p> 	<p>消火栓 / 防火水槽</p> <p>5,738基 / 1,977基</p> 	<p>119番受信件数★</p> <p>29,136件 〔18分に1件〕</p> 
<p>火災件数★</p> <p>113件 〔3.2日に1件〕</p> 	<p>救急件数★</p> <p>21,629件 〔24分に1件〕</p> 	<p>救助件数★</p> <p>314件 〔1.2日に1件〕</p> 	<p>出火原因★</p> <p>1位 たき火 〔16件〕</p> 

令和6年度（主な取組）

5月25日 消防ふれあいコンサート

豊田市消防音楽隊が鞍ヶ池公園でコンサートを行い、火災予防啓発を行いました。



6月2日 第64回豊田市消防操法大会

豊田スタジアムで豊田市消防操法大会が開催され、消防団が訓練の成果を発表しました。



7月22、23日 消防用ドローン研修

南消防署の職員が、消防用ドローンの知識や技術を学びました。



7月23日 稲武出張所×ドクターヘリ合同訓練

山村地域の救急事案を想定し、藤田医科大学ドクターヘリとの合同訓練を実施しました。



8月16日 全国大会出場に伴う市長報告

全国消防救助技術大会に参加する職員が市長に報告を行いました。



8月28日 県内応援部隊の派遣（蒲郡市）

県内で発生した土砂災害に、愛知県消防広域応援計画に基づき、職員を派遣しました。



9月16日 多数傷病者対応訓練

豊田スタジアムにて名古屋グランパス関係者と合同で訓練を実施しました。



9月21日 第29回消防こども写生大会

消防に対する関心と防火意識の高揚を目的として、消防こども写生大会を開催しました。



9月21日～10月3日 緊急消防援助隊の派遣

石川県で発生した奥能登豪雨災害に、緊急消防援助隊として、職員を派遣しました。



11月10日 中消防署×第2方面隊合同訓練

火災を想定し、中消防署と豊田市消防団第2方面隊が合同訓練を実施しました。



11月21～24日 FIA世界ラリー選手権

FIA世界ラリー選手権が開催され、消防特別警戒体制をとり、対応しました。



©Rally Japan

12月6日 大型自動車講習会

大型自動車の構造を把握し、救助活動に必要な技術を習得しました。



1月7日 とよた消防フェスタ

消防出初・観閲式と同日開催され、様々な催しで会場を盛り上げました。



1月30日 愛知県警防技術交換会

名古屋市消防学校で開催され、県内の消防本部が警防技術を競いました。



2月15日 豊田市消防職就職ガイダンス

訓練見学や消防業務の紹介を通じて、豊田市消防本部の魅力を発信しました。



3月1日 南消防フェスタ

防火・防災知識の向上を図ることを目的に、南消防フェスタを開催しました。



目 次

〔豊田消防の現況〕

I. 豊田消防のあらまし

豊田市の概要	1
消防のあゆみ	2
消防本部・消防署の組織図	5
消防本部の分掌事務	6
消防署の分掌事務	8
消防職員配属状況	9
消防の当初予算	10

II. 消 防 施 設

消防本部施設の概要	11
● 消防本部・署所の配置図	12
消防車両の配置	13
消防水利	14
地震対策済防火水槽の設置	14
通信施設	15

III. 火 災

火災発生状況	17
出火件数及び損害額等	18
署所別出火件数	19
火災種別出火件数	19
四季別出火件数	20
月別出火件数	20
時間別出火件数	21
出火原因別出火件数等	22
発火源別出火状況	23
その他の出動件数	24

IV. 救 急 ・ 救 助

救急体制	25
救急出動件数・搬送人員	25
救急事故種別件数	26
救急隊員応急処置実施項目	26
署所別救急出動件数	27

月別救急出動件数	27
時間帯別救急出動件数	28
年齢区分別疾病分類別搬送人員	28
年齢区分別傷病程度別搬送人員	29
応急手当普及指導講習実施回数	29
救助体制	30
緊急消防援助隊	30
救助出動状況	30

V. 火災予防対策

火災予防	31
住宅防火対策	31
広報活動	31
防火管理者	33
自衛消防訓練	34
防災管理者	34
防災学習センター	36
防火対象物数	38
消防用設備等の点検報告制度	38
防火対象物定期点検報告制度	39
防災管理点検報告制度	39
消防同意・消防用設備等の検査件数	40
危険物施設設置数	41
圧縮アセチレンガス等の設置状況	42
指定可燃物等及び少量危険物の設置状況	42
製造所等に対する立入検査の状況	42

VI. 災害対策

防災	43
自主防災組織数	43
水防倉庫	43
● 水防倉庫の配置図	44
応援協定	45
消防用ドローンの活用状況	46
ヘリポートの設置	46
● ヘリポート配置図	47

Ⅶ. 消 防 団

豊田市消防団組織図	49
消防団格納庫	50
消防団車両・小型動力ポンプ等	54
● 消防団機械器具の配置図	56
消防団協力事業所表示制度	56
豊田市消防団応援の店	56
豊田市学生消防団活動認証制度	56

Ⅷ. 消防音楽隊・関係団体

消防音楽隊	57
関係団体	58
防火危険物安全協会	58
女性消防クラブ	58
少年消防クラブ	59
幼年消防クラブ	59
高校生消防クラブ	60

〔 統 計 資 料 〕

計 画

豊田市消防ビジョン ～第4次豊田市消防整備基本計画～	61
----------------------------	----

財 務

一般会計予算と消防予算の推移	62
歳入当初予算額（消防本部）の推移	62
歳出当初予算額（消防本部）の推移	62
人口・世帯当たりの消防予算の推移	62

人 事

消防職員の年齢	63
消防職員の勤務年数	64
消防職員の採用状況	65
消防職員の資格等取得保有状況	65
研修実施状況	66
研修実施状況（消防大学校・救急救命士養成所・愛知県消防学校）	68

指 令

119番回線別受信状況	69
市民案内利用状況	69

口頭指導状況	69
119番誤報件数	69
火 災	
月別火災状況	70
曜日別火災状況	72
時間別火災状況	72
火災種別出火原因	74
出火状況及び損害額の推移	76
主な火災の概要	77
高速道路火災出動状況の推移	78
その他の出動状況（警戒・探索・その他）	78
救 急	
月別救急出動状況	79
曜日別救急出動状況	79
時間帯別救急出動状況	79
署所別・種別救急出動状況	80
救急出動状況の推移	80
発生場所別救急搬送人員	81
年齢別・性別搬送人員	81
傷病程度別搬送人員	82
医療機関告示開設別搬送人員	83
年齢別搬送人員の推移	84
高速道路救急出動状況の推移	84
救 助	
救助出動状況	85
月別救助出動状況	86
救助出動状況の推移	86
火災・救急・救助件数暦年表	87
予 防	
防火対象物査察実施状況	88
消防用設備等点検状況	89
中高層建築物の現況	90
消防同意件数	91
危険物規制対象物	92

消 防 団	
消防団員職務報酬	9 3
消防団員出動報酬	9 3
消防団員費用弁償	9 3
消防団員退職報償金	9 3
豊田市消防団編成表	9 4
そ の 他	
出動基準	9 6
消防水利状況	9 8
月別気象状況	9 9
<参 考>	
豊田消防歌	1 0 0
「賛歌」豊田消防	1 0 1

〔豊田消防の現況〕

I. 豊田消防のあらまし



◆ 豊田市の概要

豊田市は、「クルマのまち」として世界にその名を知られる産業都市でありながら、四季を通じて変わりゆく美しい自然に囲まれた広大な都市で、梨や桃が県内でも有数の収穫量を誇るなど自然の恵み豊かな地域です。昭和26年3月に挙母市として市制施行以来、自動車産業の発展とともに急速に成長し、平成17年4月の「平成の大合併」では、経済圏や日常生活圏が一体となっている矢作川流域7市町村が一つとなり、新豊田市が誕生しました。

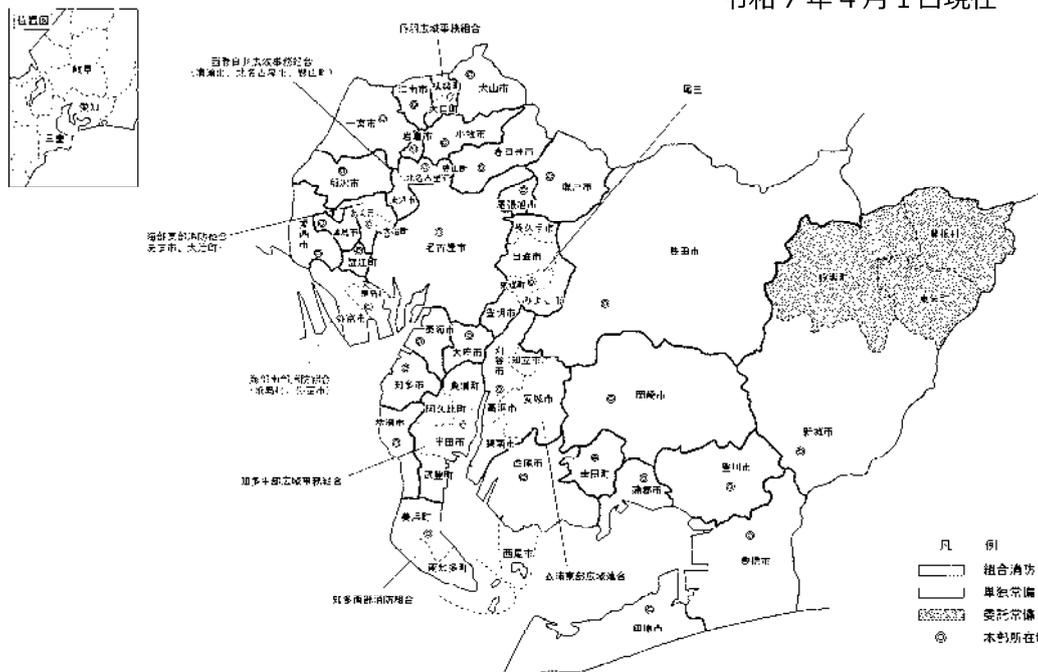
現在人口約42万人、面積は918.32km²で愛知県のほぼ中央に位置し、長野県に源を発する矢作川が南北に流れ、市域は、東・北部の三河高原を形成する山間部と、西・南部の西三河平野につながる丘陵・平野部からなり、標高3.2mから1,240mに至る変化に富んだ地形条件を有しています。

豊田市は「第9次豊田市総合計画」の将来都市像に、「つながる つくる 暮らし楽しむ まち・とよた」を掲げ、「つながり」によって、多様な価値や可能性を創出するまちや「チャレンジ（変化）」と「チャレンジ（挑戦）」によって、しなやかに変化し続けるまちを目指しております。また「WE LOVE とよた」条例を制定し、誰もが幸せを感じる「わくわくする世界一楽しいふるさと」を目指しております。

- 位置 東経137度9分24秒、北緯35度5分00秒
- 面積 918.32km²（東西49.36km、南北33.37km）
- 世帯数 190,271世帯
- 人口 415,138人（総人口）
- 人口密度 452人/km²（出典「豊田市統計書」等）

愛知県

令和7年4月1日現在



◆ 消防のあゆみ

徳川中期寛延年 明治初期	各村の庄屋に大うちわ、水桶、とび口、刺子等の消火器具が備えられた。 下挙母に有志が集まって「桜組」と称する消防組が編成されたのをはじめ、 各集落に逐次消防組を編成
明治中期	県の奨励によって公設消防発足の気運が起こり、統制ある団体に改善され るとともに、鉄製腕用ポンプ等を装備
1947(昭和 22) 1956(昭和 31)	消防団令の公布により、警防団 7 分団を消防団 1 7 分団 6 5 0 人に改組 挙母市消防本部（庶務係、消防係、予防係、整備係）・署が発足し、 職員 2 4 人、消防車 2 台で業務を開始
1957(昭和 32) 1959(昭和 34)	西加茂郡高橋村と合併し、消防団が 2 6 分団 1, 0 5 1 人となる。 消防団再編成を行い、2 6 分団 7 9 6 人となる。 市名変更に伴い、豊田市消防本部・署となる。 消防団を再編成統合し、9 分団 7 8 0 人となる。
1963(昭和 38)	第 1 期小型化整備 5 か年計画を樹立、全額市費配備に踏み切る。 第 1 期小型化整備 5 か年計画完了、小型動力ポンプ 2 0 台を消防団に配備 救護隊を設置、救急車 1 台を購入し救急業務を開始する。
1964(昭和 39)	碧海郡上郷町と合併し、消防団再編成を行い 1 2 分団 6 9 6 人となる。 第 2 期機械力の小型化整備 5 か年計画を樹立
1965(昭和 40) 1966(昭和 41) 1967(昭和 42) 1969(昭和 44)	高岡町と合併し、消防団が 1 7 分団 8 7 2 人となる。 南部出張所を開設、所長以下 1 3 人を配置、消防・救急業務を開始 西加茂猿投町と合併し、2 4 分団 1, 1 6 8 人となる。 第 2 期小型化整備 5 か年計画完了、小型動力ポンプ 1 7 台を消防団に配備 消防長専任となる。
1970(昭和 45)	消防団を再編成統合し、1 5 分団 9 5 0 人となる。 美山出張所を開設、所長以下 1 3 人を配置、消防・救急業務を開始 東加茂松平町と合併し、1 7 分団 1, 1 6 6 人となる。 消防本部に課制（庶務課、消防課、予防課）をしき、3 課 1 署 2 出張所と し、本署に警備第 1 係、警備第 2 係を新設 消防本部・署の新庁舎を挙母町に移転新築し、業務を開始
1971(昭和 46) 1972(昭和 47) 1974(昭和 49)	消防本部消防課に教養係を新設 四郷出張所を開設、所長以下 1 3 人を配置、消防・救急業務を開始 女性消防士 2 人を初採用
1976(昭和 51)	大林出張所を開設、所長以下 1 5 人を配置、消防・救急業務を開始 予防課予防を危険物係と予防係に分離 本署に通信第 1 係、通信第 2 係を新設 消防音楽隊発足
1977(昭和 52)	松平出張所を開設、所長以下 1 5 人を配置、消防・救急業務を開始 予防課に建築物係、本署に指導調査係を新設
1978(昭和 53) 1979(昭和 54)	消防本部の組織を変更し、次長を置く。 高岡出張所を開設、所長以下 1 5 人を配置、消防・救急業務を開始 消防署の組織を変え、署所を中部・南部・西部・北部地区に区分し、本署 に特別消防第 1 係、特別消防第 2 係を新設
1980(昭和 55)	高橋分署を開設、分署長以下 1 9 人を配置、消防・救急業務を開始 「救護隊」を「救急隊」に改名
1982(昭和 57)	消防団の再編成を行い、1 7 分団 5 5 部 1, 0 3 6 人となる。 保見出張所を開設、所長以下 1 4 人を配置、消防・救急業務を開始 通信指令室を新設
1983(昭和 58) 1984(昭和 59)	予防課に査察指導係を新設し、高橋分署に警防第 1 係、警防第 2 係を新設 大林出張所に警防第 1 係、警防第 2 係を新設

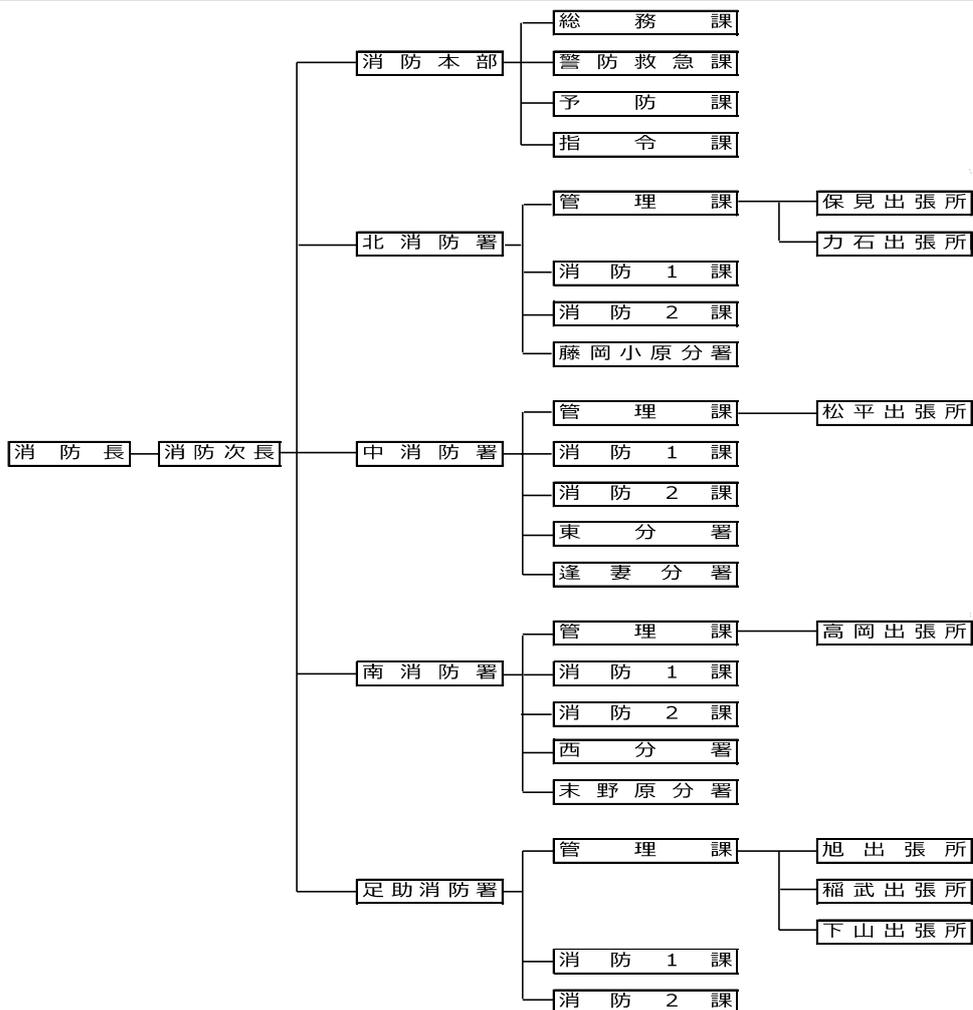
1985(昭和 60)	南部出張所と四郷出張所にそれぞれ警防第 1 係、警防第 2 係を新設 地図検索装置を導入
1986(昭和 61)	美山出張所と松平出張所にそれぞれ警防第 1 係、警防第 2 係を新設
1987(昭和 62)	南部出張所を移転新築し、南分署が開設、分署長以下 26 人を配置 消防波無線前進基地を南分署に設置
1988(昭和 63)	保見出張所と高岡出張所に警防第 1 係、警防第 2 係を新設
1990(平成 2)	救急波無線前進基地を高岡出張所に設置
1992(平成 4)	力石出張所を開設、所長以下 13 人を配置、消防・救急業務を開始し、消防波・救急波前進基地を設置
1993(平成 5)	動態的組織の導入に伴い担当制を設け、係制度を廃止
1994(平成 6)	消防本部(署)新庁舎を長興寺に移転新築し、同時に消防緊急情報システムを導入、防災学習センターを開設
1996(平成 8)	消防団の再編成を行い、18分団61部1,036人となる。 藤岡小原分署を開設、分署長以下 17 人を配置、藤岡町・小原村の消防事務の受託業務を開始 四郷出張所を四郷分署に昇格し、分署長以下 23 人を配置
1997(平成 9)	美山出張所を移転新築し、西分署が開設、分署長以下 23 人を配置 高橋分署を東分署、四郷分署を北分署に改名し、分署名を東西南北の方位名称とする。 消防本部敷地内にヘリコプター場外離着陸場を整備
1998(平成 10)	消防本部庶務課に企画教養担当と経理担当、本署に救助警防担当及び救急担当を新設
1999(平成 11)	消防本部消防課に消防担当と施設担当、南分署に救助警防担当及び救急担当を新設
2000(平成 12)	消防署を 1 署から 3 署体制にし、消防署を中消防署、北分署を北消防署、南分署を南消防署に昇格、各署に管理担当及び消防担当、消防本部に指令課を新設 消防本部庶務課の企画教養担当を企画研修担当に改名
2001(平成 13)	消防署に課制を導入し、1 本部、3 消防署、14 課体制となる。
2002(平成 14)	逢妻出張所を開設し、所長以下 12 人を配置、1 本部 3 消防署 3 分署 6 出張所となる。 庶務課の経理施設担当を消防団・施設担当に改名 消防課を警防救急課に改名し、警防救急担当と指揮調査担当を新設
2003(平成 15)	北消防署を移転新築し、署長以下 47 人を配置 警防救急課に装備担当を新設 救急救命士を全施設に配置(23人) 消防団に女性が入団(8月1日12人任命)、カラーガード隊「ひまわりフェアリーズ」を結成
2004(平成 16)	公募により豊田市消防音楽隊市民演奏者 9 人を初採用
2005(平成 17)	松平出張所を移転新築し、所長以下 12 人を配置 西加茂郡藤岡町、小原村、足助町、下山村、旭町及び稲武町と合併し、消防団員数 2,174 人となり、合併地域の支所に支所消防隊を設置 また、あすけ地域消防組合消防本部を編入し、職員 427 人となる。 稲武出張所を稲武支所へ移転
2006(平成 18)	大林出張所を移転新築し、末野原分署が開設、分署長以下 20 人を配置 防災学習センターをリニューアル
2007(平成 19)	支所消防隊廃止に伴い、足助消防署各出張所に日勤司令 1 人を増員
2008(平成 20)	北・中消防署消防 1・2 課に指揮調査担当を新設 予防課を危険物、予防査察、建築物担当の 3 担当に編成 足助消防署各出張所に日勤司令補 1 人を増員

豊田消防のあらまし

2009(平成 21)	指令課に再任用職員 2 人を配置 南消防署消防 1・2 課に指揮調査担当を新設 中消防署消防 1・2 課に救助担当を新設し、高度救助隊 (SRT:スーパーレスキュー豊田)を編成 庶務課の消防団・施設担当を消防施設・消防団担当に改名
2010(平成 22)	足助消防署各出張所に 1 人を増員し、所長以下 15 人を配置 庶務課の消防施設・消防団担当を施設経理担当、消防団担当の 2 担当に編成 警防救急課の警防救急担当を救急救助担当、装備担当を水利車両担当に改名
2011(平成 23)	足助消防署消防 1・2 課に指揮調査担当を新設 消防団に機能別団員制度を導入(40 人任命)
2012(平成 24)	旭出張所に管理職職員 2 人を再任用 防災防犯課から矢作川豊田防災ステーションを管理移管 逢妻出張所を分署とし、分署長以下 22 人を配置 警防救急・指令担当専門監を配置
2013(平成 25)	下山出張所に管理職職員 2 名を再任用 矢作川豊田防災ステーションに所長以下 7 名の特別任用職員を配置 高岡出張所を移転新築 稲武出張所を移転新築(敷地内にヘリコプター場外離着陸場を整備) 庶務課を総務課に改名 藤岡小原分署の予防管理担当を廃止 東分署、逢妻分署、西分署、末野原分署を課扱いに改編 消防吏員採用の消防長が就任 総務担当管理監を配置
2014(平成 26)	所属に副課長又は副分署長を配置 各業務を管理する長として担当長を配置 警防救急課、指令課、(足)管理課、(中)管理課及び逢妻分署に再任用職員を各 1 人配置
2015(平成 27)	足助消防署、北消防署及び東分署に各 2 人増員 総務課、予防課及び(南)管理課に各 1 人、警防救急課、中消防署及び南消防署に各 2 人増員 指令課の特別任用職員 1 人を正規職員化
2016(平成 28)	予防課に再任用職員を新たに 1 人配置 消防団の機能別団員に学生機能別団員を追加(40 人任命) とよた協力防人隊の発足(63 人任命)
2017(平成 29)	矢作川豊田防災ステーション所長に再任用職員を新たに 1 人配置 西分署に再任用職員を新たに 1 人配置 高校生消防クラブ発足
2018(平成 30)	足助消防署を改修し、敷地内に 7 種類の救助訓練施設を新設 高岡出張所に職員 2 人増員し、出張所長以下 14 人を配置 警防救急課に 2 人、藤岡小原分署・東分署・末野原分署に各 1 人、再任用職員を新たに配置
2019(令和元年)	保見出張所に職員 2 人増員し、出張所長以下 14 人を配置 予防課の予防担当を予防推進担当に改名 消防用ドローンの実践運用等のため、(南)管理課を 2 人増員し、再任用職員を配置
2020(令和 2 年)	中消防署及び南消防署へ各 1 人、松平出張所へ 2 人増員し、再任用を配置するとともに、指令課を 1 人増員 東分署、逢妻分署、西分署及び末野原分署へ各 1 人増員し、毎日勤務の分署長を配置するとともに、副分署長を両当番に配置 保見出張所及び高岡出張所へ各 1 人増員し、再任用職員の毎日勤務の出張

2021(令和3年)	長を配置 (北)管理課へ1人、力石出張所へ2人増員し、再任用職員を配置するとともに、指令課を1人増員
2022(令和4年)	松平出張所へ1人増員し、再任用職員の毎日勤務の出張所長を配置 指令課へ2人、(南)管理課へ2人増員 力石出張所へ1人増員し、再任用職員の毎日勤務の出張所長を配置
2023(令和5年)	予防課及び(足)消防2課へ再任用職員を1人増員 指令課を2担当制から3担当制へ移行(令和5年1月～) 警防救急課へ1人、指令課へ2人増員
2024(令和6年)	災害対応力向上のため、(中)消防1課へ再任用職員を1人増員 北消防署及び南消防署の救助警防担当及び救急担当を警防救急担当及び救助担当に改編
2025(令和7年)	超高齢社会の進展による救急需要の増加に対応するため、(中)管理課に日勤救急隊を新設し、7人増員 地域防災力向上のため、消防団事務を防災対策課へ移管 総務課を政策人事担当・人材活躍推進担当及び消防施設・調整担当に改編 稲武出張所の毎日勤務の出張所長を廃止し、隔日勤務各1人を増員して2隊運用体制へ移行

◆ 消防本部・消防署の組織図



◆ 消防本部の分掌事務

● 総務課

- (1) 公印の管理に関する事。
- (2) 文書の収受に関する事。
- (3) 消防行政に係る企画立案及び調整に関する事。
- (4) 消防政策会議等に関する事。
- (5) 消防本部の所管に係る予算及び決算の総括に関する事。
- (6) 消防施設（消防団施設を除く。）の整備、管理等に係る計画に関する事。
- (7) 消防施設用地（消防団施設用地を除く。）の取得及び管理に関する事。
- (8) 消防施設（消防団施設を除く。）の整備に関する事。
- (9) 消防施設（消防団施設を除く。）の維持管理に関する事。
- (10) 訓令の公表に関する事。
- (11) 職員の研修に関する事。
- (12) 職員の人事及び服務に関する事。
- (13) 消防職員委員会に関する事。
- (14) 職員の福利厚生に関する事。
- (15) 安全衛生委員会の庶務及び職員の公務災害補償に関する事。
- (16) 消防表彰に関する事。
- (17) 公用車の安全運転推進に関する事。
- (18) 公用車の事故処理等に関する事。
- (19) 消防団への技術指導、合同訓練、災害対応等に関する事。
- (20) 水防業務の管理に関する事。
- (21) 水防資機材の整備に関する事。
- (22) 消防用燃料に関する事。
- (23) 前各号に掲げるもののほか、他の課の所管に属さない事。

● 警防救急課

- (1) 消防応協定に関する事。
- (2) 緊急消援助隊に関する事。
- (3) 消防用機械器具の整備に関する事。
- (4) 消防用機械器具等の取扱技術の指導に関する事。
- (5) 消防水利施設の整備に関する事。
- (6) 消防水利施設の維持管理に関する事。
- (7) 消防活動の研究、対策等に関する事。
- (8) 消防活動の基準等に関する事。
- (9) 警防、救急及び救助に係る業務の高度化に関する事。
- (10) 消防統計（次条第20号の消防統計を除く。）の管理に関する事。
- (11) 消防資機材の整備計画に関する事。
- (12) ヘリポートの整備に関する事。
- (13) 消防指揮本部の編成及び運営に関する事。
- (14) 行事等における消防、救急等の警備基準に関する事。

●予防課

- (1) 火災予防の広報及び啓発活動に関すること。
- (2) 防火管理者及び防災管理者の育成指導に関すること。
- (3) 防火協力団体の育成指導に関すること。
- (4) 自衛消防組織等の育成指導に関すること。
- (5) 危険物製造所等の許認可、検査及び指導に関すること。
- (6) 液化石油ガスに関すること。
- (7) 少量危険物の保安に関すること。
- (8) 危険物施設の査察に関すること。
- (9) 危険物取扱者の育成指導に関すること。
- (10) 毒劇物の届出に関すること。
- (11) 建築確認申請の同意事務に関すること。
- (12) 消防用設備等の設置指導及び検査に関すること。
- (13) 豊田市火災予防条例（昭和48年条例第51号）に規定する届出に関すること。
- (14) 防火対象物の査察に関すること。
- (15) 防火対象物の点検、報告、特例認定等に関すること。
- (16) 消防用設備等の点検及び報告に関すること。
- (17) 防火基準適合表示に関すること。
- (18) 煙火の消費許可、検査及び指導に関すること。
- (19) 火災予防事務の統一化に関すること。
- (20) 消防統計（火災に係るものに限る）の管理に関すること。
- (21) 防災学習センターの運営管理に関すること。
- (22) 住宅の防火及び防災に関すること。
- (23) 火災警報の発令に関すること。
- (24) 消防音楽隊に関すること。
- (25) その他火災予防事務に関すること。

●指令課

- (1) 119番通報の受信及び出動指令に関すること。
- (2) 災害等の消防活動支援及び情報等の収集に関すること。
- (3) 消防部隊の運用及び非常招集に関すること。
- (4) 気象観測に関すること。
- (5) 消防指令システムの管理及び運用に関すること。
- (6) 消防救急デジタル無線の管理及び運用に関すること。

◆ 消防署の分掌事務

●管理課

- (1) 公印の管理及び消防署の庶務に関する事。
- (2) 消防表彰に関する事。
- (3) 消防団との連携に関する事。
- (4) 火災予防の啓発及び広報に関する事。
- (5) 防火対象物の査察に関する事。
- (6) 豊田市火災予防条例に規定する届出に関する事。
- (7) 消防車両の維持管理及び燃料に関する事。
- (8) 消防施設の維持管理に関する事。
- (9) 応急手当の普及及び啓発に関する事。
- (10) 救急事務及び救急活動の報告に関する事。

●消防1課、消防2課

- (1) 火災の原因及び損害の調査に関する事。
- (2) 火災の防圧警戒及び水防活動に関する事。
- (3) 救急及び救助業務に関する事。
- (4) 非常警戒に関する事。
- (5) 地水利調査に関する事。
- (6) 研修及び訓練に関する事。
- (7) 火災、救急、救助活動等の報告に関する事。
- (8) 消防団員への技術指導、消防団との合同訓練、消防団と連携する災害対応等に関する事。
- (9) 火災予防の啓発及び広報に関する事。
- (10) 防火対象物の査察に関する事。
- (11) 防災証明書等の発行に関する事。
- (12) 豊田市火災予防条例に規定する届出に関する事。
- (13) 防災施設の管理及び防災指導に関する事。
- (14) 消防資機材の維持管理に関する事。

- (15) 応急手当の普及及び啓発に関する事。

- (16) その他警防に関する事。

●分署、出張所

- (1) 火災の防圧警戒及び水防活動に関する事。
- (2) 救急及び救助業務に関する事。
- (3) 非常警戒に関する事。
- (4) 地水利調査に関する事。
- (5) 研修及び訓練に関する事。
- (6) 火災、救急、救助活動等の報告に関する事。
- (7) 消防団員への技術指導、消防団との合同訓練、消防団と連携する災害対応等に関する事。
- (8) 火災予防の啓発及び広報に関する事。
- (9) 防火対象物の査察に関する事。
- (10) 豊田市火災予防条例等に規定する届出に関する事。
- (11) 防災施設の管理及び防災指導に関する事。
- (12) 消防資機材の維持管理に関する事。
- (13) 応急手当の普及及び啓発に関する事。
- (14) その他警防に関する事。

◆ 消防職員配属状況

職員配属状況

令和7年4月1日現在

区 分	職 名	消 防 吏 員							合 計	毎 日 勤 務 者	端 日 勤 務 者	消 防 職 員 総 数	
		消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長					消 防 士
合 計		1	8	36	69	118	134	102	73	541	108	433	541
消 防 本 部	小 計	1	4	11	10	19		37		82	61	21	
	消 防 長	1								1	1		
	消 防 次 長		1							1	1		
	管 理 監		1							1	1		
	消防統括担当専門監		1							1	1		
	予防担当専門監		1							1	1		
	総 務 課			2	2	3		7		14	14		
	警 防 救 急 課			2	1	6		7		16	16		
予 防 課			2	3	6		10		21	21			
指 令 課			5	4	4		13		26	5	21		
足 助 消 防 署	小 計		1	5	15	24		41		86	8	78	
	消 防 署 長		1							1	1		
	管 理 課			1	1	2		1		5	5		
	消 防 1 課			2	3	4		8		17		17	
	消 防 2 課			2	3	4		8		17		17	
	旭 出 張 所				3	4		8		15	1	14	
北 消 防 署	小 計		1	6	14	22		72		115	9	106	
	消 防 署 長		1							1	1		
	管 理 課			1	2	1		3		7	7		
	消 防 1 課			2	3	6		16		27		27	
	消 防 2 課			2	3	6		16		27		27	
	藤 岡 小 原 分 署			1	2	4		18		25	1	24	
中 消 防 署	保 見 出 張 所				2	2		10		14		14	
	力 石 出 張 所				2	3		9		14		14	
	小 計		1	7	16	29		78		131	17	114	
	消 防 署 長		1							1	1		
南 消 防 署	管 理 課			1	2	2		2		7	7		
	消 防 1 課			2	3	5		16		26		26	
	消 防 2 課			2	3	5		16		26		26	
	西 分 署			1	2	4		18		25	1	24	
	末 野 原 分 署			1	2	4		18		25	1	24	
	高 岡 出 張 所				2	3		9		14		14	
派 遣 等	小 計					1	2			3	3		
	総 務 省 愛 知 県						1			1	1		

市長部局出向者及び再任用短時間勤務職員は職員数に含めない

出 向 市 長 部 局			1		2	5	1			9	9		
再任用短時間勤務職員						2				2	2		

◆ 消防の当初予算

令和7年度は、社会環境の変化に的確に対応し、将来を見据えたまちづくりに挑戦するため、第9次総合計画「ミライ実現戦略2030」を推進する取組及び市民生活の「安全・安心」を確保する取組を着実に推進することを基本的な考え方として、当初予算を編成しました。

一般会計当初予算の総額は 2, 197 億円、対前年度243億円の増です。

歳入では、市税が1, 246 億円、対前年度9億円の減、基金繰入金は137 億円、対前年度132 億円の増、市債は40 億円、対前年度30 億円の増としました。また、歳出では、普通建設事業費を451 億円、対前年度85 億円の増を計上し、将来のまちづくりに向け必要な施策に取り組んでまいります。

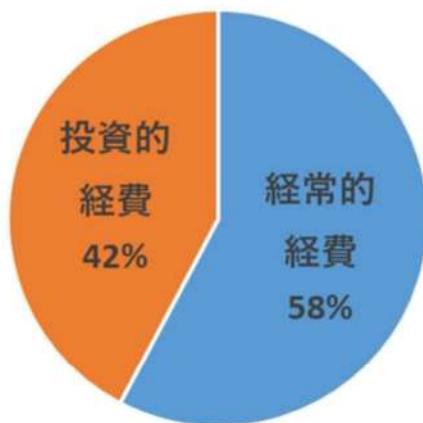
消防費については、一般会計全体の5.5%を占める120億2,709万円で、消防指令システムの更新等により、前年度と比較して33億8,045万円の増となっています。

その内容を性質別に分類すれば、人件費、物件費、補助費などの経常的経費は、69億4,390万円(57.7%)、そのうち義務的経費である人件費は54億1,955万円(45.1%)、消防車両の整備・防火水槽築造等の投資的経費は50億8,319万円(42.3%)です。

これらの予算は、市民が安心して暮らすことのできる安全なまちづくりのために消防施設の整備、消防体制の充実、消防車両・資機材の整備など消防防災体制の整備を推進するものです。

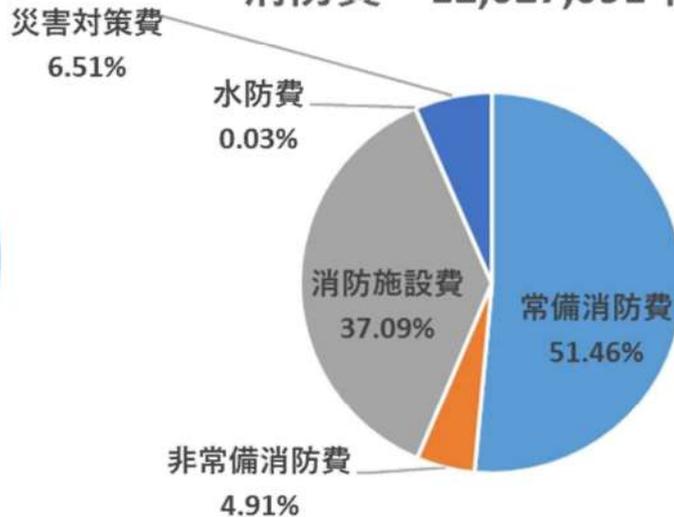
消防費当初予算額性質別割合

消防費 12,027,091千円



消防費当初予算額目別割合

消防費 12,027,091千円



5年間の当初予算額の推移

(千円)

令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
7,093,515	7,099,583	7,151,362	8,646,641	12,027,091

II. 消防施設

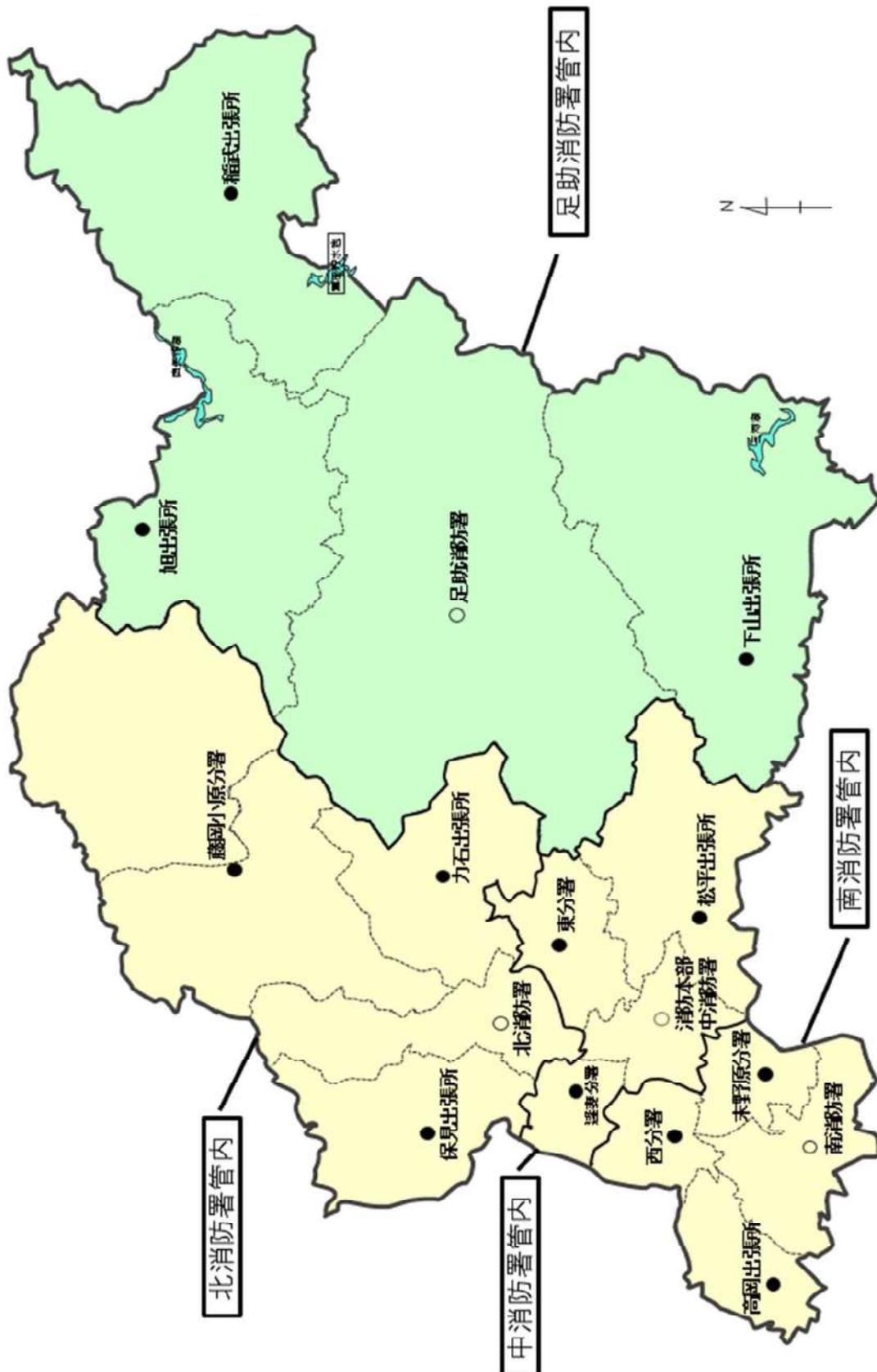


◆ 消防本部施設の概要

令和7年4月1日現在

名称	所在地	開設年月	構造数	床(1階)面積 m ²	延面積 m ²	敷地面積 m ²
北消防署	〒470-0373 四郷町森前南6番地1 TEL 43-0093	平成 15年4月	S造3階 他3棟	1,019.95 238.60	1,716.01 322.60	5,948.09
藤岡小原分署	〒470-0411 木瀬町松本1525番地1 TEL 76-5560	平成 8年4月	RC造2階 一部S造	499.75	763.75	2,977.95
保見出張所	〒470-0352 篠原町黒坪11番地2 TEL 43-1630	昭和 57年4月	RC造2階	226.42	354.09	1,181.30
力石出張所	〒470-0318 力石町井ノ上81番地2 TEL 42-1751	平成 4年4月	RC造2階 一部S造	317.44	504.94	1,678.80
消防本部 中消防署	〒471-0879 長興寺5丁目17番地1 TEL 35-9722	平成 6年10月	SRC造6階 他5棟	2,149.99 1,521.80	6,641.82 2,363.45	19,481.94
東分署	〒471-0003 岩滝町高入36番地1 TEL 87-0360	昭和 55年4月	RC造2階 一部5階	423.64	745.08	2,432.97
逢妻分署	〒471-0053 丸根町6丁目18番地2 TEL 36-2450	平成 14年4月	S造2階	531.52	621.48	2,098.00
松平出張所	〒444-2216 九久平町百々8番地7 TEL 86-1190	平成 17年4月	S造2階	363.76	511.46	2,992.47
南消防署	〒470-1216 和会町長田3番地1 TEL 25-9008	昭和 62年4月	RC造2階 一部5階 他2棟	895.34 348.30	1,895.53	5,270.29
西分署	〒471-0844 聖心町4丁目44番地5 TEL 25-2570	平成 9年4月	RC造2階 他1棟	379.02 45.82	554.90 45.82	2,441.54
末野原分署	〒470-1207 鴛鴨町新林127番地 TEL 25-3070	平成 18年4月	S造2階	569.47	692.84	2,453.63
高岡出張所	〒473-0921 高丘新町上平地135番地1 TEL 51-6111	平成 25年3月	S造2階	428.04	527.04	3,917.00
足助消防署	〒444-2407 桑田和町中貝戸6番地 TEL 62-0119	昭和 57年4月	RC造2階 一部5階 一部S造 他2棟	1,068.12 152.21	1,521.83 152.21	13,020.70
旭出張所	〒444-2832 浅谷町下方場303番地2 TEL 68-1119	平成 10年4月	S造1階	431.50	438.76	4,519.00
稲武出張所	〒441-2513 稲武町宮ノヒラ8番地7 TEL 82-3099	平成 25年3月	S造2階	494.90	592.13	3,659.98 (ハレポート除く)
下山出張所	〒444-3242 大沼町大官屋敷92番地1 TEL 90-4119	平成 7年10月	S造1階	324.93	324.93	3,799.00

●消防本部・署所の配置図



◆ 消防車両の配置

消防車両等の機械力は、人員や消防水利とともに消防力の基本要素の一つであり、市民の安全を確保する上で不可欠なものです。消防機械等の技術革新に合わせ、災害現場において効率的に運用できる最新鋭の機器を導入し、迅速で的確な対応ができるように整備の拡充を図っています。

● 消防本部・消防署の車両配置

令和7年4月1日現在（台）

署 所 車 種		本 部	北 消 防 署	藤 岡 小 原 分 署	保 見 出 張 所	カ 石 出 張 所	中 消 防 署	東 分 署	逢 妻 分 署	松 平 出 張 所	南 消 防 署	西 分 署	未 野 原 分 署	高 岡 出 張 所	足 助 消 防 署	旭 出 張 所	稲 武 出 張 所	下 山 出 張 所	合 計	
消防ポンプ自動車	(水槽無)		1				1				1	1				1		1		10
	(水槽有)※			1				1					1		1					
水槽付消防ポンプ自動車			1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	18
梯子付消防自動車			1				1				1									3
化学消防ポンプ自動車			1				1				1									3
水槽車			1				1				1									3
救助工作車			1				1				1				1					4
指揮車		1	1				1				1				1					5
広報車		5	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	23
指揮隊車			1				1				1				1					4
資機材搬送車		2	2				1				1				1					7
救急自動車			2	1	1	1	2	1	2	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	21
小型救助車															1					1
小型動力ポンプ付積載車																	1			1
支援車							1													1
起震車		1																		1
その他車両		10	3				2				2				2					19
合計		19	16	4	3	3	17	4	4	3	14	4	4	3	14	4	4	4	4	124
小型動力ポンプ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16

※消防ポンプ自動車（水槽有）は、CD-I型に小型水槽を備えているもの

◆ 消防水利

消防水利は、消火栓、防火水槽、プール等の「人工水利」と河川、池、沼等の「自然水利」があります。市が整備している消防水利以外でも、「消防水利の基準」を満たした私有の水利施設については、所有者等の承諾を得て、「指定消防水利」として登録をしています。

消防水利の割合は、消火栓が72.9%と大部分を占めており、防火水槽は25.1%、指定消防水利は2.0%です。大規模な地震による水道管の破損等に対応できるよう、耐震性貯水槽の設置及び既設の防火水槽の地震対策に努めています。

災害時には、その機能が十分発揮されなければなりません。そのため、常時使用可能な状態を保つよう、位置、異常の有無、付近の障害物等を定期的に調査し、機能の保全に努めています。

● 消防水利の推移

各年4月1日現在(基)

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
消火栓(基準適合)	4,420	4,428	4,432	4,433	4,636
消火栓(基準非適合)	1,316	1,311	1,307	1,308	1,102
防火水槽40m ³ 以上	1,693	1,698	1,702	1,710	1,716
防火水槽40m ³ 未満	272	268	267	265	261
指定消防水利	149	155	153	155	158

◆ 地震対策済防火水槽の設置

大規模地震が発生した場合、消火栓や耐震性を有しない防火水槽の機能低下による消火用水の不足が懸念されます。震災時における消防活動に支障をきたさないよう、耐震性貯水槽を計画的に設置しています。また、耐震性を有しない防火水槽に対し、シート工法を施工して地震対策及び長寿命化を図っています。

100m³の耐震性貯水槽には同時多発火災が発生した場合に、地域で消火活動ができるよう、小型動力ポンプ(C-1級)及び消防ホースなどを併せて整備しています。

● 地震対策済防火水槽の現有数

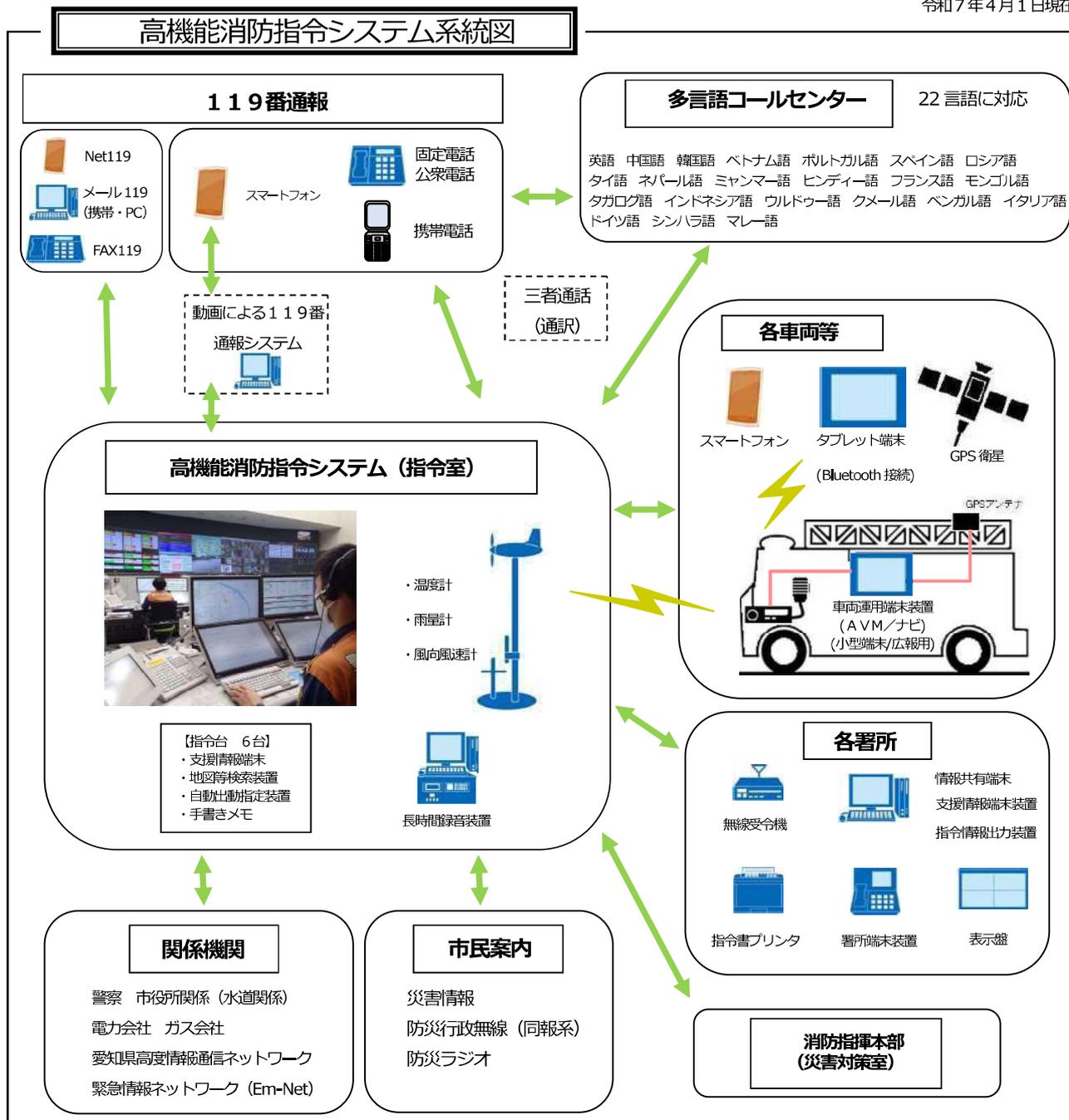
令和7年4月1日現在(基)

	40m ³ 以上100m ³ 未満	100m ³ 以上	合計
耐震性を有する防火水槽	608	43	651
シート工法施工済防火水槽	37	1	38

◆ 通信施設

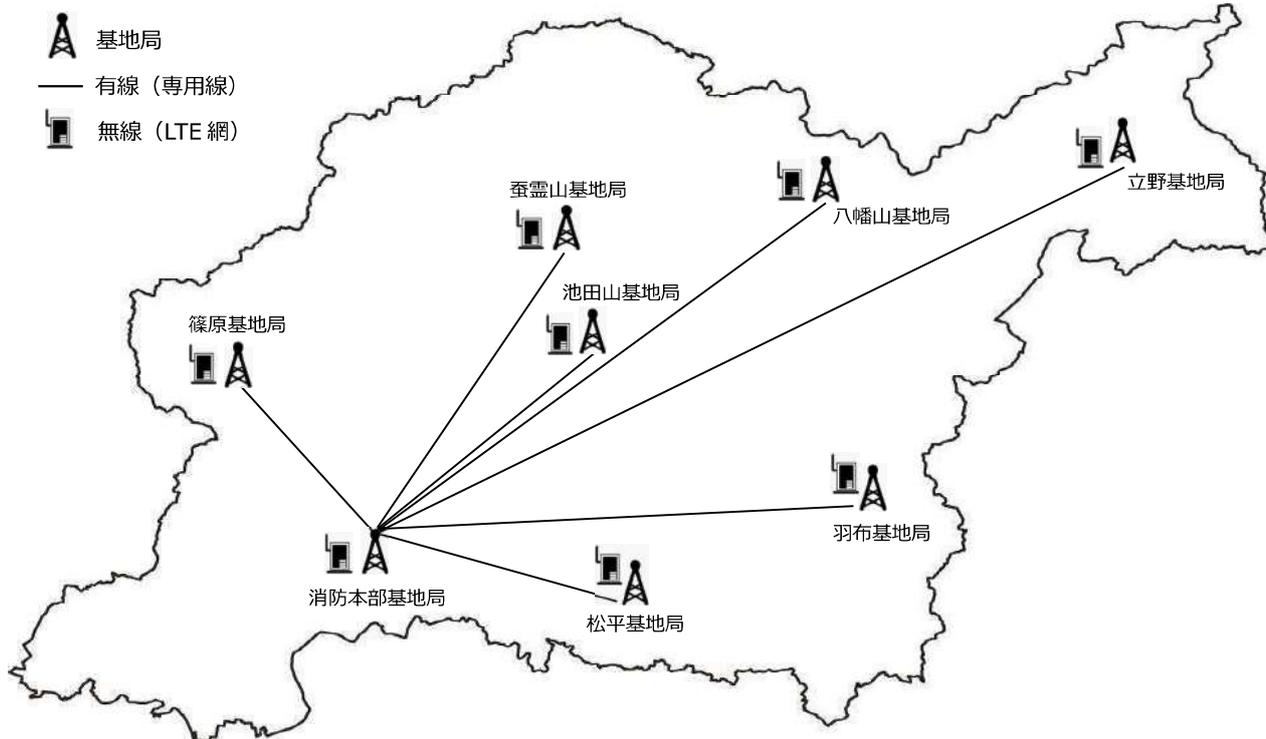
通信施設は、市民からの災害通報を最初に受信する施設であり、迅速確実な情報収集による出動指令を行うとともに、消防救急デジタル無線システム、高性能消防指令システム等を駆使し、災害の状況や災害現場での活動状況などを把握して消防活動を円滑に支援する中枢的役割を担当しています。

令和7年4月1日現在



消防設備

【消防救急デジタル無線ネットワーク】



【基地局実装チャネル】 ○使用波 △予備波 - 保有なし

令和7年4月1日現在

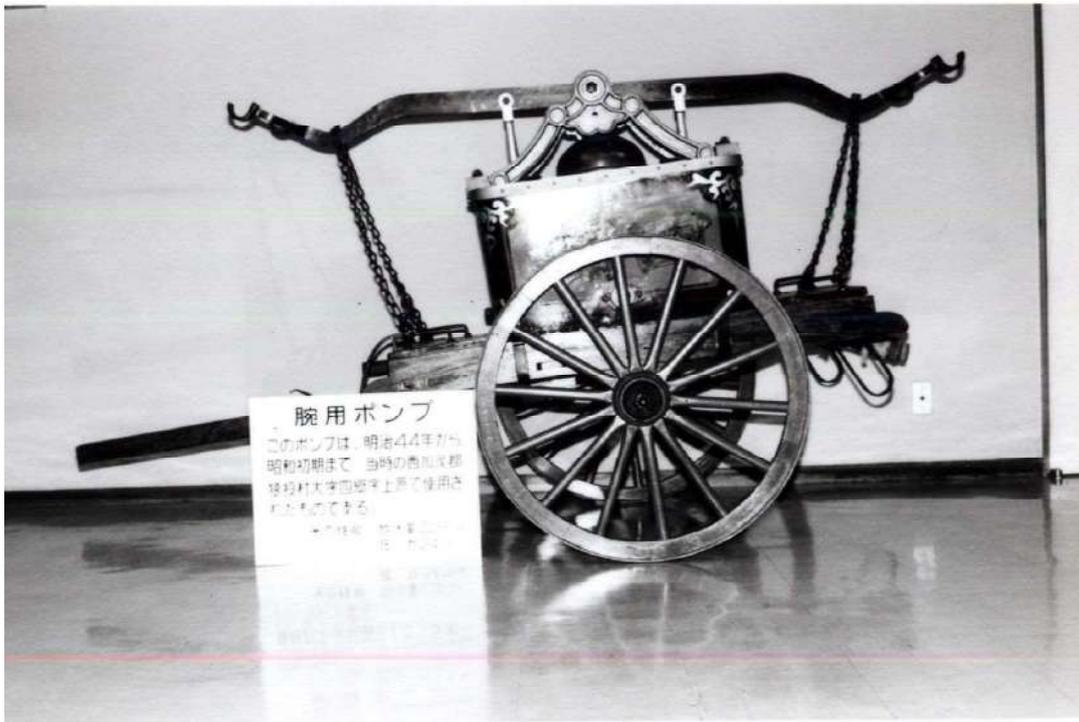
ch	消防本部基地局	松平基地局	蚕霊山基地局	八幡山基地局	羽布基地局	篠原基地局	池田山基地局	立野基地局
活動波 1 ch	○	-	△	○	○	-	-	-
活動波 2 ch	△	-	○	-	-	-	-	○
活動波 3 ch	△	○	△	-	-	○	○	-
活動波 4 ch	○	-	△	○	○	-	-	-
活動波 5 ch	△	-	○	-	-	-	-	○
活動波 6 ch	△	○	△	-	-	○	○	-
活動波 7 ch	○	○	○	○	○	○	○	○
主 運 用 波	○	○	○	○	○	○	○	○
統制波 1～3	○	-	-	-	○	-	○	○

【無線局数】

令和7年4月1日現在

無線局種類 設置場所	車載型移動局		携帯型移動局	卓上型移動局	可搬型移動局	署活動用無線局
	(5W)	(10W)	(1W)	(5W)	(5W)	(400MHz)
消 防 本 部	6		10		3	4
北 消 防 署	13		14	1	1	36
藤岡小原分署	4		4	1		18
保見出張所	3		3	1		10
力石出張所	3		3	1		10
中 消 防 署	14		15	1	1	38
東 分 署	4		4	1		18
逢妻分署	4		4	1		16
松平出張所	3		3	1		10
南 消 防 署	11		12	1	1	36
西 分 署	4		4	1		18
末野原分署	4		4	1		18
高岡出張所	3		3	1		10
足助消防署	11	1	12	1	1	26
旭出張所	4		4	1		14
稲武出張所	4		4	1		14
下山出張所	4		4	1		14

Ⅲ. 火災



腕用ポンプ

◆ 火災発生状況

令和6年の出火件数は113件で、4人の死者と13人の負傷者が発生し、34世帯が「り災」しました。また、これらの火災で焼損した財産等は、建物67棟、建物焼損床面積1,980㎡、林野焼損面積33a、車両は12台で、その損害額は3億7,951万6千円となっています。

前年に比べて出火件数は26件減少し、損害額は1億6,853万7千円増加しました。また、死者数は増減なしとなっています。

● 火災発生状況

区 分		令和6年(A)	令和5年(B)	増減(C):(A)-(B)
出火件数	(件)	113	139	△26
建物火災		54	52	2
林野火災		4	4	
車両火災		11	16	△5
その他の火災		44	67	△23
焼損棟数	(棟)	67	65	2
建物焼損床面積	(㎡)	1,980	1,951	29
建物焼損表面積	(㎡)	211	73	138
車両焼損数	(台)	12	18	△6
林野焼損面積	(a)	33	102	△69
死者	(人)	4	4	
負傷者	(人)	13	13	
り災世帯数	(世帯)	34	30	4
り災人員	(人)	89	66	23
出火率	(件/万人)	2.7	3.3	△0.6
損害額	(千円)	379,516	210,979	168,537
建物火災		316,832	200,705	116,127
林野火災				
車両火災		62,275	5,684	56,591
その他火災		409	4,590	△4,181
主な出火原因 (件)	たき火	16	25	△9
	たばこ	9	7	2
	火入れ	8	11	△3
	放火の疑い	6	11	△5
	こんろ	3	2	1
	放火	4	8	△4
	ストーブ	2	4	△2

* △は負数を表す

* 出火率とは、人口1万人あたりの出火件数（人口は、該当年4月1日現在の住民基本台帳による。）

* 令和7年4月1日現在の火災発生状況（調査結果により各数値が変わることがあります。）

◆ 出火件数及び損害額等

平成27年から10年間の出火件数の推移をみると、152件を記録した平成27年から減少傾向となっており、令和6年中の出火件数は113件で、前年に比べ26件（18.7%）減少しました。また、火災による死者数は同数の4人となっています。

火災による損害額は、前年より1億6,853万7千円増加の3億7,951万6千円となっています。

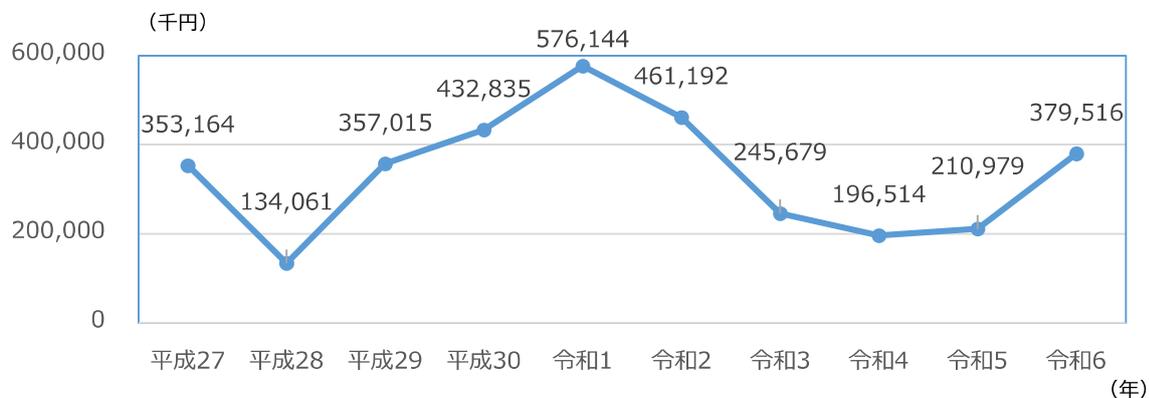
火災の件数の推移



死者数の推移



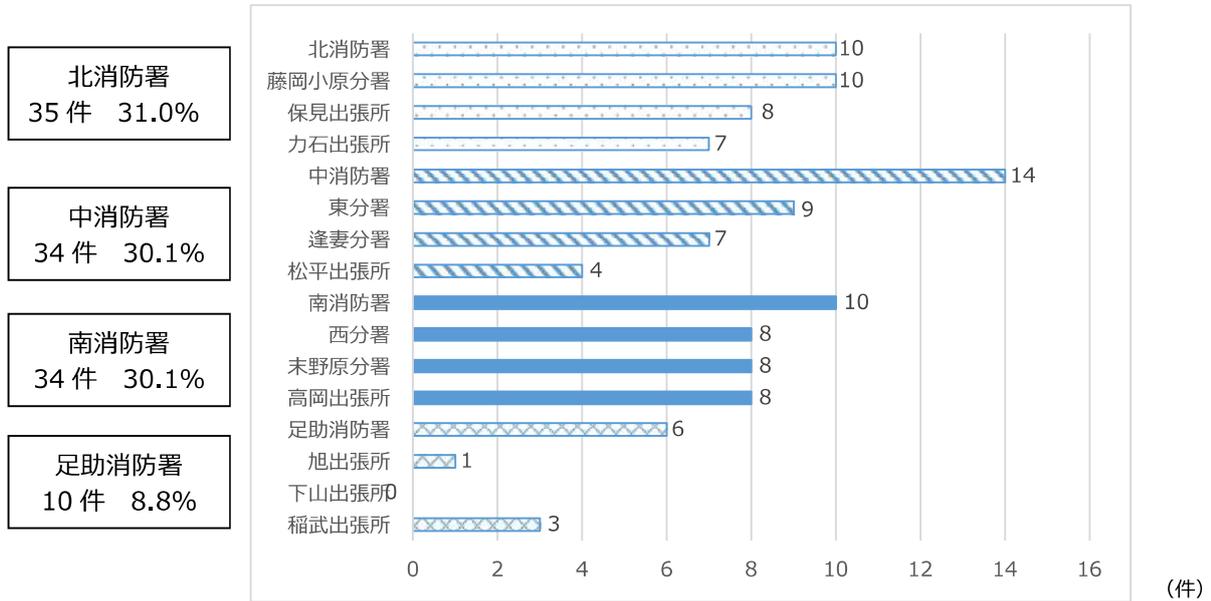
損害額の推移



◆ 署所別出火件数

署所別出火件数

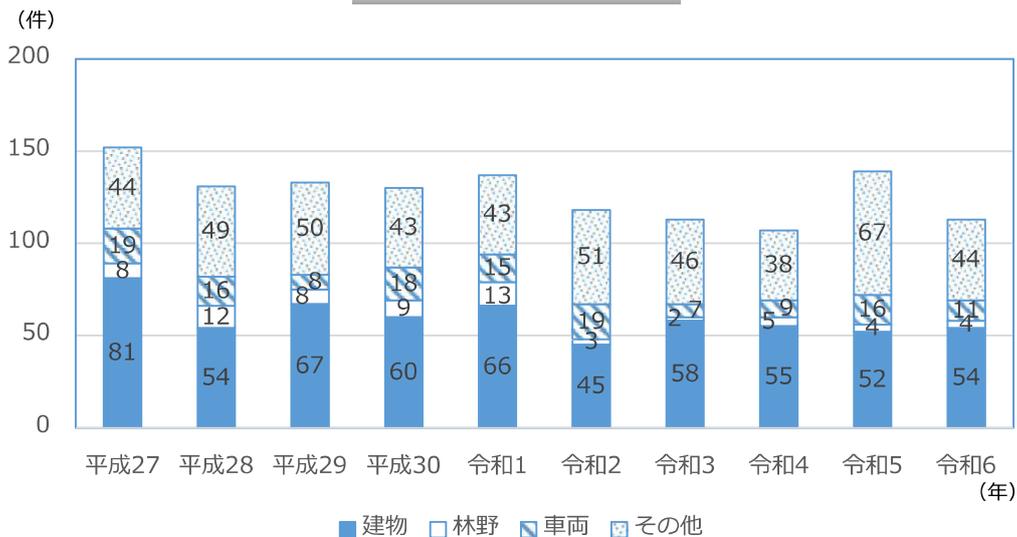
合計 113件



◆ 火災種別出火件数

火災種別で見ると建物火災が54件と前年(52件)に比べ2件増加、林野火災が4件と前年(4件)と比べ増減なし、車両火災が11件と前年(16件)に比べ5件減少、その他の火災が44件と前年(67件)に比べ23件減少しました。

火災種別出火件数



◆ 四季別出火件数

令和6年中の出火件数を四季別にみると、冬季に多く火災が発生しており、損害額は秋季に多く62.2%を占めています。

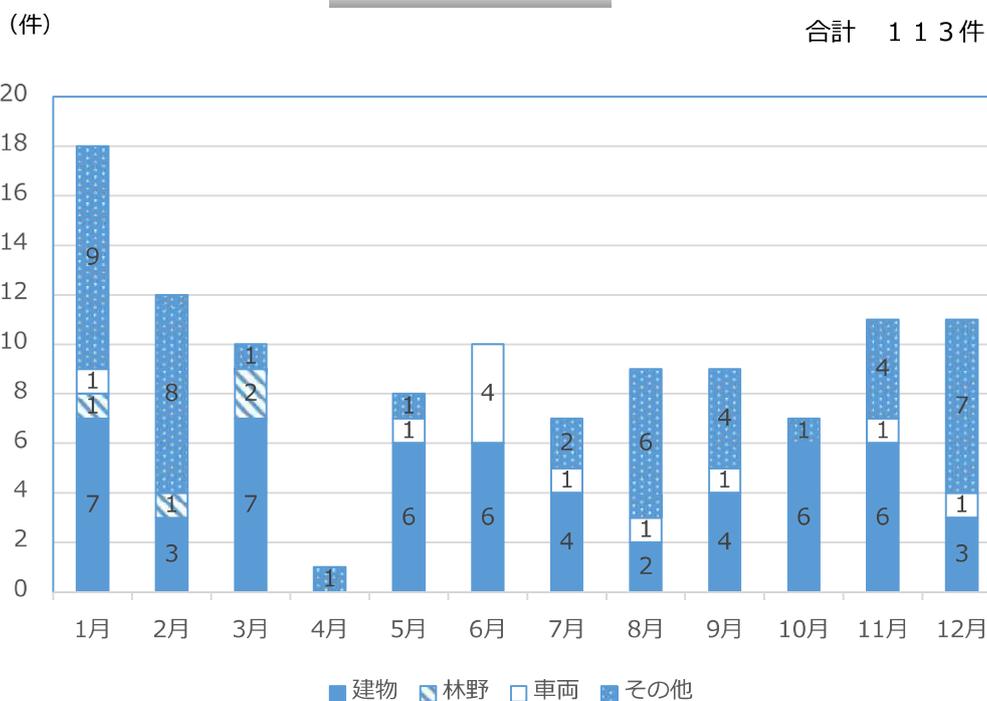
● 四季別出火件数

年別 季別	令和6年				令和5年			
	出火件数 (件)	構成比	損害額 (千円)	構成比	出火件数 (件)	構成比	損害額 (千円)	構成比
春季(3月~5月)	19	16.8%	15,837	4.2%	36	25.9%	31,001	14.7%
夏季(6月~8月)	26	23.0%	33,202	8.7%	31	22.3%	16,346	7.7%
秋季(9月~11月)	27	23.9%	236,117	62.2%	21	15.1%	141,352	67.0%
冬季(12月~2月)	41	36.3%	94,360	24.9%	51	36.7%	22,280	10.6%
合計	113	100.0%	379,516	100.0%	139	100.0%	210,979	100.0%

◆ 月別出火件数

令和6年中の月別出火件数は、1月が最も多く18件で、最も少ない月は4月で1件となっています。

月別出火件数

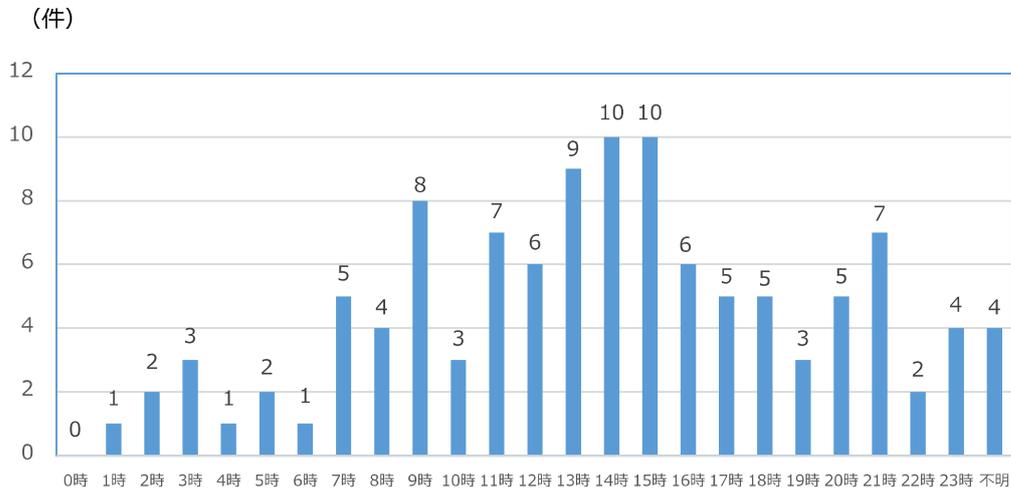


◆ 時間別出火件数

令和6年中の時間別出火件数は、14時台及び15時台に多く発生しています。

時間別出火件数

合計 113件

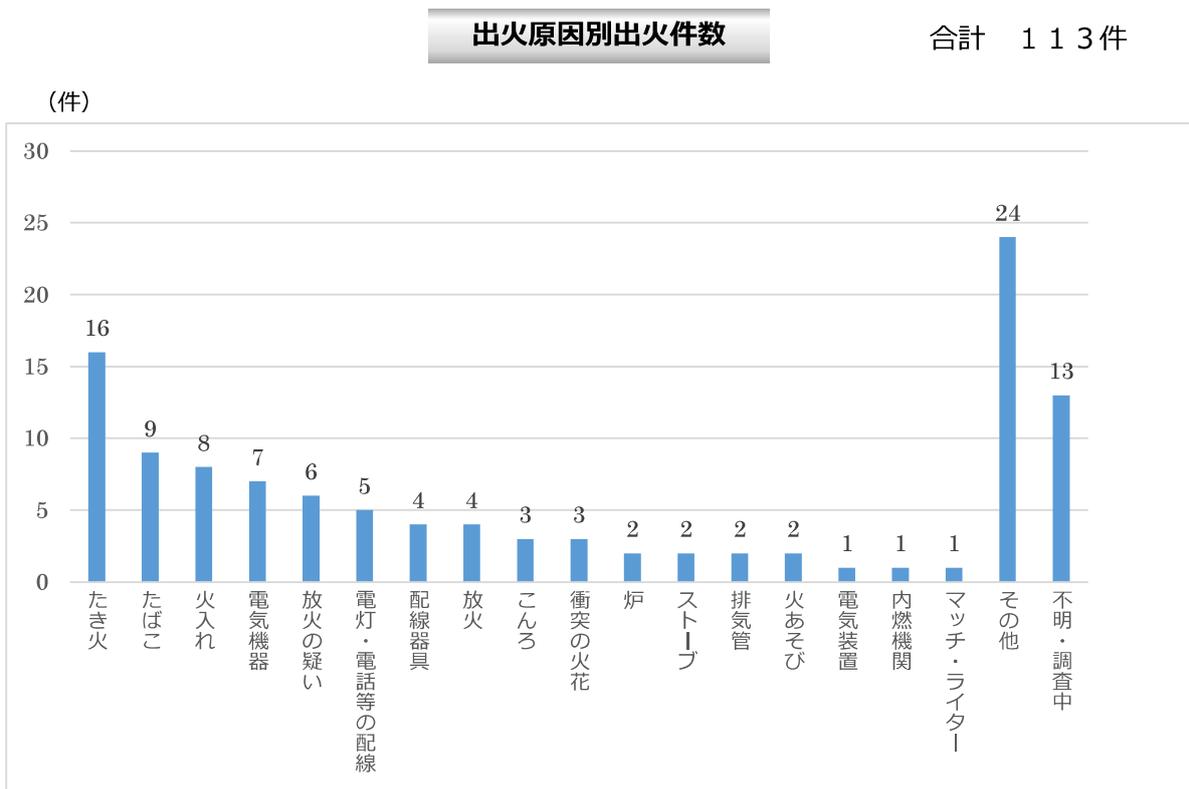


◆ 出火原因別出火件数等

下のグラフと表は、出火原因別の出火件数と損害額を表したものです。

令和6年中の出火件数113件のうち、その他が24件で最も多く、次いでたき火が16件、たばこが9件の順となっています。

主な出火原因別の損害額をみると、衝突の火花が57,825千円と最も多く、次いでその他が32,193千円、電灯・電話等の配線が28,996千円の順となっています。



● 主な出火原因別の火災による損害額

原因分類名	損害額 (千円)	原因分類名	損害額 (千円)
衝突の火花	57,825	火入れ	509
電灯・電話等の配線	28,996	ストーブ	447
たばこ	14,951	内燃機関	250
電機機器	12,655	放火の疑い	127
放火	5,932	たき火	87
炉	3,053	電機装置	1
排気管	2,889	火あそび	1
こんろ	1,679	その他	32,193
配線器具	1,168	不明・調査中	216,753

◆ 発火源別出火状況

● 建物火災の主な出火原因と経過

建物火災の主な出火原因は、電気機器が6件と最も多く、次いでたばこが5件、電灯・電話等の配線が4件となっています。

主な経過又は発火源をみると、電気に起因する火災が多くなっています。

主な出火原因	電気機器	6	たばこ	5	電灯・電話等の配線	4
主な経過 又は 発火源	蓄電池 過多の電流を流す	1	不適当なところに捨て置く	2	器具付きコード 電線が短絡する	2
	蓄電池 金属の接触部が過熱する	1	火源が転倒落下する	2	屋内配線 電線が短絡する	1
	蓄電池 漏電（地絡）する	1	火源が動いて接触する	1	その他の配線 電線が短絡する	1
	充電式電池 不明	1				
	その他の電気機器 放置する、忘れる	1				
	不明	1				

* 4件以上のものを計上（その他、不明・調査中及び3件以下は39件）

● 林野火災の主な出火原因と経過

林野火災の出火原因は、たき火が3件、次いでその他が1件となっています。

主な出火原因	たき火	3	その他	1
主な経過又は発火源	火源が動いて接触する	3	残り火の処理が不十分	1

● 車両火災の主な出火原因と経過

車両火災の出火原因は、衝突の火花が3件、排気管が2件及びその他が2件となっています。

主な出火原因	衝突の火花	3	排気管	2	その他	2
主な経過 又は 発火源	車体等の衝撃火花引火する	1	過熱する	1	交通機関内配線（その他）電線が短絡する	1
	車体等の衝撃火花衝突により発火	1	高温物が触れる	1	高温気体—排気管可燃物が動いて火源に触れる	1
	車両と路面との火花 着火物が漏洩する	1				

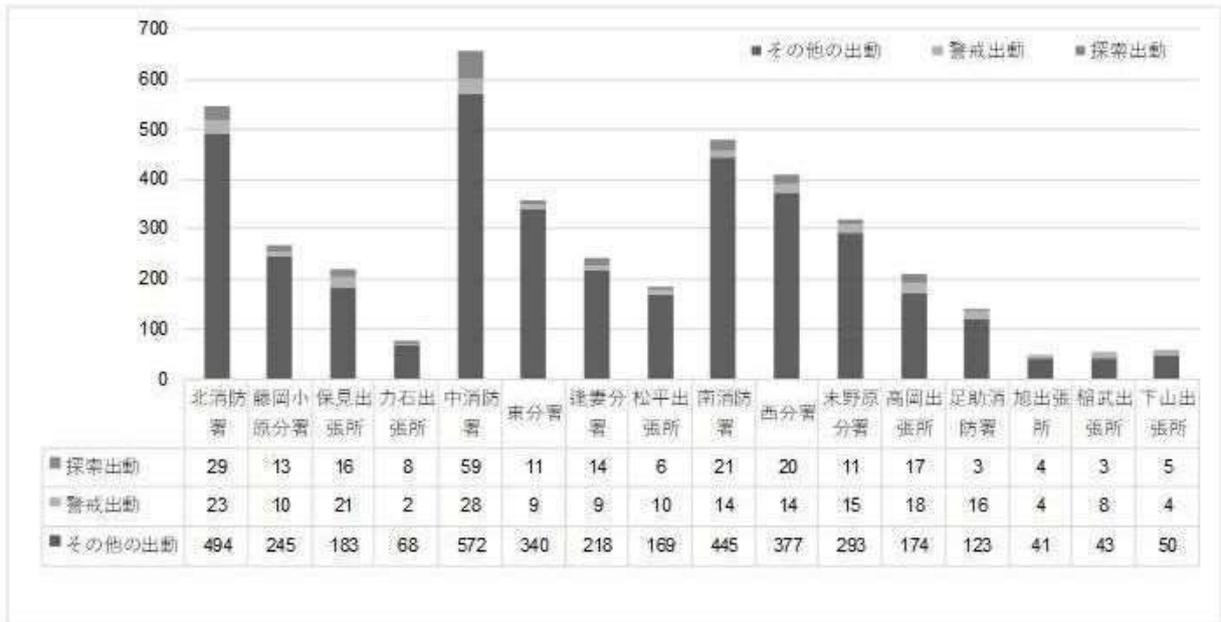
* 2件以上のものを計上（不明・調査中及び1件以下は4件）

◆ その他の出動件数

署所別その他の出動件数

合計 4,280件

(件)

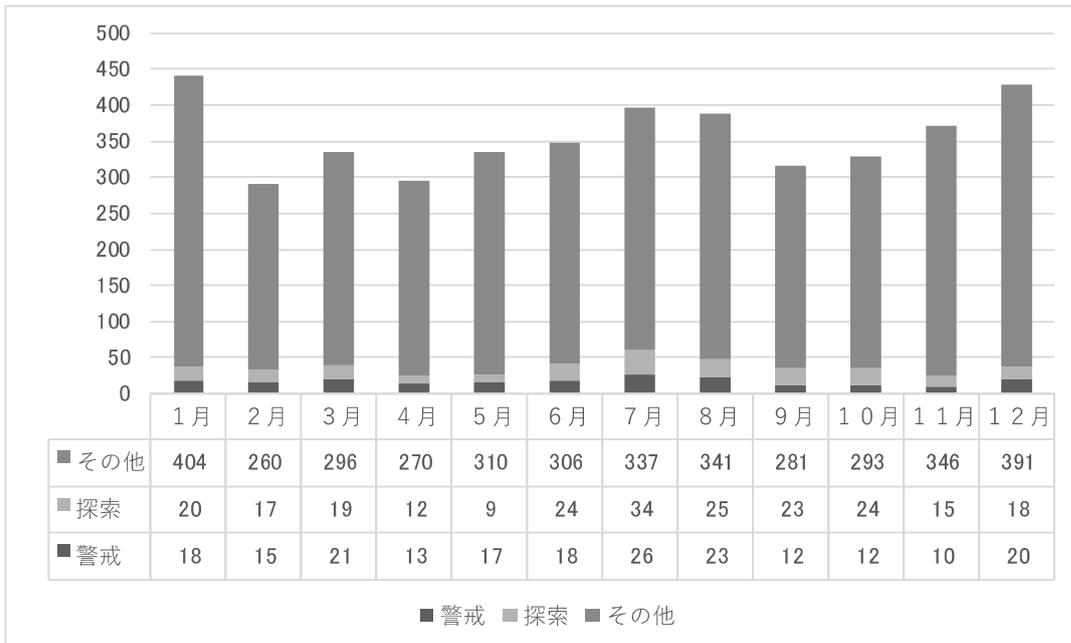


警戒：危険物等の漏洩、流出その他の火災が発生するおそれのある場合の出動
 探索：火災と認めることが困難な火煙の発生等による出動
 その他：火災、救急、救助や上記に掲げる出動以外

月別その他の出動件数

合計 4,280 件

(件)



IV. 救急・救助



多数傷病者救急対応訓練

◆ 救急体制

当市では、救急需要に応えるため、全消防署所に高規格救急自動車を導入するとともに、令和6年4月1日から平日の昼間に活動する日勤救急隊を新設しました。救急隊員及び救急救命士の養成を行い、より高度な救急業務が行える体制を構築しています。

令和7年4月1日現在、155人の救急救命士のうち、アドレナリン投与の処置ができる者154人、気管挿管の処置ができる者42人、心肺機能停止前の輸液及び低血糖発作症例に対するブドウ糖溶液の投与の処置ができる者143人が県の認定を受けて活動しています（資格の重複有）。

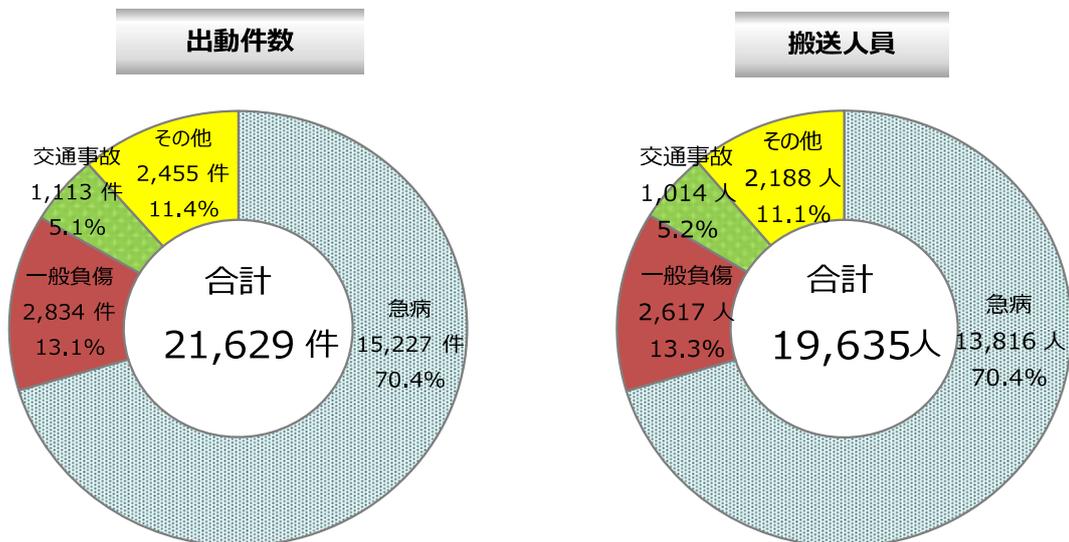
また、救命率の向上のために、平成29年度から次代を担う小中学生にも応急手当の受講機会を拡大して、少年期から応急手当に慣れ親しむ環境作りを推進しています。

救急車においては、傷病者の症状や状態を医師に的確に伝え、病院到着前に医師から適切な指示を得るため、画像や映像などを市内の4病院*に送信することのできるアプリケーションを導入しています（*豊田厚生病院、トヨタ記念病院、豊田地域医療センター、足助病院の市内4病院）。

さらに、豊田加茂医師会、豊田厚生病院、トヨタ記念病院と協定を結び、ドクターカー研修を実施することで、救急と医療の連携強化を図り、安全で住みよいまちになるよう推進しています。

◆ 救急出動件数・搬送人員

令和6年中における救急出動件数は21,629件で、1日平均約59件でした。このうち、医療機関に搬送された人員は19,635人で、市民約21人に1人の割合で救急車を利用したことになります。前年と比較し、出動件数が93件（約0.4%）、搬送人員が167人（約0.8%）減少しました。



*小数点第2位を四捨五入して表記しているため、合計が100%にならない場合がある。

● その他の内訳

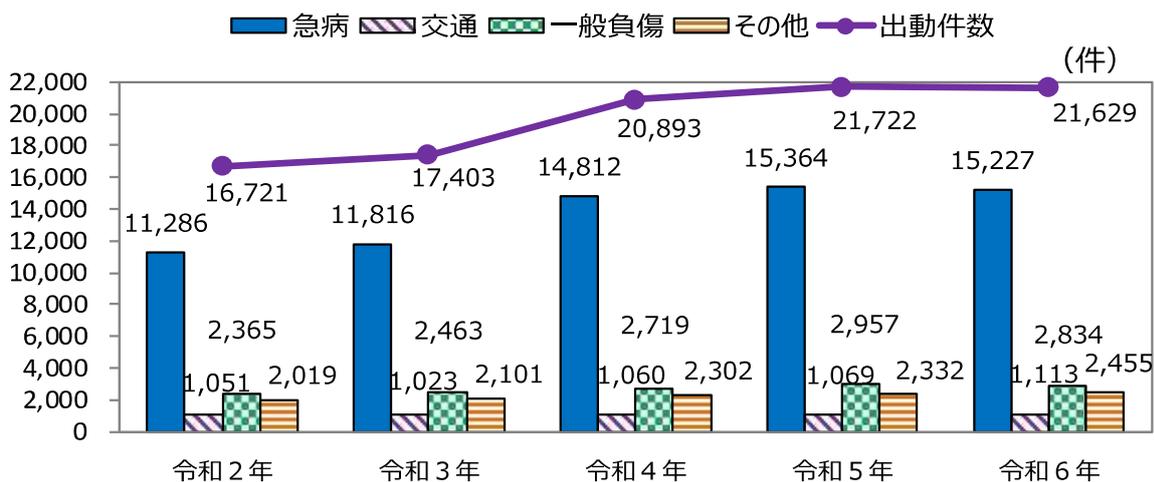
	火災	自然災害	水難	労働災害	運動競技	加害	自損行為	その他	合計
出動件数	69		7	175	115	40	164	1,885	2,455 件
搬送人員	11			171	109	29	106	1,762	2,188 人

◆ 救急事故種別件数

下のグラフは、救急事故種別件数の推移を表したものです。
 令和6年は、前年と比較して93件減少し、21,629件でした。

救急事故種別件数の推移

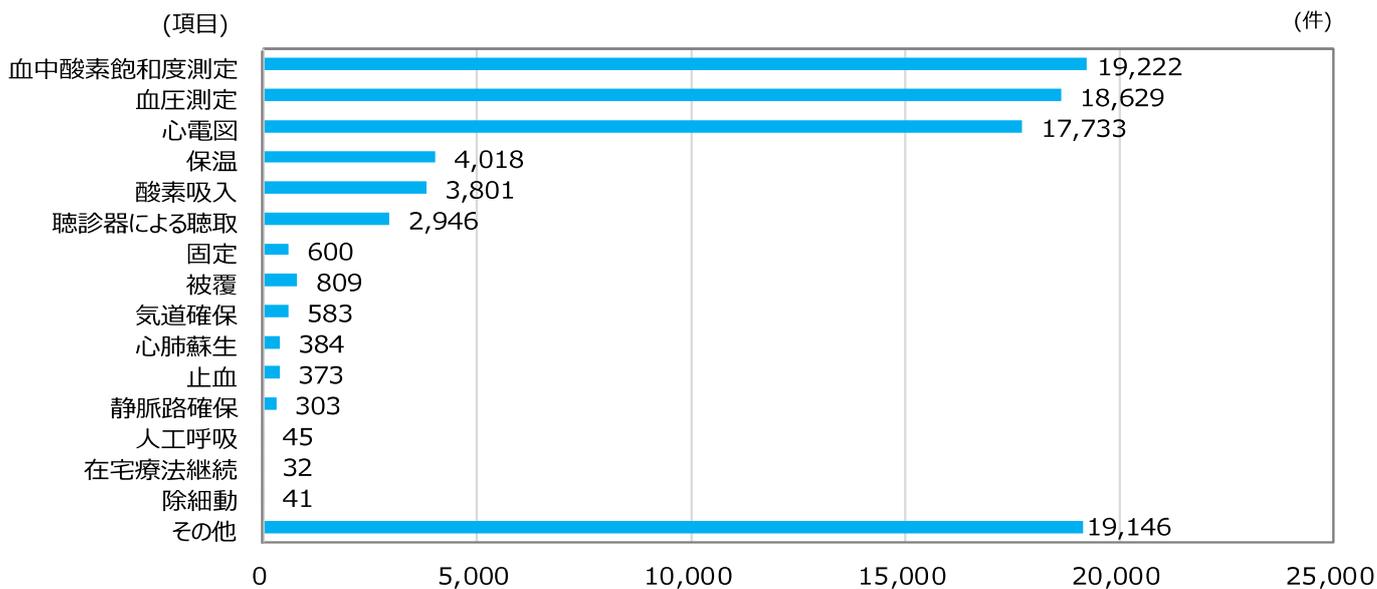
合計 21,629 件



◆ 救急隊員応急処置実施項目

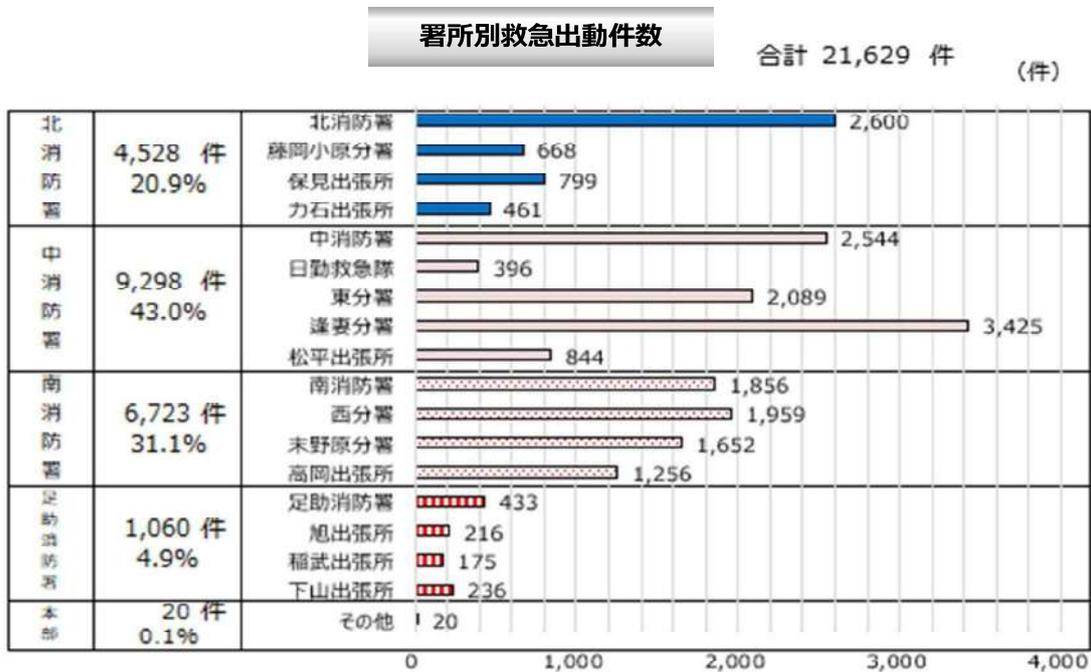
下のグラフは、救急隊員が行った応急処置の内容を表したものです。
 傷病者の症状をより詳しく観察するため、血中酸素飽和度測定、血圧測定、心電図等が多く行われています。

応急処置実施項目



◆ 署所別救急出動件数

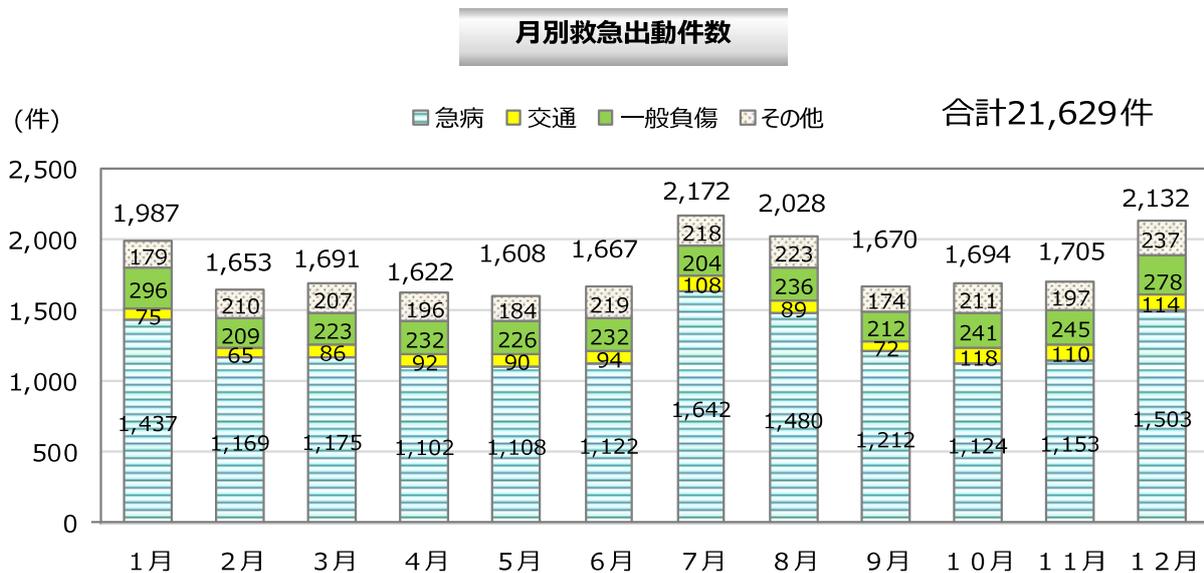
下のグラフは、救急出動状況を署所別に分類したものです。
人口分布の多い地域を管轄する中・南消防署で全体の7割以上を占めています。



*小数点第2位を四捨五入して表記しているため、合計が100%にならない場合がある。

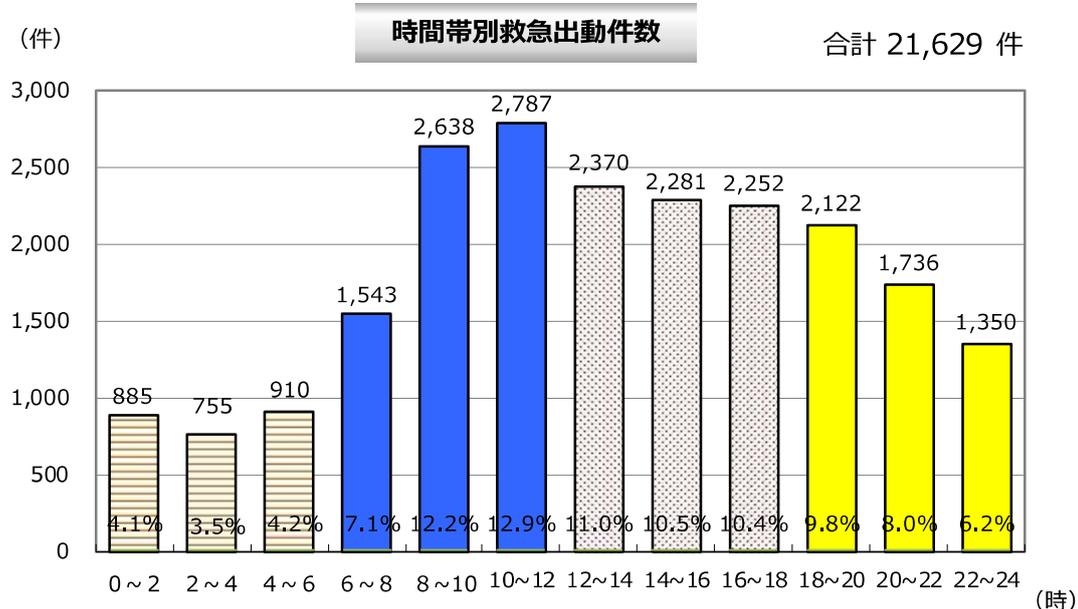
◆ 月別救急出動件数

下のグラフは、救急出動状況を月別に比較したものです。
月別の出動件数全体では、7月が最も多く、次いで12月が多くなっています。



◆ 時間帯別救急出動件数

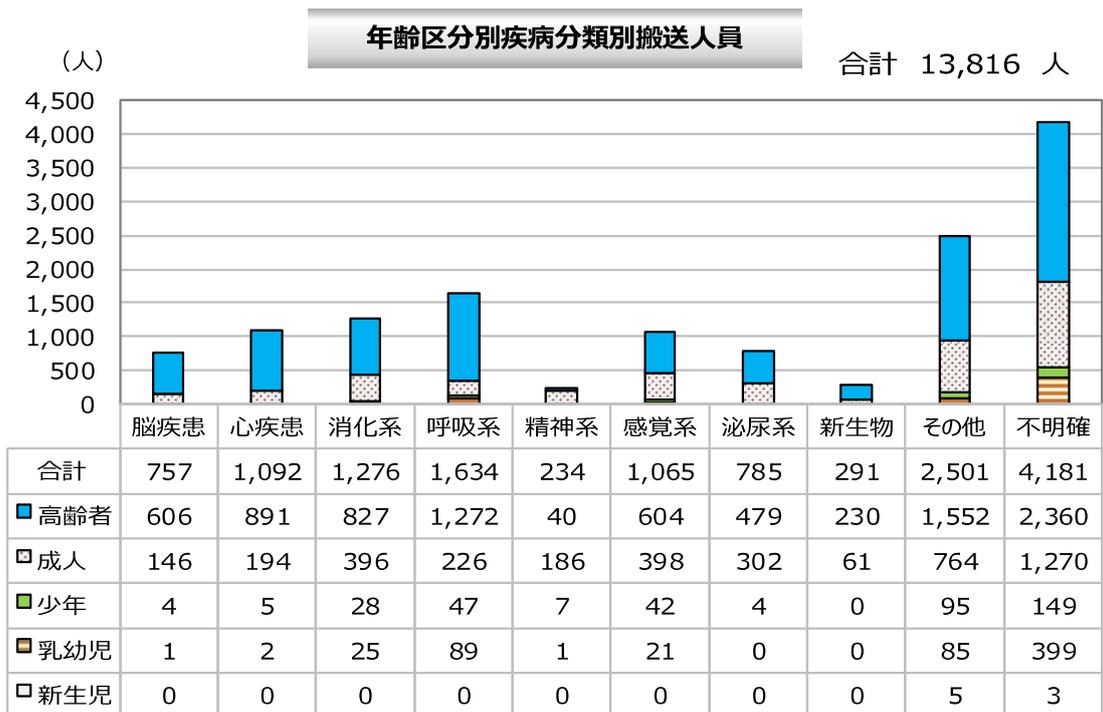
下のグラフは、救急出動状況を時間別に表したものです。
救急出動は、午前8時から正午までの時間帯に多く発生しています。



* 小数点第2位を四捨五入して表記しているため、合計が100%にならない場合がある。

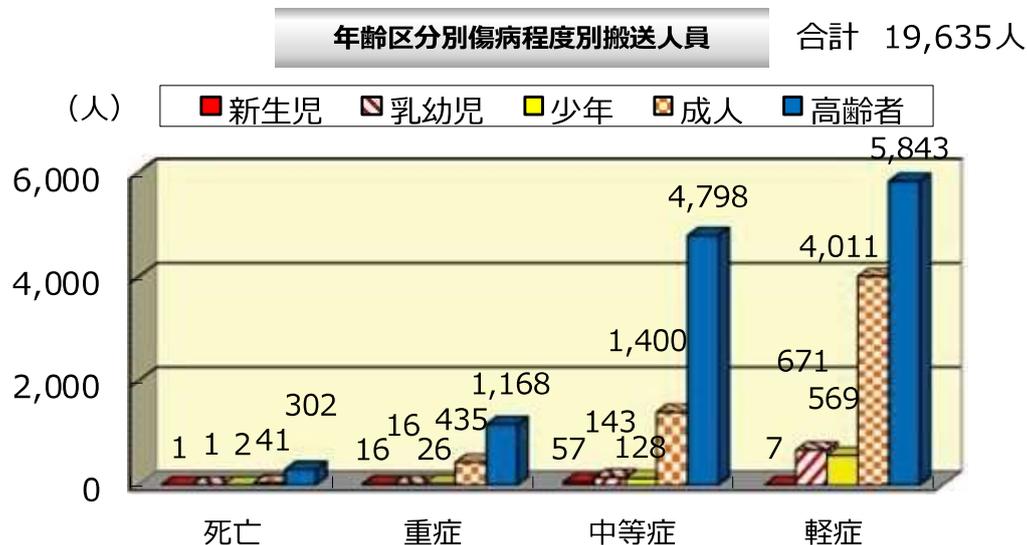
◆ 年齢区分別疾病分類別搬送人員

下のグラフは、急病で搬送した傷病者を年齢区分別及び疾病分類別に表したものです。
呼吸系、消化系、心疾患が多くなっています。



◆ 年齢区分別傷病程度別搬送人員

下のグラフは、搬送人員を年齢区分別及び傷病程度別に表したものです。
死亡、重症、中等症及び軽症ともに、高齢者の割合が高くなっています。



◆ 応急手当普及指導講習実施回数

● 講習実施状況

種別	年度	実施数等	令和5年	令和6年
			回数	639
救命入門コース	回数		17,100	19,042
	受講者数		4,973	7,001
普通救命講習 (Ⅰ)	回数		1	0
	受講者数		21	0
普通救命講習 (Ⅱ)	回数		9	11
	受講者数		241	264
普通救命講習 (Ⅲ)	回数		5	7
	受講者数		101	133
上級救命講習	回数		7	10
	受講者数		107	166
応急手当普及員講習	回数		9	12
	受講者数		155	255
応急手当普及員再講習	回数		1,104	1,401
	受講者数		22,698	26,861
合計				

救命入門コース：心肺蘇生、AED 講習

普通救命講習 (Ⅰ) (Ⅱ)：心肺蘇生 (主に成人を対象)、AED 使用方法、止血法

普通救命講習 (Ⅲ)：心肺蘇生法 (主に小児、乳児、新生児を対象)、AED 使用方法、止血法

上級救命講習：心肺蘇生法、AED 使用方法、止血法、傷病者管理法、外傷手当要領、搬送法

応急手当普及員講習：救命に必要な基礎知識・医学、応急手当の指導要領

応急手当普及員再講習：応急手当に関する指導要領の再講習

◆ 救助体制

当市の救助隊は、法的に設置が義務付けられる以前の昭和54年に特別消防隊として設置され、徐々に装備の充実を図りながら多くの救助活動を実施してきました。

現在は、中消防署（Ⅲ型）並びに北消防署、南消防署及び足助消防署（Ⅱ型各1台）の4署に救助工作車を配置し、救助隊を編成しています。また、中消防署については、大規模災害や特殊な事故に対応するため、平成21年4月1日から高度救助隊（SRT：スーパーレスキュー豊田）を編成して運用しています。

◆ 緊急消防援助隊

平成7年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」を教訓とし、全国の消防機関相互の迅速な応援救助体制の確立を目的に、国内で発生した地震などの大規模災害に対処するため、平成7年6月に「緊急消防援助隊」が発足しました。

当市は、令和7年4月1日現在で愛知県大隊指揮隊1隊、救助小隊2隊等、計19隊を登録しています。

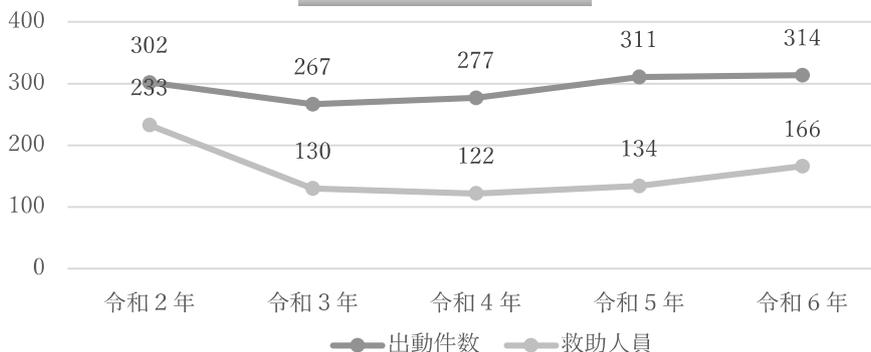
豊田市の出動実績

	災害発生年月日	災害名	出動隊数	出動人数
①	2004年7月18日	平成16年7月福井豪雨	1隊	6人
②	2011年3月11日	東日本大震災	40隊	154人
③	2014年9月27日	御嶽山噴火災害	2隊	10人
④	2018年7月6日	平成30年7月豪雨	2隊	8人
⑤	2021年7月3日	静岡県熱海市土石流災害	6隊	30人
⑥	2024年1月1日	令和6年能登半島地震	28隊	119人
⑦	2024年9月27日	令和6年奥能登豪雨災害	5隊	16人

◆ 救助出動状況

令和6年中の救助出動件数は、314件で、うち183件の救助活動を行い、166人を救助しました。災害別の出動件数は、交通事故が54件で全体の約17%を占めています。

救助出動状況の推移



災害別救助出動状況



V. 火災予防対策



◆ 火災予防

消防の任務には、消火・救急・救助のほか、市民及び事業者が、自ら生命及び財産を守るための予防活動を実践できるように、防火・防災思想を普及啓発することも含まれます。当市では、防火に関するイベントやマスメディアを活用した住宅防火対策のPR、事業所における自主防火管理を目的とした防火・防災管理者の育成指導、地震による被害を軽減するための防災指導などを行い、「災害に強いまちづくり」を目指しています。

◆ 住宅防火対策

住宅防火対策では火災の発生状況を分析し、火災件数と火災に伴う被害の低減に向けた施策を推進することが重要です。当市では、住宅火災を減らし、火災による死者を無くすため、住宅用火災警報器をはじめとした住宅用防災機器の設置促進、高齢者への防火講座及び防火広報等を防火危険物安全協会等の関係団体と協力して行っています。

◆ 広報活動

市民が火災予防に関する知識を深め、火災が発生した場合の対応を誰もが行うことができるように、秋・春の火災予防運動をはじめ、イベント、講座、マスメディア等を活用した防火PR等の幅広い広報活動を行っています。

過去の災害を教訓に、災害がいつ起こってもおかしくないことや備えの必要性を伝え、いざという時、子どもたちが自発的、主体的に判断し、行動できる力を養うための防火広報に力を入れています。

● 令和6年度の主な行事・講座等実施状況

実施日	イベント名	場所	参加人員
7月31日	少年消防クラブ 消防学校一日入校	愛知県消防学校	9人
8月1日～ 9月8日	夏の防災企画展開催 豊田市防災学習センター「サマー・フェス」	防災学習センター	5,532人
9月5日	少年消防クラブ 防災キャンプ	道慈小学校	86人
9月21日	第29回消防こども写生大会	消防本部・中消防署	440人
11月2日	第29回消防こども写生大会表彰式・ 一日消防長委嘱式・街頭防火宣伝	イオンスタイル豊田	551人
11月1日～ 11月30日	秋の火災予防運動企画展開催 「オータムフェア2024」	防災学習センター	2,132人
1月11日	とよた消防フェスタ	豊田スタジアム	2,750人
3月1日～ 3月30日	春の火災予防運動週間 企画展 「スプリングフェア2025」	防災学習センター	1,727人

●令和6年度のマスメディアを利用したPR状況

報道機関	項目
広報とよた	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ふれあいコンサート ・第29回消防こども写生大会 ・とよた消防フェスタ
新聞報道	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ふれあいコンサート ・夏の防災企画展 豊田市防災学習センター「サマー・フェス」 ・敬老の日 幼年消防クラブ ・消火競技会 ・秋の火災予防運動企画展開催「オータムフェア2024」 ・廃棄消防用ホースで制作 豊田市消防オリジナル「消防ホース御守り」を販売 ・とよた消防フェスタ ・令和6年における火災発生状況の速報値 ・春の火災予防運動習慣 企画展「スプリングフェア2025」 ・高齢者等に向けた住宅用火災警報器取付け等支援事業を開始します
ラジオ	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の防災企画展 豊田市防災学習センター「サマー・フェス」 ・第29回消防こども写生大会 ・秋の火災予防運動企画展開催「オータムフェア2024」 ・街頭防火宣伝&写生大会表彰式 ・とよた消防フェスタ ・令和6年における火災発生状況の速報値 ・春の火災予防運動週間 企画展「スプリングフェア2025」 ・高齢者等に向けた住宅用火災警報器取付け等支援事業を開始します
T V 等 (ケーブルテレビ含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の防災企画展 豊田市防災学習センター「サマー・フェス」 ・消火競技会 ・秋の火災予防運動企画展開催「オータムフェア2024」 ・街頭防火宣伝&写生大会表彰式 ・豊田市消防オリジナル「消防ホース御守り」を販売 ・とよた消防フェスタ ・春の火災予防運動週間 企画展「スプリングフェア2025」

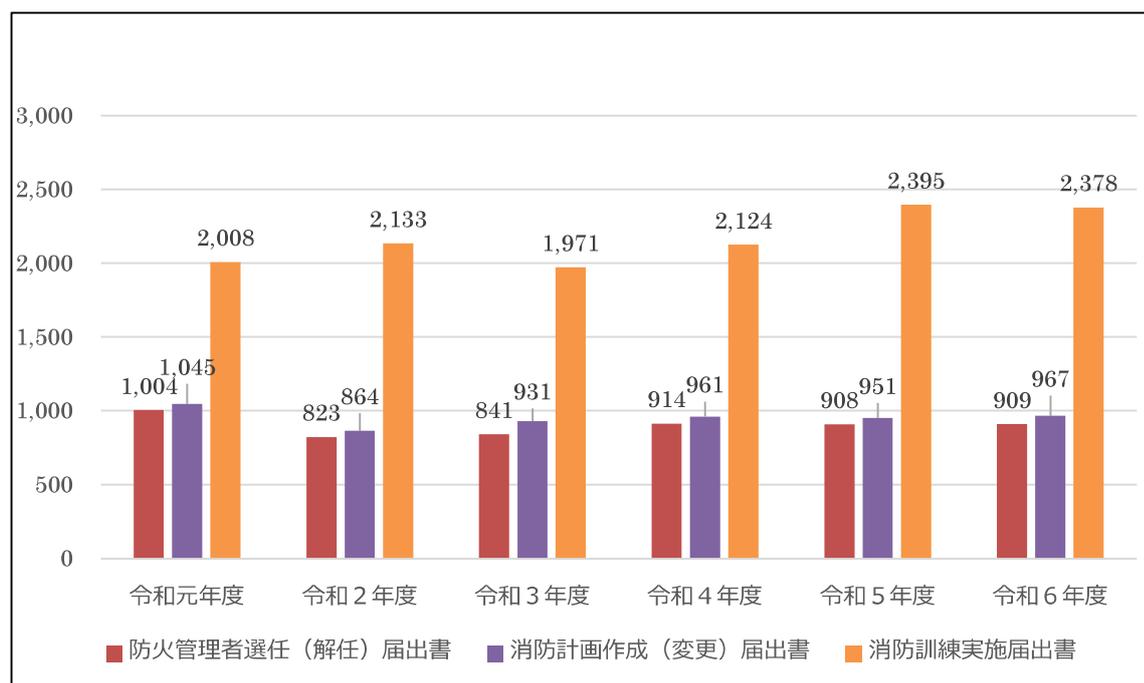
◆ 防火管理者

工場、百貨店、病院等の多数の人が出入りする事業所の管理について権原を有する者（以下、「管理権原者」という。）は防火管理者を選任し、火災の発生の防止と火災が発生した場合の被害の抑制を目的とした防火管理体制の充実を図る必要があります。

防火管理者は、管理権原者の指示を受けて消防計画を作成します。消防計画は当該事業所における防火管理業務の基本方針となるため、内容には自衛消防隊の編成、従業員をはじめとする関係者への教育や訓練の指導方法等、実効性が必要とされます。

防火管理者に係る届出数の推移

(件)



◆ 自衛消防訓練

「自分の職場は自分で守る」自主防火管理の基本精神では、火災等の災害が発生した場合、その被害を最小限に抑えるために、消防計画によって編成された自衛消防の組織が、消火、避難誘導、通報、救護といった自衛消防活動を迅速・円滑に行う必要があります。

災害の初期段階における対応は、被害を最小限にするために大変重要です。自衛消防の組織はどのような状況下でも、人員と資機材を有効に活用した組織的な対応ができるように、防火管理者を中心として繰り返し教育・訓練を実施しなければなりません。

当市では、防火管理者及び事業者の要望に応じて、消防訓練の指導を実施しています。自衛消防訓練を客観的に見て、どのようにすれば災害発生時に効果的な組織活動が行えるか、検証を行っています。

◆ 防災管理者

南
海

トラフ地震の切迫性が指摘されており、大規模地震に対する災害対応力の強化を図ることが重要な課題となっています。大規模・高層建築物等における地震等の災害による被害の軽減を図るため、自衛消防組織の設置と防災管理者を選任する制度があります。

第29回消防こども写生大会（於：消防本部）



とよた消防フェスタ（於：豊田スタジアム）



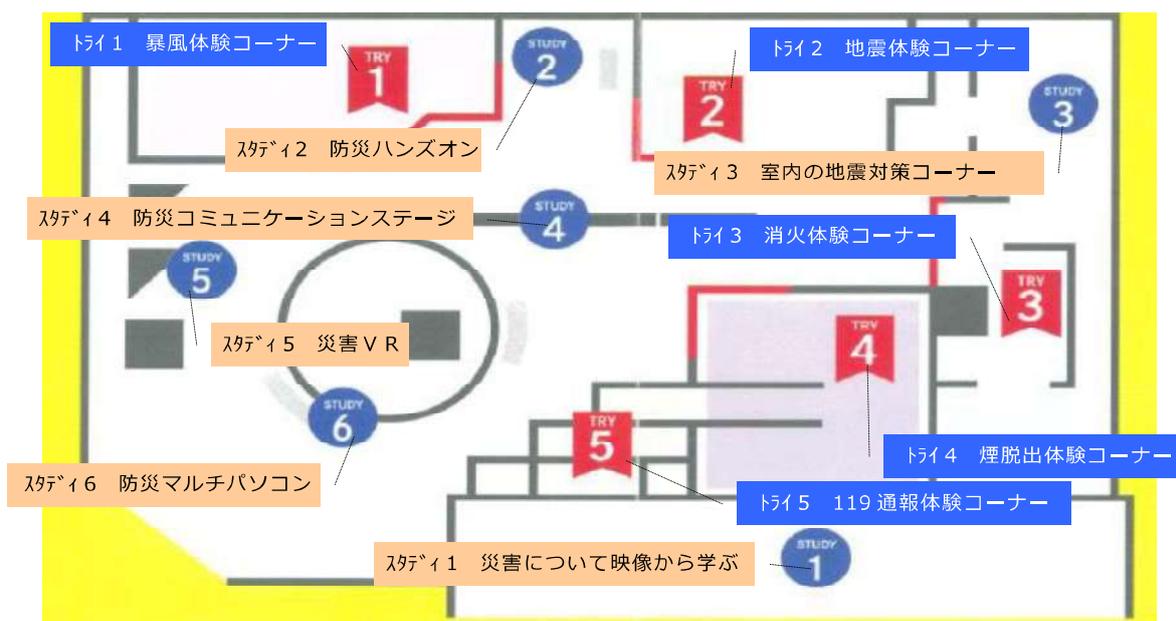
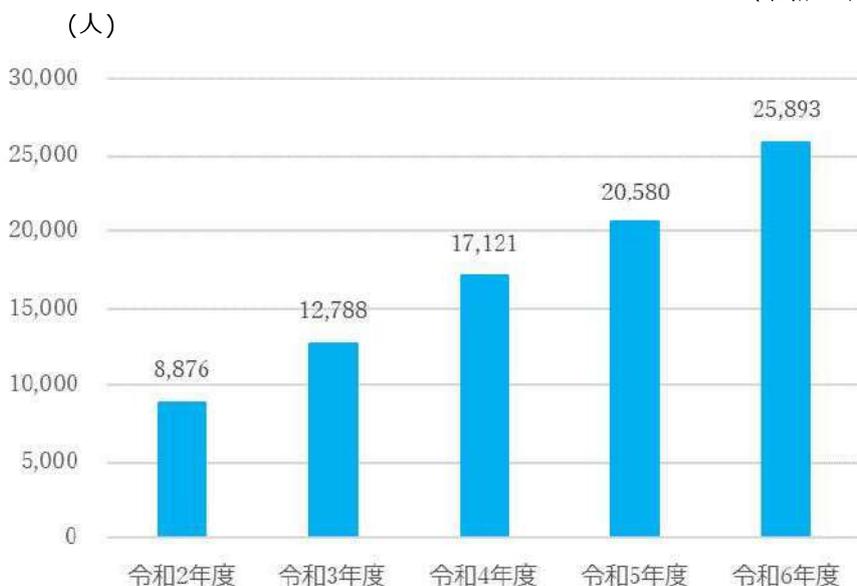
◆ 防災学習センター

火災又は地震を始めとする災害の未然防止及び災害による被害を軽減するために、市民防災教育の場として平成6年から消防本部1階に防災学習センターを併設しています。

「5つのトライと6つのスタディで防災力を身につけよう！」と題して楽しみながら防災知識を習得し、市民等への防災意識の高揚を図ることを目的に運用しています。

防災学習センター来館者の推移

総来館者数 669,955人
(令和7年4月1日現在)



●各コーナーの紹介

TRY 1 暴風体験コーナー



街中に吹き荒れる暴風の恐ろしさを体験できます。台風メカニズムや避難行動の種類やポイントが学べます。疑似雨体験も見物です。
※非常に強い風が吹くため、アクセサリー類や服装にご注意ください。

TRY 2 地震体験コーナー



学校・自宅・事務所、3場面の大型CG映像と連動するリアルな地震が体験できます。対処方法やメカニズムを学び、被災再現シーンで家具倒壊の怖さに気付きます。

TRY 3 消火体験コーナー



臨場感たっぷりの大型映像と消火器・消火栓を使って、ストーブ・天ぷら油・タバコ原因の消火体験ができます。消火の方法やポイントが学べます。小学4年生以上(年齢制限有)

TRY 4 煙脱出体験コーナー



煙の怖さや上手な避難のポイントが学べます。火災で停電したデパートと深夜の住宅火災を想定した音響・照明演出でリアルな脱出体験ができます。

TRY 5 119通報体験コーナー



携帯電話、公衆電話、家庭電話の通報のポイントが学べます。火災・交通事故・水難事故、3つの再現映像で臨場感のある体験ができます。

- STUDY 1 災害について映像から学ぶ**
水害や地震等の災害についてのDVDを視聴・貸出しています。
- STUDY 2 防災ハンズオン**
触って、試して、よくわかる実験模型を使って、建物の耐震や震度とマグニチュードの違いなどが楽しく理解できます。
- STUDY 3 室内の地震対策コーナー**
地震による家具などの転倒や移動、ガラスの飛散を防ぐグッズ、通電火災対策機器を紹介しています。
- STUDY 4 防災コミュニケーションステージ**
備蓄品や非常持出品、防災パンフレット、ハザードマップなどの実物資料の展示閲覧や災害避難情報の種類、自主防災組織について紹介しています。
- STUDY 5 災害VR**
VRゴーグルを装着し、災害を疑似体験することができます。
- STUDY 6 防災マルチパソコン**
パソコンで防災ノウハウがどれだけ身についたか、楽しいクイズで復習ができます。結果は、お持ちのスマートフォンでQRコードを読み取ることで終了証を表示することができます。

◆ 防火対象物数

消防は、防火対象物*に関する火災予防上の実態を具体的に把握し、それを基に災害の未然防止及び被害の軽減を図ります。そのため、定期的に防火対象物を立入検査し、避難経路又は消防用設備等の消防法令への適合状況を把握し、当該防火対象物の関係者に対して違反の是正又は防火に関する指導を行っています。

防火対象物は年々増加するとともに、建物も大規模化及び高層化し、用途及び構造も複雑になっています。当市では、防火対象物を査察対象物*（第1種から第3種）とその他の防火対象物に分類し、その規模及び危険性等に応じて立入検査を実施しています。

* 防火対象物・・・建築物その他の工作物又はこれらに属するもの等

* 査察対象物・・・防火対象物のうち計画的に査察を実施するものとして、消防長が別に定めるもの

● 消防署別防火対象物数

令和7年4月1日現在（棟）

消防署別 区分	北消防署	中消防署	南消防署	足助消防署	合計
第1種査察対象物	221	348	225	98	892
第2種査察対象物	778	635	1,519	137	3,069
第3種査察対象物	1,497	1,985	1,956	344	5,782
その他の防火対象物	1,557	2,096	2,092	348	6,093
計	4,053	5,064	5,792	927	15,836

1. 第1種査察対象物とは、特定防火対象物（百貨店、旅館、病院等の多数の者が出入するもの）で延べ面積 1,000 m²以上のもの、前記以外の防火対象物定期点検報告対象物及び表示制度対象物
2. 第2種査察対象物とは、上記1以外の防火対象物で延べ面積 700 m²以上のもの（共同住宅、学校等を除く）
3. 第3種査察対象物とは、上記1、2以外の防火対象物で防火管理者の選任義務又は自動火災報知設備等の設置義務があるもの等

◆ 消防用設備等の点検報告制度

消防用設備等は、いついかなる場合に火災が発生しても確実に作動するよう、日ごろの維持管理が十分に実施されていることが大切です。消防法では、防火対象物の関係者に対し、消防用設備等の定期的な点検だけでなく不備事項の整備を含め、適正な維持管理を行うことを義務付けています。

また、火災が発生した場合に人命に危険を及ぼす確率が高いものを特定防火対象物とし、それ以外の防火対象物と区分して消防本部へ報告する期間を定めています。

消防用設備等の点検を知識、技術の未熟な者が実施すると、効果が期待できないだけでなく、機能の低下が生じる可能性があります。そこで一定規模以上の防火対象物については、消防設備士又は消防設備点検資格者による点検が必要とされており、その他の防火対象物についても、これに準じて点検を行うよう指導しています。

◆ 防火対象物定期点検報告制度

この制度は、火災危険度が高い一定の用途、規模の防火対象物について、防火管理者の選任や消防計画の作成、避難施設や消防用設備等の維持管理等、防火管理の状況を毎年1回防火対象物点検資格者*に点検させ、その結果を消防機関に報告するものです。

点検の結果、防火対象物が点検基準に適合している場合には、その旨の表示をすることができます。

当市においても、市民が安心して防火対象物を利用できるように、関係者に対し、制度の理解と普及を呼びかけるとともに、適切な防火管理体制の構築を指導しています。



* 防火対象物点検資格者・・・火災予防に関する専門知識を有し、必要な講習等を修了した者

◆ 防災管理点検報告制度

南海トラフ地震等の大規模災害時には、火災と異なる対応が必要となるとともに、同時多発的に火災や建物倒壊からの救出事案が発生すると考えられることから、事業所における自助体制の確立が必要不可欠となります。

近年では多数の人が利用する大規模・高層化された防火対象物が増加しており、このような防火対象物では、地震等の災害時における消火活動、通報連絡、避難誘導、救出・救護について、より高度で複雑な対応が必要となります。また、これらを想定した訓練、転



倒防止及び備蓄品の管理など、適切な対策が施されていない場合の消防防災上のリスクは極めて大きいと考えられます。

この制度は、避難施設の維持管理、棚及び什器の転倒防止措置、地震等の災害発生時にその被害を軽減させるため措置がとられているか等、大規模建築物等に選任が義務付けられた防災管理者を中心に行われる防災管理業務の状況を、毎年1回防災管理点検資格者*に点検させ、その結果を消防機関に報告する

ものです。防災管理点検も防火対象物点検と同様に、防火対象物が点検基準に適合している場合には、その旨の表示をすることができます。

先述の防火対象物定期点検報告と防災管理点検報告は異なるものであり、対象となる建物の基準が異なるため、両方実施しなくてはならない対象物もあります。

* 防災管理点検資格者・・・防災管理に関する専門知識を有し、必要な講習等を修了した者

● 防火対象物点検又は防災管理点検報告を要する管理権原者数

防火対象物点検	防災管理点検
4 4 2	1 2 9

* 1の防火対象物に複数の管理権原者がいる場合は、管理権原者ごとに点検・報告する必要があります。

◆ 消防同意・消防用設備等の検査件数

消防法の規定により建築物の新築、増築、改築等を行う場合には、申請時に消防機関の同意が必要とされています。

また、防火対象物のうち一定の規模以上のものに対して、消防用設備等を設置する際の消防検査を義務付け、消防法令を遵守することを規定しています。

● 消防同意

令和7年3月31日現在

区分	新築	増築	改築	移転	用途変更	修繕	模様替	その他	合計
件数	340	100	4	2	3	1	0	18	468

● 消防用設備等の検査

令和7年3月31日現在

区 分		件 数	区 分		件 数
消 火 設 備	消 火 器	160	警 報 設 備	火 災 報 知 設 備	22
	屋 内 消 火 栓 設 備	48		非 常 警 報 設 備	65
	スプリンクラー設備	45		避 難 設 備	避 難 器 具
	水 噴 霧 消 火 設 備		誘 導 灯		326
	泡 消 火 設 備	6	そ の 他	消 防 用 水	6
	不 活 性 ガ ス 消 火 設 備			排 煙 設 備	
	ハロゲン化物消火設備	3		連 結 散 水 設 備	
	粉 末 消 火 設 備	22		連 結 送 水 管	4
	屋 外 消 火 栓 設 備	17		非 常 コ ン セ ン ト 設 備	
動 力 消 防 ポ ンプ 設 備	15	無 線 通 信 補 助 設 備			
自 動 火 災 報 知 設 備	451	令 2 9 条 の 4		28	
警 報 設 備	ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備	3	採 水 口		
	漏 電 火 災 警 報 器	1			
合 計					1,272

* 件数は一定の規模未満の防火対象物で実施した消防検査(任意)を含む

◆ 危険物施設設置数

近年、危険物の使用は多種多様化し、事業所等で幅広く利用されるとともに、私たちの生活にも深く浸透しています。危険物施設における事故は、一旦発生すれば甚大な被害をもたらす恐れがあり、その安全確保の重要性は益々増大しています。

当市は、自動車関連を基盤として発展した産業に関する危険物施設が多く、一般取扱所、給油取扱所、屋内貯蔵所の順となっています。

こうした危険物施設に対して、許認可審査、完成検査、立入検査等を通じて、危険物施設等の安全管理指導を行い、安全で安心な市民生活の確保を目指しています。

● 危険物施設設置状況

令和7年3月31日現在（施設）

区分 管轄署所	製造所	屋内貯蔵所	貯蔵所 屋外タンク	貯蔵所 屋内タンク	貯蔵所 地下タンク	貯蔵所 簡易タンク	貯蔵所 移動タンク	屋外貯蔵所	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所	合計
北消防署		16	2	5	17		10		20	1	14	85
藤岡小原分署	5	31	61	14	17		11	5	18		31	193
保見出張所		10	12	2	4	1	9		14		4	56
力石出張所	1	11	3		3	1	7	2	18		11	57
中消防署		27	8	7	36		1	3	20		54	156
東分署		5	2	1	6		5		7	1	1	28
逢妻分署		8			2		2	1	8		9	30
松平出張所		2			5		4		2		2	15
南消防署		13	8	20	21	1	2	4	23		23	115
西分署		36	12	2	15		9	4	28		33	139
末野原分署	3	7	6	1	4		6		14		6	47
高岡出張所	1	33	21	23	16	2	10	6	36		48	196
足助消防署		2	3	2	5		5	1	7		1	26
旭出張所			1	1	7		1		4			14
稲武出張所		2	1	2	4		1		8			18
下山出張所		6			3	2	2		6		2	21
合計	10	209	140	80	165	7	85	26	233	2	239	1,196

◆ 圧縮アセチレンガス等の設置状況

令和7年3月31日現在（件）

圧縮アセチレンガス等					
圧縮アセチレンガス	無水硫酸	液化石油ガス	生石灰	毒物	劇物
86	9	3,943	12	30	65

◆ 指定可燃物等及び少量危険物の設置状況

令和7年3月31日現在（件）

指定可燃物等					少量危険物	
可燃性固体類	可燃性液体類	合成樹脂類	再生資源燃料	その他		移動タンク
14	113	174	4	114	2,414	218

◆ 製造所等に対する立入検査の状況

施設数：令和7年3月31日現在 実施数：令和6年度延べ実施数

製造所等の別	合計	製造所	貯蔵所								取扱所					
			小計	屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	小計	給油	第一種販売	第二種販売	移送	一般
施設数	1,196	10	712	209	140	80	165	7	85	26	474	233	2			239
実施数	776	14	261	50	82	46	40		28	15	501	86				415

VII. 災害対策



大規模災害発生時における物資供給等の協力に関する協定

◆ 防災

「平成28年熊本地震」や「令和6年能登半島地震」等、近年発生した大規模災害を教訓に海洋型大地震、内陸直下型激甚大地震を含めた各種の対策を進めています。

大規模地震等が発生した際には、防災関係機関の防災活動だけでは困難が予想されます。被害を最小限に食い止めるために市域内の公共的団体等の防災に関する組織及び住民の隣保協同の精神に基づく自発的な防災組織の充実を図っています。

◆ 自主防災組織数

大規模地震等の災害が発生した場合、災害から生命や財産を守るためには、地域住民が団結し、自助、互助の精神を発揮して助け合うことが不可欠であり、各自主防災会が自発的努力に基づき組織的に行動することが大切です。

こうしたことから、主に自治区を単位として、地元住民による自主防災組織が編成されています。

● 自主防災会数等

令和7年4月1日現在

自主防災会数	総自治区数	自主防災会結成済自治区数	組織率 (%)
322	298	298	100

◆ 水防倉庫

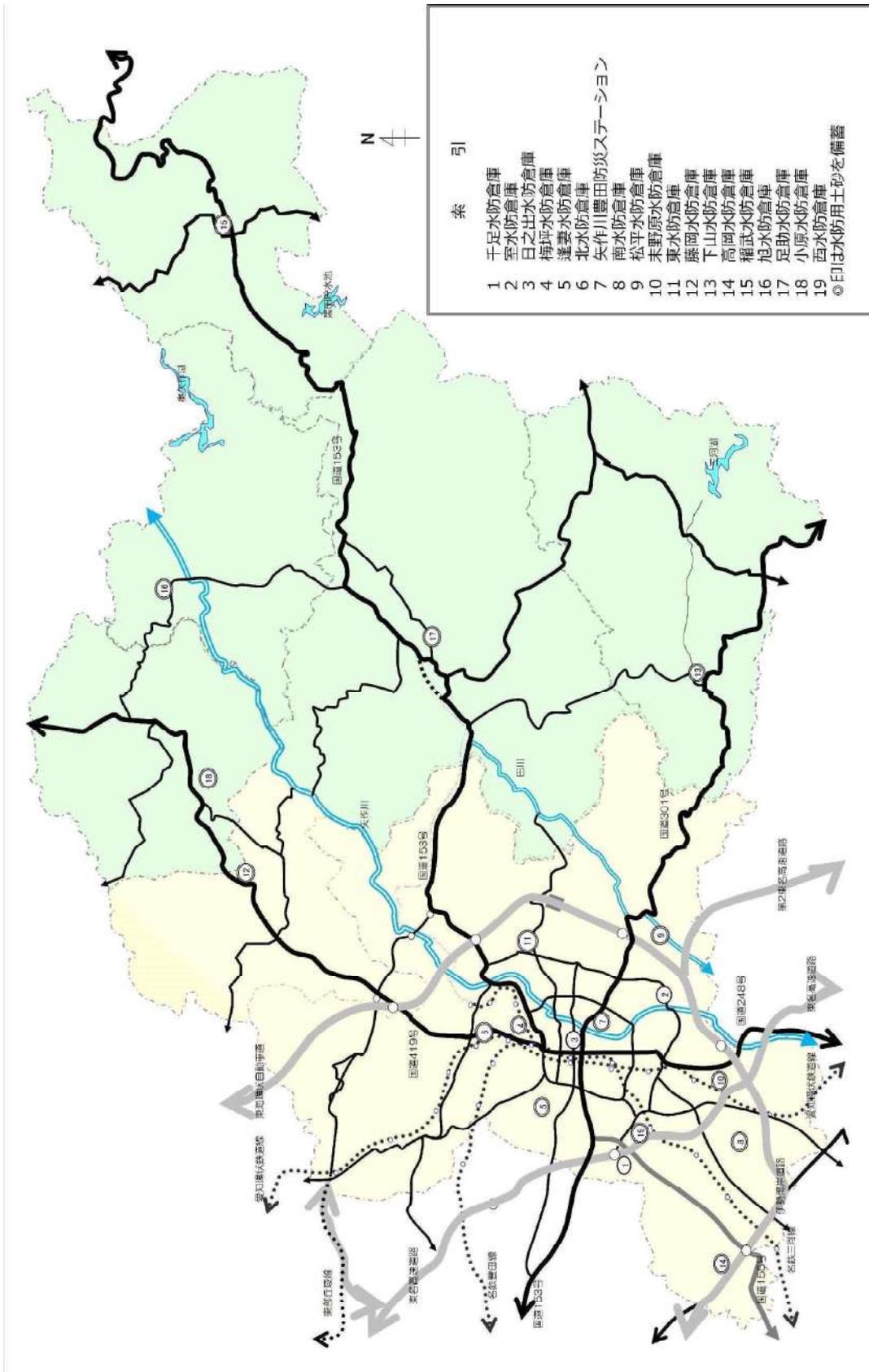
豊田市水防計画に基づき、予測できない大雨による堤防の決壊や土石流を考慮し、水防倉庫（19か所）を設置して資機材を備蓄しています。

● 水防倉庫

(※印は署所併設外)

年度	名称	水防用土砂置場
昭和54年度	千足*	無
昭和59年度	室*	無
昭和63年度	日之出*	無
平成2年度	梅坪*	有
平成13年度	逢妻	有
平成14年度	北、矢作川豊田防災ステーション*	有
平成15年度	南	有
平成16年度	松平	有
平成17年度	未野原	有
平成18年度	東	有
平成19年度	藤岡	有
平成20年度	下山	有
平成24年度	高岡、稲武	有
平成28年度	旭	有
平成29年度	足助	有
令和2年度	小原*	有
令和4年度	西	有

●水防倉庫の配置図



◆ 応援協定

市町村は、当該市町村の区域内で発生した災害に対し、自らその責を果たさなければなりません。火災等の災害が市町村の境界付近で発生した場合や地震、風水害、林野火災等のようにその災害が大規模で広域に及ぶ場合には、個々の市町村の消防力のみでは十分な対応ができないおそれがあります。

このような場合には市域を越えて消防力の運用を図る必要があり、近隣市町村等との間で資機材の提供及び人員の派遣の協定を結び、万々に備えています。

● 近隣市町村等との各種応援協定

応援協定名	協定締結消防機関名 協定締結団体	締結年月
愛知県内広域 消防相互応援協定	愛知県内24市6町10組合1連合 *協定締結団体は、締結当時です。	平成15年4月
愛知県下高速道路にお ける消防相互応援協定	17市1町4組合1連合	平成30年7月
西三河地区 消防相互応援協定	岡崎市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、 西尾市、知立市、高浜市、みよし市、幸田 町、尾三消防組合、衣浦東部広域連合 *尾三消防組合が追加されました。	令和7年4月
愛知県防災ヘリコプター支 援協定	豊田市、愛知県	平成19年8月
豊田市・土岐市 消防相互応援協定	豊田市、土岐市	平成10年9月
豊田市・瑞浪市 消防相互応援協定	豊田市、瑞浪市	平成10年9月
消防・防災に関する応援 協定	豊田市、トヨタ自動車株式会社	平成13年10月
衣浦豊田道路における消 防相互応援協定	豊田市、衣浦東部広域連合	平成16年4月
豊田市・恵那市消防本 部消防相互応援協定	豊田市、恵那市	平成17年4月
豊田市・南信州広域連 合消防本部消防相互 応援協定	豊田市、南信州広域連合	平成17年4月

◆ 消防用ドローンの活用状況

	災害出動	災害対応訓練
活用回数	17回	68回
林野火災6件、建物火災1件、火災調査1件、水難救助7件、低所救助1件、一般探索1件		
飛行日数／累計 運行時間	62日 / 33時間	

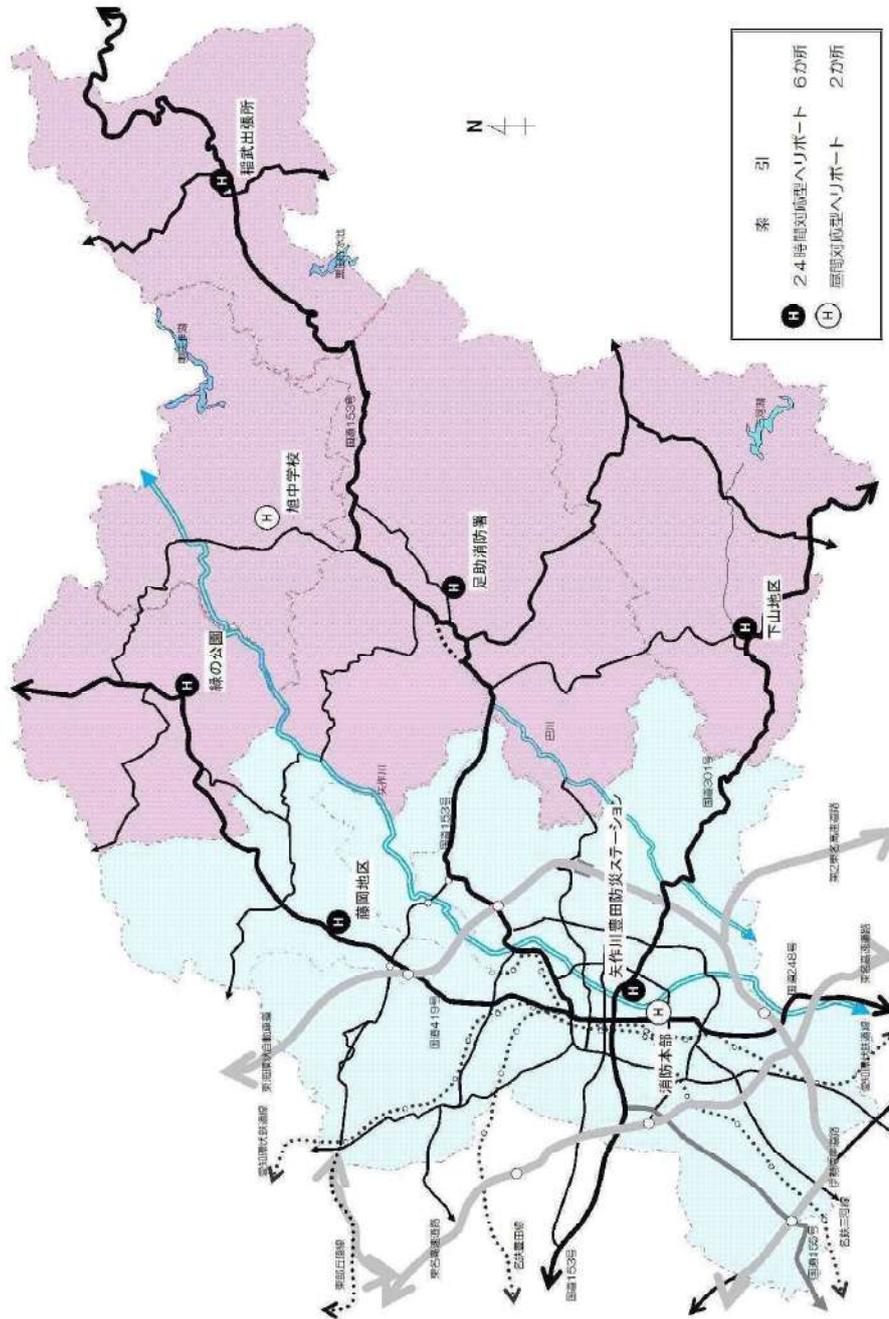
◆ ヘリポートの設置

広大な面積を有する当市は、大規模災害が発生した時には道路等が分断されて孤立する地域の発生が懸念されます。そのため、ヘリコプターを活用できる24時間対応型ヘリポート6か所、昼間対応型ヘリポート2か所を整備し、迅速に重症傷病者の医療機関への収容や救援物資の搬送ができる体制を構築しています。

地区名	名称	所在地	種別	自衛隊ヘリ 使用承諾※	運用開始年月
足助地区	足助消防署ヘリポート	桑田和町中貝戸6	24時間 対応型		平成20年4月
小原地区	緑の公園ヘリポート	市場町陣出875	24時間 対応型	○	平成21年1月
藤岡地区	藤岡地区ヘリポート	深見町岩花1067-1	24時間 対応型	○	平成21年3月
豊田地区	矢作川豊田防災ステーションヘリポート	森町1-90	24時間 対応型	○	平成21年4月
下山地区	下山地区ヘリポート	大沼町八沢118-1	24時間 対応型		平成23年11月
稲武地区	稲武出張所ヘリポート	稲武町宮ノヒラ8-13	24時間 対応型		平成25年8月
旭地区	旭中学校ヘリポート	杉本町羽根1-1	昼間 対応型		平成27年4月
豊田地区	消防本部ヘリポート	長興寺5-17-1	昼間 対応型		平成30年4月

※自衛隊からの依頼を受け、豊田市が使用を承諾しているヘリポートです。自衛隊が事前に大型ヘリ等の離発着が可能かを調査しています。

●ヘリポート配置図



令和6年度 愛知県警防技術交換会（於：名古屋市消防学校）



救助工作車（車両名：とよた足助41）



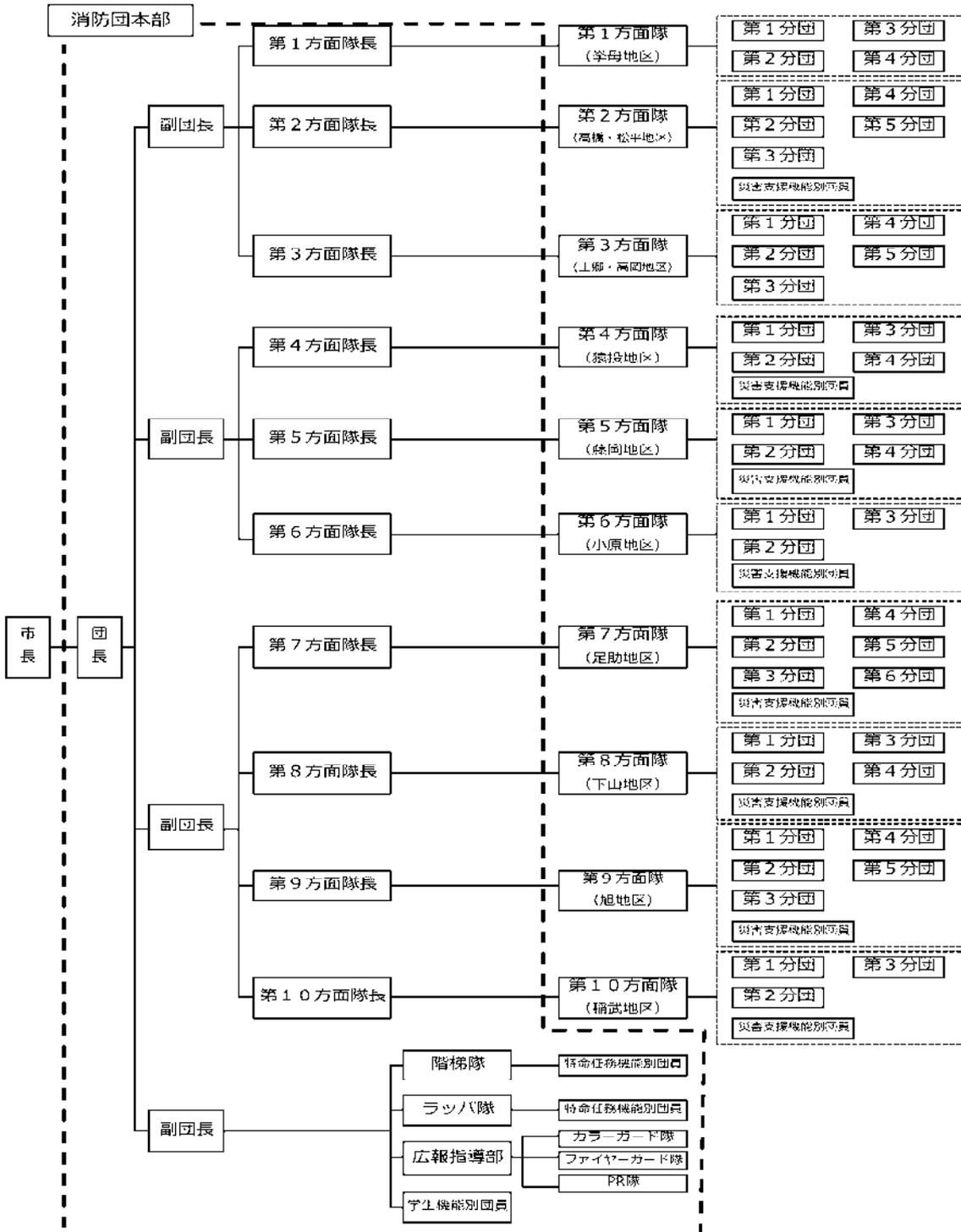
Ⅷ. 消 防 団



◆ 豊田市消防団組織図

豊田市消防団は、各地区を単位として、10方面隊・43分団・118部で編成されています。
 団員数は、令和7年4月1日現在、団長以下1,779人（うち女性46人）となっています。

消防団は、火災・風水害等の際の活動を始めとして、地域住民に対する防災意識の普及等を行い、安全な地域づくりの一端を担っています。



◆ 消防団格納庫

●消防団格納庫の面積等

令和7年4月1日現在

方面隊	分団	班	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	方面隊	分団	班	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)
第1方面隊	第1分団	元城	78	78	第2方面隊	第2分団	扶桑	50.82	50.82
		竹生	70	116			平井	34.39	34.39
		平芝	52.8	52.8			百々	21.37	41.24
		梅坪	50.82	50.82			岩滝	39.75	74.54
		浄水	42.91	79.27			矢並	29.63	55.67
	第2分団	樹木	44.4	44.4		山中	9.45	9.45	
		小坂	39.75	74.54		第3分団	野見	29.46	54.66
		下市場	29.83	57.5			広川	52.8	52.8
		金谷	50.82	50.82			古瀬間	76.19	76.19
		第3分団	長興寺	29.46		54.66	大見	29.46	54.66
	宮口		39.75	74.54	第4分団	九久平	32.55	59.2	
	宮上		52.5	52.5		幸海	39.75	74.54	
	宮		42.23	42.23		穂積	25.92	25.92	
	本新		50.82	50.82		岩倉	46.84	46.84	
	千足		52.8	52.8		桂野	88.83	88.83	
	深田	40.07	75.39	第5分団	林添	29.62	55.66		
	本地	52.5	52.5		滝脇	42.15	42.15		
	第4分団	今	52.2		52.2	長沢	21.13	21.13	
		前山	37.64		37.64	豊松	52.95	52.95	
		渡合	22.68		22.68	松平	9.45	9.45	
		室	23.49	23.49	坂上(仁王)	36.4	72.8		
	第2方面隊	第1分団	高橋	37	74	坂上(日明)	24.7	24.7	
			上野	40.07	74.47	石楠	21.28	21.28	
市木			45.36	45.36					

方面隊	分 団	班	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	方面隊	分 団	班	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	
第 3 方面隊	第 1 分団	鴛鴨	52.5	52.5	第 4 方面隊	第 1 分団	東保見	50.8	50.8	
		大林	40.07	74.52			田粉	40.07	75.39	
		渡刈	40.07	75.39			貝津	76.68	76.68	
		豊栄	39.75	74.54			伊保	40.07	74.47	
		永覚	51.6	51.6		第 2 分団	猿投	29.63	55.67	
	第 2 分団	上郷	66.24	66.24			加納	45.5	45.5	
		畝部東 (中切)	41.59	41.59			亀首	40	73	
		柳塚東	31.73	31.73			舞木	50.8	50.8	
		配津	45	45			乙部	39.75	74.54	
		福受	40.07	74.47		第 3 分団	四郷	39.75	79.5	
		和会	52.2	52.2			御船	52.8	52.8	
	第 3 分団	土橋	39.75	74.54			越戸	40.04	74.52	
		本	53.7	53.7			花本	40.06	75.37	
		中	43.15	43.15		西広瀬	29.6	55.6		
	第 4 分団	若林	43.89	83.64		第 4 分団	東広瀬	40.07	74.47	
		中根	27.47	27.47			小峯	52.2	52.2	
		花園	40.07	73.02			力石	50.82	50.82	
	第 5 分団	堤	40.06	75.37			藤沢	30	43.5	
		上丘	50.82	50.82			富田	24.3	24.3	
		西岡	52.8	52.8			寺下	73.76	73.76	
		前林	67.17	67.17			成合	12.6	12.6	
		駒場	57.6	57.6			中金	52.8	52.8	
		中田	50.82	50.82			芳友	50.82	50.82	
	4 方面隊	第 1 分団	八草	51.9			51.9	野口	41.54	41.54
			広幡	46.08			46.08	中切	25.92	25.92
			大畑	38.3			69.56			
			篠原	40.07			75.39			
保見			50.82	50.82						

消 防 団

方面隊	分団	班	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	方面隊	分団	班	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)
第5方面隊	第1分団	木瀬	98.25	98.25	第7方面隊	第1分団	足助(田町)	93	93
		藤岡飯野	83.12	83.12			山谷	57	57
	第2分団	西中山	39.74	74.52		第2分団	足助(宮平)	40.07	74.37
	深見	26.88	26.88	葛沢			28	28	
	第3分団	御作	94.7	122.8		第3分団	近岡	86	172
		上川口	65	98.9			国谷	76.19	76.19
	第4分団	三箇	98.64	98.64		第4分団	則定	52.65	52.65
		折平	40.07	74.37			上佐切	32.76	65.52
		白川	85.8	92.5		第5分団	竜岡	50	50
	第6方面隊	第1分団	大平	40.07			74.52	明川	40.47
乙ヶ林			76.19	76.19	五反田		16	16	
北篠平			28.8	28.8	大多賀		31	31	
第2分団		上仁木	54.45	54.45	第6分団	新盛	76.2	76.2	
		雑敷	46.98	46.98		大蔵	66	66	
		永太郎	40.07	74.47		大河原	31.68	31.68	
第3分団	小原	78.75	78.75	御蔵		35	35		
	市場	53.18	53.18	月原	45.54	45.54			

方面隊	分 団	班	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	方面隊	分 団	班	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	
第 8 方面隊	第 1 分団	下山田代	87	87	第 9 方面隊	第 3 分団	杉本	34.02	34.02	
		花沢	24.8	24.8			太田	4.86	4.86	
	第 2 分団	大沼	58.18	107.48			加塩	9.45	9.45	
		第 3 分団	蘭	23.4			23.4	榊野	40	80
	和合		91.49	91.49		第 4 分団	槇本	40.07	74.47	
	第 4 分団	阿蔵	47.19	47.19			伊熊	19.44	19.44	
		第 10 方面隊	立岩	62.9		62.9	第 5 分団	浅谷	50	50
			野原	21.49		21.49		第 1 分団	稲武	102
	羽布		92.75	92.75		川手			56.25	56.25
	第 9 方面隊	第 1 分団	田津原	21.49		21.49	大野瀬	63.75	63.75	
小渡			77	77	第 2 分団	小田木	121.87	121.87		
第 2 分団		笹戸	76.19	76.19		黒田	75.54	75.54		
		御所貝津	40.07	74.47	第 3 分団	武節	27.38	27.38		
桑原		72.15	72.15							

◆ 消防団車両・小型動力ポンプ等

消防団には、消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ付積載車及び小型動力ポンプが適正に配置されており、災害時には地域のニーズに応え大きな機動力となるようその活動が期待されています。

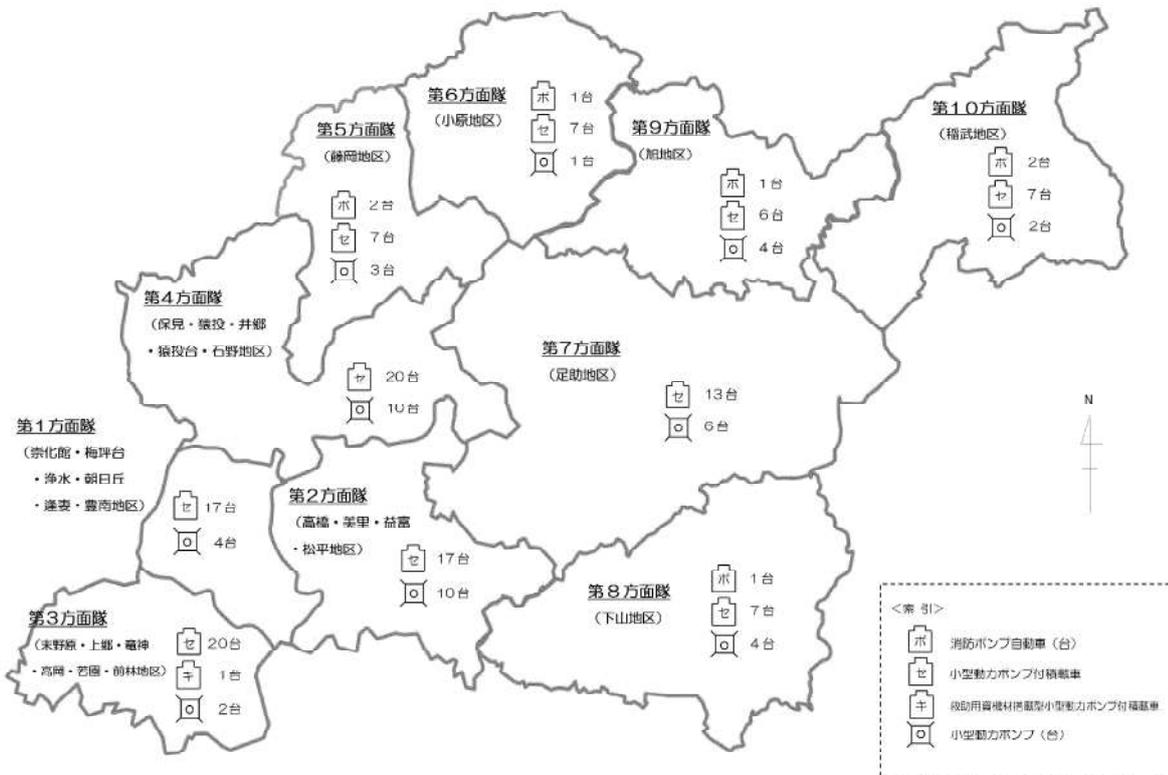
消防団における機械力の整備状況は消防ポンプ自動車7台、小型動力ポンプ付積載車121台、救助用資機材搭載型小型動力ポンプ付積載車1台、小型動力ポンプ46台及び指揮車1台となっています。

●消防団の車両・小型動力ポンプの配置

分 団	車 両 及 び 小 型 動 力 ポ ン プ			
団 本 部	指 揮 車	1		
■第1方面隊 (崇化館・梅坪台・浄水・朝日丘・逢妻・豊南)				
第 1 分 団	小型動力ポンプ付積載車	5		
第 2 分 団	小型動力ポンプ付積載車	5		
第 3 分 団	小型動力ポンプ付積載車	4	小型動力ポンプ	3
第 4 分 団	小型動力ポンプ付積載車	3	小型動力ポンプ	1
■第2方面隊 (高橋・美里・益富・松平)				
第 1 分 団	小型動力ポンプ付積載車	3		
第 2 分 団	小型動力ポンプ付積載車	3	小型動力ポンプ	3
第 3 分 団	小型動力ポンプ付積載車	4		
第 4 分 団	小型動力ポンプ付積載車	4	小型動力ポンプ	2
第 5 分 団	小型動力ポンプ付積載車	3	小型動力ポンプ	5
■第3方面隊 (未野原・上郷・竜神・高岡・若園・前林)				
第 1 分 団	小型動力ポンプ付積載車	5		
第 2 分 団	小型動力ポンプ付積載車	5	小型動力ポンプ	1
第 3 分 団	小型動力ポンプ付積載車 救助用資機材搭載型小型動力ポンプ付積載車	2 1		
第 4 分 団	小型動力ポンプ付積載車	3		
第 5 分 団	小型動力ポンプ付積載車	5	小型動力ポンプ	1
■第4方面隊 (保見・猿投・井郷・猿投台・石野)				
第 1 分 団	小型動力ポンプ付積載車	6	小型動力ポンプ	3
第 2 分 団	小型動力ポンプ付積載車	4	小型動力ポンプ	1
第 3 分 団	小型動力ポンプ付積載車	4	小型動力ポンプ	1
第 4 分 団	小型動力ポンプ付積載車	6	小型動力ポンプ	5
■第5方面隊 (藤岡・藤岡南)				
第 1 分 団	消 防 ポ ン プ 自 動 車	2	小型動力ポンプ	2
第 2 分 団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	1
第 3 分 団	小型動力ポンプ付積載車	2		
第 4 分 団	小型動力ポンプ付積載車	3		

分 団	車 両 及 び 小 型 動 力 ポ ン プ			
■第6方面隊 (小原)				
第 1 分 団	消 防 ポ ン プ 自 動 車 小型動力ポンプ付積載車	1 2	小型動力ポンプ	1
第 2 分 団	小型動力ポンプ付積載車	3		
第 3 分 団	小型動力ポンプ付積載車	2		
■第7方面隊 (足助)				
第 1 分 団	小型動力ポンプ付積載車	2		
第 2 分 団	小型動力ポンプ付積載車	2		
第 3 分 団	小型動力ポンプ付積載車	2		
第 4 分 団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	1
第 5 分 団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	2
第 6 分 団	小型動力ポンプ付積載車	3	小型動力ポンプ	3
■第8方面隊 (下山)				
第 1 分 団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	1
第 2 分 団	消 防 ポ ン プ 自 動 車	1	小型動力ポンプ	1
第 3 分 団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	1
第 4 分 団	小型動力ポンプ付積載車	3	小型動力ポンプ	1
■第9方面隊 (旭)				
第 1 分 団	消 防 ポ ン プ 自 動 車 小型動力ポンプ付積載車	1 1	小型動力ポンプ	1
第 2 分 団	小型動力ポンプ付積載車	1		
第 3 分 団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	2
第 4 分 団	小型動力ポンプ付積載車	1	小型動力ポンプ	1
第 5 分 団	小型動力ポンプ付積載車	1		
■第10方面隊 (稻武)				
第 1 分 団	消 防 ポ ン プ 自 動 車 小型動力ポンプ付積載車	1 3	小型動力ポンプ	1
第 2 分 団	小型動力ポンプ付積載車	3		
第 3 分 団	消 防 ポ ン プ 自 動 車 小型動力ポンプ付積載車	1 1	小型動力ポンプ	1

●消防団機械器具の配置図



◆ 消防団協力事業所表示制度

豊田市消防団の活動に協力している市内の事業所等を「消防団協力事業所」として認定し、消防団協力事業所表示証を交付する制度です。

事業所の消防活動への社会貢献を広めるとともに、事業所の協力を得ることで地域防災力の強化を推進することを目的としています。

◆ 豊田市消防団応援の店

地域のために頑張っている消防団員を支援するため、事業所に「消防団応援の店」として登録し、特典やサービスなどの協力を通じて、消防団を応援していただくものです。消防団員に貸与している豊田市消防団員証を、企業や店舗など「消防団応援の店」で飲食等利用した際に提示することにより、消防団員がお店から様々な特典を受けられます。



◆ 豊田市学生消防団活動認証制度

消防団活動を通じて地域社会へ多大なる貢献をした大学生、大学院生又は専門学校生の功績を市が認証し、就職活動支援の一環として本人用の認証状と企業提出用の認証証明書を交付して就職活動を支援する制度です。

Ⅷ. 消防音楽隊・ 関係団体



少年消防クラブ愛知県消防学校一日入校

◆ 消防音楽隊

消防音楽隊は、昭和51年10月の結成以来、消防の諸行事、式典を始め市主催行事等において、演奏活動を通じて防火・防災思想の普及啓発に努め、平成15年度からは女性消防団員によるカラーガード隊「ひまわりフェアリーズ」と共演し、平成16年度には一般公募による市民演奏者を迎えて市民及び消防団員と一緒に活動しています。

●階級別編成

令和7年4月1日現在

階級等	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	市民演奏者	合計
人数	1	6	6	4	2	16	35

●パート別編成

令和7年4月1日現在

パート	人数			パート	人数		パート	人数	
	講師	職員	市民		職員	市民		職員	市民
指揮者	1			テナーサクソ	2		ホルン	1	2
フルート			3	バリトンサクソ	1		ユーフォニアム	1	2
クラリネット		2	2	トランペット	3	3	チューバ	2	
アルトサクソ		1	1	トロンボーン	3	3	パーカッション	3	

●令和6年度活動状況

活動回数	内		訳	
	練習回数		派遣回数	
40	27		13	

※派遣回数13回のうち5回にあっては、小編成で対象を限定した啓発を実施

関係団体

◆ 関係団体

防火危険物安全協会

平成13年に防火協力会と危険物安全協会が統合し、防火危険物安全協会が発足しました。平成17年の市町村合併に伴い、加茂危険物安全協会及び足助地域危険物安全協会とも合併し、現在の規模となりました。消防機関と協力して防火管理及び危険物の安全管理を徹底することで、火災等の災害を防止し、社会公共の安全並びに福祉の増進に寄与することを目的としています。

●協会の現況

令和7年4月1日現在

防火危険物安全協会の会員数	318
---------------	-----

●令和6年度の主な活動実績

活動日	活動内容
5月24日	第24回定期総会
6月2日～8日	危険物安全週間（ポスターによる危険物災害予防の啓発）
10月24日	第59回消火競技会
11月2日	一日消防長委嘱式・街頭防火宣伝（イオンスタイル豊田）
11月9日～15日	秋の火災予防運動（ポスターによる火災予防の啓発）
1月11日	出初・観閲式&とよた消防フェスタ
2月4日～5日	視察研修（関東方面）
3月1日～7日	春の火災予防運動（ポスターによる火災予防の啓発）

女性消防クラブ

「防火はお茶の間（わが家）から」を合言葉に家庭の主婦を中心として結成された女性消防クラブは、防火、防災教室で知識・技術を修得し、住宅用火災警報器をはじめとする住宅用防災機器の普及啓発や防火意識の高揚を図る活動を推進するなど、家庭や地域の防火、防災活動に積極的に取り組んでいます。

●女性消防クラブの現況

令和7年4月1日現在

クラブ数	4
クラブ人員数	94

●令和6年度の主な活動実績

活動日	活動内容
通年	各クラブにて啓発活動等

少年消防クラブ

少年消防クラブは、市内の小学5年生から中学3年生までを対象とし、防火・防災の知識を身につけるとともに、防火・防災思想の普及を図ることを目的に結成されています。

●少年消防クラブの現況

令和7年4月1日現在

	合 計	小 学 校	中 学 校
ク ラ ブ 数	103	75	28
クラブ人員数	18,965	7,440	11,525

●令和6年度の主な活動実績

活 動 日	活 動 内 容
7月31日	愛知県消防学校一日入校
9月5日	道慈小学校 防災キャンプ
9月14日、15日	全国少年消防クラブ交流大会（兵庫県）
夏 休 み 期 間 中	防火作品（ポスター・習字）の作成

幼年消防クラブ

幼年消防クラブは、幼年期において火の取扱い方を正しく身に付けることにより、「火遊び等による火災の防止」とともに「消防の仕事を理解してもらう」ことを目的として結成されています。

幼年消防クラブでは、毎年、リスク回避プログラムの実施、「防サイ君」による地震体験、花火教室の開催等を通じて火災予防に関することを学習し、成果をあげています。

●幼年消防クラブの現況

令和7年4月1日現在

	合 計	公立幼稚園・ こども園	私立幼稚園・ こども園	認定こども園	新制度幼稚園
ク ラ ブ 数	98	54	13	26	5
クラブ人員数	10,370	4,386	1,532	4,174	278

●令和6年度の主な活動実績

活 動 日	活 動 内 容
通年	リスク回避プログラムの実施
6月～7月	花火教室
9月	敬老の日カード作成・配布
9月21日	第29回消防こども写生大会（消防本部・中消防署）

関係団体

高校生消防クラブ

高校生消防クラブは、高校生世代の防火防災意識を幅広く向上させることを目的として、平成29年度に県内で初めて設立しました。市内の高校に通う生徒が防火防災に関するプログラムを通じて、知識や技術を身に付け、学んだことを自分の通う高校で発表し、普及啓発活動につながります。

●高校生消防クラブの現況

令和6年度中

カリキュラム参加者数	99人
------------	-----

●令和6年度の活動実績

活動日	活動内容
5月	消防啓発キャラクター選手権
9月	消防士体験（台風接近により中止）
5月～12月	消防コラボTシャツ制作（豊田大谷高校ダンス部）+教養
5月～3月	秋・春の火災予防運動ポスター制作（豊田東高校文芸・イラスト部）
11月	街頭防火宣伝・1日消防長委嘱（豊田東高校文芸・イラスト部）

[統計資料]



豊田市消防ビジョン ～第4次豊田市消防整備基本計画～
【2025年度から2029年度までの前期実践計画 指標（抜粋）】

めざすまちの姿1 みんなで防火に取り組むまち		
施策1 住宅における防火対策の推進	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 高齢者に向けた防火啓発	講座を実施した団体数	60団体(12地区)
取組事業2 福祉事業所と連携した防火指導	福祉事業所と連携した地区数(中学校区)	28地区
施策2 事業所における防火対策の推進	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 消防法令違反への対策強化	防火対象物：特定違反対象物数、危険物施設：違反施設数	特定違反対象物数：↓、違反施設数：↓
取組事業2 消防用設備等の適正管理指導	消防用設備等点検結果報告率	72.5%
施策3 防火防災教育の充実	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 こどもに向けた防火防災教育の充実	市内小学校(75校)で防火防災教育を実施した校数	75校
取組事業2 防災学習センターを拠点とした防火防災啓発	市内在住、在勤又は在学する市民の利用者数	13,500人(各年度)
めざすまちの姿2 みんなで命を救えるまち		
施策1 救命体制の充実強化	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 事業所等における応急手当普及員の養成	応急手当普及員が講習を実施している事業所の数	71事業所
取組事業2 複数の救急救命士による活動の高度化	運用救急救命士数	145人
施策2 救急需要増加への対策	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 救急業務体制の整備	救急隊数	19隊
取組事業2 多機関との連携体制の充実	連携すべき事案への対応率	100%(各年度)
取組事業3 救急車の適時・適切な利用の推進	豊田市の救急情勢に関する理解度	50%
めざすまちの姿3 地域防災力を育むまち		
施策1 消防団員の確保	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 女性団員の活躍推進	女性団員の割合	5.0%
取組事業2 機能別団員制度の拡充	機能別団員制度を新たに導入した団体数	3団体
施策2 消防団を取り巻く活動環境の整備	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 消防団施設・車両の整備	計画に基づく①消防団施設の整備数及び②消防団車両の整備数	①9施設 ②41台
取組事業2 やりがいと魅力ある消防団活動の推進	やりがいを持って活動をしている消防団員の割合	50%
施策3 消防団の災害対応力の強化	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 消防団活動に必要な知識・技術の習得	消防団員の活動方法をマニュアル化した数	5項目
取組事業2 消防団を主体とした地域連携の強化	消防団が指導した自治区の割合	50%
めざすまちの姿4 あらゆる災害に備えるまち		
施策1 多様な災害への対応力強化	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 特定任務業務の再構築	新たな体制での特定任務運用	運用開始
取組事業2 火災対応の維持強化	特別消防救助隊の設置	1隊
取組事業3 指揮運用体制の強化	指揮調査業務体制の改変	指揮隊4隊 調査隊1隊
施策2 大規模災害への対策強化	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 被災から受援までの体制強化	新たな受援体制に基づく訓練の実施率	100%(各年度)
取組事業2 土砂・風水害への対策強化	土砂・風水害対応訓練の実施	4回(各年度)
施策3 消防機械・水利の整備	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 消防用資機材の整備	重点消防機械の整備	2以上
取組事業2 防火水槽の最適化	防火水槽の地震対策	13基(各年度)
めざすまちの姿5 充実した消防組織が守るまち		
施策1 高度で質の高い人材育成	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 新たな研修計画の策定	新たな消防職員研修計画の策定	消防職員研修計画策定
取組事業2 高齢期職員の能力活用	高齢期職員研修計画の策定	高齢期職員研修計画の策定
施策2 多様で柔軟な働き方の推進	【成果指標】	【2029年度までの目標値】
取組事業1 女性消防職員の活躍推進	女性消防職員の割合	5.0%
取組事業2 働きやすい職場の確立	男性消防職員の育児休業取得率	85%
取組事業3 事業事務の最適化	適正化のために見直した事業事務の数	5件

一般会計予算と消防予算の推移

(千円)

年度 \ 区分	一般会計予算〈当初〉	消防予算〈当初〉	比率 (%)
令和3年度	179,800,000	7,093,515	3.95
令和4年度	180,100,000	7,099,583	3.94
令和5年度	188,300,000	7,151,362	3.80
令和6年度	195,426,534	8,646,641	4.42
令和7年度	219,700,000	12,027,091※	5.47

※消防指令システムの更新(37.5億円)を含む

歳入当初予算額(消防本部)の推移

(千円)

区分 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
使用料及び手数料	16,063	17,202	15,406	15,072	20,648
国庫支出金	65,958	78,168	27,959	83,763	129,997
県支出金	7,072	7,221	7,249	8,778	39
財産収入	370	520	3,860	6,360	2,000
諸収入	59,347	60,737	49,279	54,266	21,273
合計	148,810	163,848	103,753	168,239	173,957

歳出当初予算額(消防費)の推移

(千円)

区分 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
消防費	7,093,515	7,099,583	7,151,362	8,646,641	12,027,091	
目	常備消防費	5,617,721	5,452,425	5,627,163	5,727,235	6,188,543
	非常備消防費	393,592	427,488	505,949	609,161	590,563
	消防施設費	300,037	529,927	330,459	270,236	4,460,934
	水防費	4,970	19,470	8,799	3,504	3,700
	災害対策費	777,195	670,273	678,992	2,036,505	783,351

人口・世帯当たりの消防予算の推移

区分 \ 年度	消防費(千円)	人口1人当たり		1世帯当たり	
		人口	1人当たり(円)	世帯数	1世帯当たり(円)
令和3年度	7,093,515	421,280	16,838	183,167	38,727
令和4年度	7,099,583	418,284	16,973	183,262	38,740
令和5年度	7,151,362	416,747	17,160	184,884	38,680
令和6年度	8,646,641	415,853	20,792	187,545	46,104
令和7年度	12,027,091	415,138	28,971	190,271	63,210

*人口及び世帯数は4月1日の数値

消防職員の年齢

令和7年4月1日現在

階級	年	合計	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
合計		541	1	8	36	69	118	134	102	73
18歳		2								2
19歳		2								2
20歳		3								3
21歳		2								2
22歳		16								16
23歳		17								17
24歳		10								10
25歳		19								19
26歳		14							12	2
27歳		27							27	
28歳		20							20	
29歳		17							17	
30歳		16							16	
31歳		31						25	6	
32歳		20						19	1	
33歳		22						19	3	
34歳		19						19		
35歳		15					3	12		
36歳		17					7	10		
37歳		14					6	8		
38歳		17					12	5		
39歳		9					9			
40歳		10					9	1		
41歳		6				2	3	1		
42歳		9				2	6	1		
43歳		10				1	9			
44歳		9				4	5			
45歳		11				5	4	2		
46歳		15			5	8	2			
47歳		14			1	4	7	2		
48歳		12				8	4			
49歳		18			6	6	5	1		
50歳		12			6	3	2	1		
51歳		12			5	6	1			
52歳		9			4	4	1			
53歳		9		1	2	3	3			
54歳		4				2	2			
55歳		3		1	2					
56歳		2		2						
57歳		3		1	1	1				
58歳		7	1		3	3				
59歳		6		3	1	2				
60歳		4					4			
61歳		7					7			
62歳		7				1	2	4		
63歳		6				3	2	1		
64歳		7				1	3	3		

* 市長部局からの出向職員（3人）、再任用職員（消防司令5人、消防司令補14人及び消防士長8人）を含む。

* 市長部局への出向職員（9人）を含まない。

消防職員の勤務年数

令和7年4月1日現在

階級 年数	合計	消 防 正 監	消防監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消防士
合計	541	1	8	36	69	118	134	102	73
1年未満	19								19
1年	18								18
2年	14								14
3年	15								15
4年	14							12	2
5年	21							20	1
6年	20							18	2
7年	20							18	2
8年	18							18	
9年	25						21	4	
10年	18						14	4	
11年	22						18	4	
12年	20						16	4	
13年	19					5	14		
14年	16					8	8		
15年	18					6	12		
16年	18					11	7		
17年	11					6	5		
18年	6					4	2		
19年	7				3	4			
20年	9				1	6	2		
21年	6				2	4			
22年	13		1		6	6			
23年	12			1	4	7			
24年	12			5	2	3	2		
25年	8				3	5			
26年	5			2	2	1			
27年	11			3	3	3	2		
28年	15			6	6	2	1		
29年	17			4	7	5	1		
30年	15			3	7	5			
31年	7			2	1	4			
32年	7			1	2	3	1		
33年	6		1	2	1	2			
34年	7		1	1	5				
35年	5			2	3				
36年	2	1			1				
37年	1			1					
38年	4		3			1			
39年	3				1	2			
40年	6			2	3	1			
41年	7		2	1	3	1			
42年	3					2	1		
43年	8					6	2		
44年	5					2	3		
45年	5				2	2	1		
46年	3				1	1	1		

* 市長部局からの出向職員（3人）、再任用職員（消防司令5人、消防司令補14人及び消防士長8人）を含む。

* 市長部局への出向職員（9人）を含まない。

消防職員の採用状況

区 分	消 防 吏 員 数	採 用 人 数	区 分	消 防 吏 員 数	採 用 人 数	区 分	消 防 吏 員 数	採 用 人 数
昭和39年	36	15	昭和60年	279	4	平成18年	429	7
昭和40年	55	6	昭和61年	280	3	平成19年	435	8
昭和41年	64	10	昭和62年	282	3	平成20年	438	13
昭和42年	69	6	昭和63年	282	3	平成21年	447	18
昭和43年	78	9	平成元年	283	3	平成22年	454	20
昭和44年	91	14	平成2年	288	5	平成23年	461	20
昭和45年	102	13	平成3年	293	6	平成24年	471	24
昭和46年	116	17	平成4年	295	3	平成25年	477	25
昭和47年	123	8	平成5年	296	3	平成26年	486	25
昭和48年	141	21	平成6年	299	5	平成27年	495	23
昭和49年	169	30	平成7年	307	13	平成28年	495	25
昭和50年	188	20	平成8年	317	13	平成29年	501	22
昭和51年	209	22	平成9年	322	11	平成30年	511	24
昭和52年	224	18	平成10年	323	7	令和元年	515	25
昭和53年	233	11	平成11年	327	6	令和2年	525	23
昭和54年	249	17	平成12年	329	8	令和3年	530	15
昭和55年	260	13	平成13年	332	12	令和4年	536	16
昭和56年	266	7	平成14年	337	11	令和5年	536	14
昭和57年	273	8	平成15年	344	12	令和6年	539	17
昭和58年	273	1	平成16年	349	6	令和7年	541	19
昭和59年	277	5	平成17年	426	12			

* 消防吏員数は、各年度とも4月1日の数（市長部局への出向職員を含まない。）

* 平成16年以前の消防吏員数は、合併前の豊田市の吏員数を表す。

消防職員の資格等取得保有状況

令和7年4月1日現在

資 格 ・ 免 許 等	保 有 者 数	資 格 ・ 免 許 等	保 有 者 数
衛 生 管 理 者	41	小 型 移 動 式 ク レ ーン 運 転	264
潜 水 士	223	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 管 理 責 任 者	11
小 型 船 舶 操 縦 士	194	予 防 技 術 資 格 者	41
陸 上 特 殊 無 線 技 士	481	救 急 救 命 士	155
酸 素 欠 乏 ・ 硫 化 水 素 危 険 作 業 主 任 者	129	救 急 資 格 者 (救 急 救 命 士 を 含 ま な い)	339
ガ ス 溶 接	109		

研修実施状況

■業務別研修

分類・種別	研修名	人数	
消防大学校 (4)	救急科第 86 期	1	
	指揮隊長コース第 29 回	1	
	NBC コース第 14 回	1	
	査察業務マネジメントコース第 8 回	1	
愛知県 消防学校 (51)	初任科第 1 1 8 期	8	
	初任科第 1 1 9 期	10	
	警防科第 7 3 期	3	
	危険物科第 6 6 期	2	
	救急科第 1 3 7 期	4	
	救急科第 1 3 8 期	3	
	救急科第 1 3 9 期	4	
	救助科第 5 3 期	2	
	中級幹部科第 7 3 期	4	
	はしご自動車等運用科第 3 9 期	2	
	はしご自動車等運用科第 4 0 期	1	
	地震防災科第 1 9 期	4	
	指揮隊科第 1 3 期	3	
外傷・災害対応講習 B 第 4 2 期	1		
救急救命士 養成研修 (7)	指導救命士養成研修	1	
	救急救命東京研修所	4	
	大阪市消防局高度専門教育訓練センター救急救命士養成課程	2	
資格取得 研修 (42)	第二級陸上特殊無線技士養成講習会	1	
	二級小型船舶操縦士免許取得講習	4	
	二級小型船舶操縦士免許更新（失効）講習	13	
	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会	1	
	小型移動式クレーン運転技能講習会	4	
	危険物取扱者保安講習会	1	
	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習会	4	
	潜水士資格取得	4	
	予防技術検定	4	
	大型特殊自動車免許取得講習	6	
一般研修 (761)	総括 (3)	消防職員の惨事ストレス初級研修	1
		ハラスメント相談窓口担当者研修	1
		消防職員安全衛生管理研修会	1
	運転技術 (11)	1 年目機関員養成講習	11
	予防・調査 (7)	調査技術会議	1
		火災調査研究発表会	1
		火災調査担当者会議	1
		火災科学セミナー	1
		消防機関事故原因究明技術研修会	1
		違反是正事例発表会（全国消防長会東海支部）	1
		防災啓発中央研修講演会	1

分類・種別	研修名	人数	
一般研修 (761)	救急救命士就業前教育病院実習（豊田厚生病院・トヨタ記念病院）	9	
	救急救命士再教育病院実習（豊田厚生病院・トヨタ記念病院・足助病院）	479	
	救急生涯教育病院実習（豊田厚生病院・トヨタ記念病院）	41	
	救急救命士再教育講習（気管挿管再教育含む）	117	
	西三河地区メディカルコントロール協議会包括プロトコル運用教育	9	
	西三河地区メディカルコントロール協議会薬剤投与プロトコル運用	9	
	西三河地区メディカルコントロール協議会気管挿管プロトコル運用	3	
	西三河地区メディカルコントロール協議会ビデオ喉頭鏡気管挿管運用	1	
	西三河地区メディカルコントロール協議会処置範囲拡大プロトコル	7	
	救急業務教育指導者試験	4	
	救急業務教育指導者講習	4	
	愛知県検証担当官等講習	9	
	日本臨床救急医学会総会・学術集会	1	
	第33回全国救急隊員シンポジウム	1	
	M C L S 講習会	4	
	応急手当指導員講習	14	
	警防・救助 (28)	海上災害防止センター CFBT コース	4
		水難救助講習会	4
		陸上自衛隊化学学校委託教育訓練（選考漏れ）	-
		全国山岳遭難対策協議会	1
		山岳遭難救助研修会	1
		全国消防救助シンポジウム	16
		全国消防技術者会議	1
N B C 災害担当消防職員等に対する教養研修	1		
合 計		865	

■ 階層別研修、専門研修及び職場研修

分類・種	研修名	人数
階層別研修 (214)	新規採用職員研修	18
	若手職員育成研修	64
	若手職員育成研修指導者研修	17
	消防副士長研修（Eラーニング）	22
	消防士長研修（Eラーニング）	19
	小隊長研修	17
	新任担当長研修	13
	新任管理者研修	16
	ハラスメント研修	28
専門研修 (406)	消防活動研修	239
	指揮隊研修	9
	予防査察研修	52
	緊急消防援助隊の指揮要領に関する研修	50
	指令業務研修（Eラーニング）※行政職1年目研修除く	30
	指令課職員教育実施要綱に基づく教育	26
職場研修 (1,693)	足助署	408
	北署	383
	中署	353
	南署	549
合 計		2,313

■職員研修

分類・種別	研修名	人数
集合研修 (333)	一般研修	221
	特別研修	112
派遣研修 (42)	市町村アカデミー	4
	国際アカデミー	3
	愛知県市町村振興協会研修センター	3
	自己啓発事業（自主学習援助事業）	32
合 計		375

研修実施状況（消防大学校・救急救命士養成所・愛知県消防学校）

(人)

区 分	研修名	年度					
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	
派遣研修	幹 部 科	1	1	1			
	上 級 幹 部 科		1				
	警 防 科	1					
	救 助 科				1		
	救 急 科	1				1	
	予 防 科		1				
	危 険 物 科						
	火 災 調 査 科						
	指 揮 隊 長 コ ー ス	1	1	1	1	1	
	高度救助・特別高度救助コース			1			
	N B C コ ー ス	1				1	
	危機管理・国民保護コース						
	消防団活性化推進コース						
	査察業務マネジメントコース	1		1		1	
	特別講習会及び消防大学校フォーラム	1					
	救 急 救 命 士	6	6	6	6	6	
	愛知県消防学校	初 任 科	24	15	16	14	18
		警 防 科		4	3	4	3
		予 防 査 察 科		4		4	
		危 険 物 科			2		2
		火 災 調 査 科		1		1	
		救 急 科	16	26	11	10	11
		救 助 科		4	3	4	2
		初 級 幹 部 科				4	
		中 級 幹 部 科		4			4
		上 級 幹 部 科			4		
水 難 救 助 科				1			
は し ご 自 動 車 等 運 用 科			3	3	3	3	
地 震 防 災 科		4	4	4	4	4	
指 揮 隊 科			4	3	4	3	
外 傷 ・ 災 害 対 応 講 習				5	1		

119番回線別受信状況

*「その他」=専用回線、指令端末装置等

(件)

種別 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
固定電話	447	333	365	402	344	301	400	364	309	414	375	412	4,466
I P 電話	765	672	686	647	606	650	788	789	659	649	688	788	8,387
携帯電話	1,394	1137	1,203	1,168	1,210	1,277	1,776	1,493	1,298	1,298	1,315	1,564	16,133
その他	57	2	1	7	5	21	13	13	6	7	11	7	150
件 数	2,663	2,144	2,255	2,224	2,165	2,249	2,977	2,659	2,272	2,368	2,389	2,771	29,136

市民案内利用状況

*「市民案内」=災害発生時に市民が「市民案内の電話番号」へ問い合わせた件数

(件)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
件 数	3,617	2,380	2,292	2,553	3,095	3,383	2,441	2,879	2,160	2,495	2,696	3,327	33,318

口頭指導状況

*心肺停止事案で病院搬送した場合（口頭指導実施は一事案に重複有）

(件)

種別 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
心肺蘇生	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
気道異物除去法	2	2	4	8	0	1	1	1	1	0	1	2	23
止血	51	36	28	45	47	31	24	33	20	25	13	29	382
熱傷手当	2	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	7
指趾切断手当	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
心臓マッサージ	85	56	47	37	40	42	28	38	37	23	40	39	512
除細動	4	10	9	12	10	6	6	5	11	4	15	5	97

119番誤報件数

*「誤報」=間違い通報の件数

(件)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
件 数	166	195	171	162	177	196	255	208	196	176	184	216	2,302

月別火災状況

区 分		合 計	1 月	2 月	3 月	4 月	
件 数	合 計	113	18	12	10	1	
	建 物	54	7	3	7		
	林 野	4	1	1	2		
	車 両	11	1				
	そ の 他	44	9	8	1	1	
焼 損 棟 数	合 計	67	10	3	7		
	火 元	全 焼	9	3			
		半 焼	5		1		
		部 分 焼	12	1	1	2	
		ぼ や	29	3	1	5	
	延 焼	全 焼	2				
		半 焼					
		部 分 焼	7	1			
ぼ や		3	2				
焼損面積	建物 (床) (㎡)	1,980	238	40	26		
	林 野 (a)	33	1	16	16		
気象状況	風速	6 m以上	11	2		4	
		6 m未満	102	16	12	6	1
	湿度	55%以上	62	10	4	2	
		55%未満	51	8	8	8	1
死 傷 者	死 者	4	1				
	負 傷 者	13			1		
高 速 道 路 *		1					
管外出動 (高速道路を除く)		1					

* 管内の新東名高速道路、東名高速道路、伊勢湾岸自動車道及び東海環状自動車道に出動した件数

5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
8	10	7	9	9	7	11	11
6	6	4	2	4	6	6	3
1	4	1	1	1		1	1
1		2	6	4	1	4	7
7	9	4	4	7	7	6	3
	1	1		2	1	1	
	1			1		1	1
2			1		4	1	
4	4	3	2	1	1	3	2
	1			1			
	2		1	2	1		
1							
55	229	190		334	261	516	91
1					1		3
7	10	7	9	9	6	11	8
6	8	4	6	7	4	5	6
2	2	3	3	2	3	6	5
				1	1	1	
3	2			4	3		
							1
1							

火 災

曜日別火災状況

区 分	出 火 件 数					死 傷 者 数	
	合 計	建 物	林 野	車 両	そ の 他	死 者	負 傷 者
合 計	113	54	4	11	44	4	13
日	18	11		2	5	2	1
月	18	7	1	2	8		2
火	15	6		3	6		
水	13	5	1	1	6		2
木	15	11			4	2	
金	17	8	1	3	5		7
土	17	6	1		10		1
不明							

時間別火災状況

区 分	出 火 件 数					死 傷 者 数	
	合 計	建 物	林 野	車 両	そ の 他	死 者	負 傷 者
合 計	113	54	4	11	44	4	13
0 ~ 1							
1 ~ 2	1				1		1
2 ~ 3	2	2				1	
3 ~ 4	3	2			1		1
4 ~ 5	1				1		
5 ~ 6	2	2					
6 ~ 7	1				1		
7 ~ 8	5	3			2		
8 ~ 9	4	2	1		1		1
9 ~ 10	8	5			3		1
10 ~ 11	3	2		1			
11 ~ 12	7	3			4		
12 ~ 13	6		1	1	4		
13 ~ 14	9	1		2	6		1
14 ~ 15	10	2	1		7		2
15 ~ 16	10	5	1		4		1
16 ~ 17	6	3		2	1		2
17 ~ 18	5	2		1	2	1	1
18 ~ 19	5	3		1	1		
19 ~ 20	3	2			1		
20 ~ 21	5	4			1		
21 ~ 22	7	4		1	2	1	2
22 ~ 23	2	2					
23 ~ 24	4	2		2			
不明	4	3			1	1	

損 害 額 (千 円)						
合 計	建 物*	収容物*	林 野	車 両	その他	爆 発
379,516	216,470	21,193		136,827	4,586	440
30,428	26,656	2,680		650	2	440
63,522	4,025	1,465		54,520	3,512	
14,930	9,677	4,593		455	205	
194,478	113,737	2,061		78,680		
40,015	31,828	8,045		13	129	
18,998	14,069	1,682		2,509	738	
17,145	16,478	667				

*建物火災（火災種別）の損害額は建物及び収容物の合計損害額

損 害 額 (千 円)						
合 計	建 物	収容物	林 野	車 両	その他	爆 発
379,516	216,470	21,193		136,827	4,586	440
22,273	21,245	588				440
3,364	2,500	863			1	
303		303				
9,891	9,067	704			120	
14,320	12,623	1,697				
10,507	8,625	1,882				
12,922	5,392	7,446		81	3	
169,553	90,767	2		78,680	104	
676				600	76	
96				5	91	
5,935	5,304	620			11	
27,696	26,375	1,287			34	
59,131	1,618	73		53,940	3,500	
19,467	17,682	1,535		250		
169		117		50	2	
3,183		3,183				
8,886	8,561	325				
2,320	1,519	562		200	39	
3,922	312	1		3,009	600	
4,902	4,880	5		12	5	

火 災

火災種別出火原因

原因		合	た	こ	か	風		焼	ス	こ	ボ	煙	排	電	電	
火災種別		計	ば	ん	ま	呂	炉	却	ト	た	イ	突	気	気	気	
			こ	ろ	ど	か		炉	ー	つ	ラ	・	管	機	装	
			こ	ろ	ど	ま			ブ		ー	煙		器	置	
			こ	ろ	ど	ま						道				
合計		113	9	3			2		2				2	7	1	
建 物 火 災	小計	54	5	3			2		2					6	1	
	住宅火災	専用	14	2	1										1	
		共同	13	3	1					1					2	1
		併用	2													
	防火対象物の火災	遊技場														
		飲食店	4							1						
		物品販売店	1													
		工場	7					1							2	
		倉庫														
		事務所	2												1	
複合用途(特防)		6		1				1								
複合用途(非特)																
その他	5															
林野火災	4															
車両火災	11											2	1			
その他の火災	44	4														

電話等配線	内燃機関	配線器具	火遊び	ライター	たき火	溶接機・切断機	灯火	衝突の火花	取灰	火入れ	放火	放火の疑い	その他	不明・調査中
5	1	4	2	1	16			3		8	4	6	24	13
4		3									2	3	12	10
1		1									1	1	2	4
1											1	2		1
													2	
1													1	1
													1	
1		1											1	1
														1
		1											3	
										1			2	2
					3								1	
	1							3					2	2
1		1	2	1	13					7	2	3	9	1

出火状況及び損害額の推移

区 分		令和 6 年	令和 5 年	令和 4 年	令和 3 年	令和 2 年
豊 田 市	人 口	414,502	416,747	418,284	421,280	424,500
	件 数	113	139	107	113	118
	出火率*1	2.7	3.3	2.6	2.7	2.8
損害額の合計 (千円)		379,516	210,979	196,514	245,679	461,192
1 件あたりの 損 害 額 (円)		3,358,549	1,517,835	1,836,579	2,174,150	3,908,407
愛知県出火率		調査中	2.7	2.5	2.4	2.5
建 物 火 災	件 数	54	52	55	58	45
	焼損床面積 (㎡)	1,980	1,951	2,656	1,876	1,439
	焼損表面積 (㎡)	204	72	153	272	16
	損 害 額 (千 円)	316,832 (爆発損害を含む)	200,705 (爆発損害を含む)	160,136 (爆発損害を含む)	242,141 (爆発損害を含む)	119,575 (爆発損害を含む)
	1 件あたりの 焼損床面積 (㎡)	37	38	48	32	32
	1 件あたりの 損害額 (円)	5,867,259	3,859,712	2,911,564	4,174,845	2,657,222
林 野 火 災	件 数	4	4	5	2	3
	焼損面積 (a)	33	102	167	19	15
	損 害 額 (千円)			18	4	
車 両 火 災	件 数	11	16	9	7	19
	損 害 額 (千円)	62,275	5,684	35,875	2,499	9,110
そ の 他 火 災	件 数	44	67	38	46	51
	損 害 額 (千円)	409	4,590	485	1,035	3323,507
航 空 機 火 災	件 数					
	損 害 額 (千円)					

*1 出火率とは、人口1万人あたりの出火件数（人口は、当該年4月1日現在の住民基本台帳による。）

主な火災の概要

	月	日	時	分	覚知方法	火災 種別	出火場所	用途	焼損程度	死者	負傷者
1	1	21	21	30	専用電話（携帯電話）	建物	押山町	その他の建築物の名目	全焼	1	
2	2	24	15	10	専用電話（携帯電話）	建物	市木町	住宅	半焼		
3	5	9	10	27	専用電話（携帯電話）	建物	平井町	住宅	部分焼		
4	6	12	8	21	専用電話（IP電話）	建物	宮上町	住宅	半焼		
5	9	15	17	12	専用電話（IP電話）	建物	駒場町	住宅	半焼	1	
6	10	11	14	13	専用電話（携帯電話）	建物	石野町	住宅	部分焼		2
7	10	24	不明	不明	加入電話（固定電話）	建物	二夕宮町	住宅	全焼	1	
8	11	13	11	35	専用電話（携帯電話）	建物	トヨタ町	実験室	部分焼		
9	11	21	2	48	専用電話（携帯電話）	建物	丸山町	住宅	全焼	1	
10	12	30	16	19	加入電話（固定電話）	車両	猿投町				

* 次のいずれかに該当するものを掲載

- 1 死者1人以上又は負傷者2人以上
- 2 損害額10,000千円以上
- 3 焼損面積200㎡以上

高速道路火災出動状況の推移

(件)

発生場所 種別	合 計			豊 田 市			岡 崎 市			刈 谷 市			豊 明 市			み よ し 市		
	合 計	車 両	そ の 他	小 計	車 両	そ の 他	小 計	車 両	そ の 他	小 計	車 両	そ の 他	小 計	車 両	そ の 他	小 計	車 両	そ の 他
令和2年	7	5	2	4	4		2	1	1							1		1
令和3年	3	3		3	3													
令和4年	3	3		2	2													
令和5年	9	8	1	6	6		2	2								1		1
令和6年	2	2		1	1		1	1										

* 新東名高速道路、東名高速道路、伊勢湾岸自動車道及び東海環状自動車道に出動した件数

その他の出動状況（警戒・探索・その他）

(件)

署所	月	合 計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			合 計	4,280	442	292	336	295	336	348	397	389	316	329
北 消 防 署	小 計	1,112	119	72	73	78	110	95	94	97	88	86	84	116
	北 消 防 署	546	57	32	39	38	63	41	44	45	50	37	42	58
	藤岡小原分署	268	31	21	14	21	17	28	22	25	14	25	18	32
	保見出張所	220	22	16	18	14	24	16	20	18	19	16	20	17
	力石出張所	78	9	3	2	5	6	10	8	9	5	8	4	9
中 消 防 署	小 計	1,445	132	93	118	99	97	129	144	149	98	115	124	147
	中 消 防 署	659	62	41	52	45	41	59	58	73	42	59	56	71
	東 分 署	360	31	25	29	23	27	30	45	37	22	23	34	34
	逢妻分署	241	19	17	24	17	17	26	23	23	18	16	16	25
	松平出張所	185	20	10	13	14	12	14	18	16	16	17	18	17
南 消 防 署	小 計	1,419	157	112	125	93	97	100	128	122	105	104	141	135
	南 消 防 署	480	53	39	47	32	25	30	44	45	30	31	56	48
	西 分 署	411	46	39	33	30	34	25	31	26	35	34	41	37
	末野原分署	319	37	23	28	18	24	27	32	32	19	19	26	34
	高岡出張所	209	21	11	17	13	14	18	21	19	21	20	18	16
足 助 消 防 署	小 計	304	34	15	20	25	32	24	31	21	25	24	22	31
	足助消防署	142	14	8	5	14	15	12	11	9	12	12	15	15
	旭出張所	49	3	3	6	4	6	4	2	6	5	4	2	4
	稲武出張所	54	9	3	1	3	2	6	6	5	4	4	4	7
	下山出張所	59	8	1	8	4	9	2	12	1	4	4	1	5

月別救急出動状況

(件)

種別 月	合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他
合計	21,629	69		7	1,113	175	115	2,834	40	164	15,227	1,885
1月	1,987	9			75	10	3	296	2	7	1,437	148
2月	1,653	2		1	65	14	4	209	2	12	1,169	175
3月	1,691	8		1	86	15	9	223	3	11	1,175	160
4月	1,622	1		1	92	18	8	232	3	18	1,102	147
5月	1,608	4			90	17	17	226	6	13	1,108	127
6月	1,667	16		1	94	16	16	232	4	16	1,122	150
7月	2,172	5			108	10	18	204	2	11	1,642	172
8月	2,028	2		2	89	21	4	236	3	11	1,480	180
9月	1,670	7		1	72	15	7	212	6	20	1,212	118
10月	1,694	6			118	14	14	241	2	19	1,124	156
11月	1,705	4			110	13	10	245	4	11	1,153	155
12月	2,132	5			114	12	5	278	3	15	1,503	197

曜日別救急出動状況

(件)

種別 曜日	合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他
合計	21,629	69		7	1,113	175	115	2,834	40	164	15,227	1,885
日	2,875	10		1	136	5	35	408	5	15	2,128	132
月	3,431	5			158	30	5	445	1	24	2,430	333
火	3,222	12		1	176	26	7	416	6	22	2,240	316
水	2,960	9		3	151	31	10	350	6	27	2,079	294
木	2,983	7			159	33	6	391	6	34	2,074	273
金	3,135	15		2	170	23	14	384	8	25	2,166	328
土	3,023	11			163	27	38	440	8	17	2,110	209

時間帯別救急出動状況

(件)

種別 時間帯	合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他
合計	21,629	69		7	1,113	175	115	2,834	40	164	15,227	1,885
0～2	885	2			19	5		95	2	13	715	34
2～4	755	4		1	17	2		79	4	4	614	30
4～6	910	2			34	3		86	3	4	744	34
6～8	1,543	4			118	6		179	2	10	1,198	26
8～10	2,638	8		2	160	28	7	381	2	15	1,869	166
10～12	2,787	9			112	30	30	419	4	26	1,729	428
12～14	2,370	2		2	132	32	21	323	1	15	1,504	338
14～16	2,281	14			128	32	25	318	3	14	1,516	231
16～18	2,252	8		2	175	18	14	335	2	21	1,420	257
18～20	2,122	4			116	7	11	261	3	17	1,532	171
20～22	1,736	8			71	6	7	224	6	15	1,305	94
22～24	1,350	4			31	6		134	8	10	1,081	76

署所別・種別救急出動状況

(件)

種別 署所	合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他
合 計	21,629	69		7	1,113	175	115	2,834	40	164	15,227	1,885
北 消 防 署	2,600	6			103	26	25	300	2	16	1,700	422
藤岡小原分署	668	1		1	29	16	5	117		5	477	17
保見出張所	799				53	11	21	84	4	4	561	61
力石出張所	461	1			45	8	5	77	1	2	305	17
中 消 防 署	2,544	14		2	121	14	6	335	2	18	1,790	242
日勤救急隊	396	5			18	3	2	45		5	239	79
東 分 署	2,089	3			74	8	11	295	6	17	1,557	118
逢妻分署	3,425	12			158	15	17	472	15	24	2,324	388
松平出張所	844	2			23	4	2	120		4	616	73
南 消 防 署	1,856	14		2	104	14	5	246	5	15	1,296	155
西 分 署	1,959	3			105	21	6	227	2	17	1,501	77
末野原分署	1,652	4			107	7	4	191	2	18	1,212	107
高岡出張所	1,256	1			85	19	1	136	1	11	977	25
足助消防署	433	2		2	39		4	70		3	239	74
旭出張所	216	1			16	2		45		1	144	7
稲武出張所	175				20	1	1	30		3	112	8
下山出張所	236				13	6		43		1	159	14
そ の 他	20							1			18	1

救急出動状況の推移

(件)

種別 署所	合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他
令 和 2 年	16,721	62	1	11	1,051	191	76	2,365	38	181	11,286	1,459
令 和 3 年	17,403	60		3	1,023	166	81	2,463	34	185	11,816	1,572
令 和 4 年	20,893	60	1	11	1,060	183	111	2,719	35	178	14,812	1,723
令 和 5 年	21,722	71	2	1	1,069	200	105	2,957	34	163	15,364	1,756
令 和 6 年	21,629	69		7	1,113	175	115	2,834	40	164	15,227	1,885

発生場所別救急搬送人員

(人)

発生場所 事故種別	合 計	住 宅	公衆出入場所	仕 事 場	道 路	そ の 他
合 計	19,635	11,953	5,083	817	1,657	125
急 病	13,816	10,165	2,555	638	408	50
交 通	1,014	8	41	3	954	8
一 般 負 傷	2,617	1,650	607	22	276	62
そ の 他	2,188	130	1,880	154	19	5

年齢別・性別搬送人員

(人)

種別 年齢	性 別	合 計	小	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	そ
			計	災	然	難	通	働	動	般	損	病	の	
				害	災			害	競	負	害	行		他
				害	害				技	傷		為		
新生児 28日以内	男	81	48										2	46
	女		33										6	27
乳幼児 0～6	男	831	487	1			10			102			358	16
	女		344				6			54			265	19
少年 7～10	男	209	136				13		5	35			73	10
	女		73				4			14			53	2
少年 11～17	男	516	321	1			86		40	41	1	2	134	16
	女		195				32		9	15		6	121	12
成人 18～30	男	1,417	772	2			151	24	25	48	3	14	478	27
	女		645				66	2	6	21	2	18	446	84
成人 31～49	男	1,978	1,149	1			150	55	13	84	6	10	760	70
	女		829				65	4	2	49	4	25	543	137
成人 50～64	男	2,492	1,534	2			129	45	2	158		9	1,026	163
	女		958				63	13	1	100	2	9	690	80
高齢者 65～79	男	4,976	2,894	1			81	19	1	336		4	2,158	294
	女		2,082				76	6	3	328	2	3	1,466	198
高齢者 80以上	男	7,135	3,342	2			44	3	2	459	7	3	2,550	272
	女		3,793	1			38			773	2	3	2,687	289
小 計	男	19,635	10,683	10			664	146	88	1,263	17	42	7,539	914
	女		8,952	1			350	25	21	1,354	12	64	6,277	848
合 計		19,635	19,635	11			1,014	171	109	2,617	29	106	13,816	1,762

傷病程度別搬送人員

(人)

程 度	種 別	合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他
新 生 児	死 亡	1										1	
	重 症	16										2	14
	中 等 症	57										2	55
	軽 症	7										3	4
	その他												
	計	81											8
乳 幼 児	死 亡	1										1	
	重 症	16							3			11	2
	中 等 症	143				3			12			103	25
	軽 症	671	1			13			141			508	8
	その他												
	計	831	1			16			156			623	35
少 年	死 亡	2									1	1	
	重 症	26				7			2		1	12	4
	中 等 症	128				17		7	13		2	66	23
	軽 症	569	1			111		47	90	1	4	302	13
	その他												
	計	725	1			135		54	105	1	8	381	40
成 人	死 亡	41	1			3			3		10	22	2
	重 症	435	1			34	9	1	17		26	255	92
	中 等 症	1,400	2			112	44	13	80	2	18	778	351
	軽 症	4,011	1			475	90	35	360	15	31	2,888	116
	その他												
	計	5,887	5			624	143	49	460	17	85	3,943	561
高 齢 者	死 亡	302				2	1		31		1	265	2
	重 症	1,168	1			23	2		110	1	5	868	158
	中 等 症	4,798	1			38	10	1	542		2	3,497	707
	軽 症	5,843	2			176	15	5	1,213	10	5	4,231	186
	その他												
	計	12,111	4			239	28	6	1,896	11	13	8,861	1,053
合 計	死 亡	347	1			5	1		34		12	290	4
	重 症	1,661	2			64	11	1	132	1	32	1,148	270
	中 等 症	6,526	3			170	54	21	647	2	22	4,446	1,161
	軽 症	11,101	5			775	105	87	1,804	26	40	7,932	327
	その他												
	計	19,635	11			1,014	171	109	2,617	29	106	13,816	1,762

- * 新生児 生後28日以内
- * 乳幼児 生後29日以上満7歳未満
- * 少年 満7歳以上満18歳未満
- * 成人 満18歳以上満65歳未満
- * 高齢者 満65歳以上
- * 死亡 初診時で死亡が確認されたもの
- * 重症 3週間以上の入院加療が必要なもの
- * 中等症 入院加療が必要なもの（重症を除く）
- * 軽症 入院加療が必要ないもの
- * その他 医師の診断がないもの（他の場所に搬送）

医療機関告示開設別搬送人員

(人)

種 別		合	う	急	う	交	う	一	う	そ	う	
医療機関		計	ち	病	ち	通	ち	般	ち	他	ち	
			管		管		管	負	管		管	
			外		外		外	傷	外		外	
救急告示医療機関	国 立	14	14	4	4					10	10	
	公 立	126	126	67	67	16	16	12	12	31	31	
	公 的	6,873	86	4,818	47	243	2	887	2	925	35	
	私 的	病 院	11,870	850	8,452	583	688	91	1,621	125	1,109	51
		診 療 所	10		1		1		8			
	計	18,893	1,076	13,342	701	948	109	2,528	139	2,075	127	
その他の医療機関	国 立											
	公 立	31	31	5	5					26	26	
	公 的											
	私 的	病 院	657	323	432	215	64	22	83	24	78	62
		診 療 所	54	36	37	29	2	1	6		9	6
	計	742	390	474	249	66	23	89	24	113	94	
計	国 立	14	14	4	4					10	10	
	公 立	157	157	72	72	16	16	12	12	57	57	
	公 的	6,873	86	4,818	47	243	2	887	2	925	35	
	私 的	病 院	12,527	1,173	8,884	798	752	113	1,704	149	1,187	113
		診 療 所	64	36	38	29	3	1	14		9	6
	計	19,635	1,466	13,816	950	1,014	132	2,617	163	2,188	221	
その他の場所	接骨院等											
	そ の 他											
	計											
合 計		19,635	1,466	13,816	950	1,014	132	2,617	163	2,188	221	

* その他（火災、労働災害、水難、運動競技、加害、自損行為、転院搬送等）

年齢別搬送人員の推移

年 年齢	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
6歳以下	627 人	658 人	869 人	1,206 人	912 人
	4.2 %	4.2 %	4.7 %	6.1 %	4.6 %
7歳～17歳	530 人	475 人	609 人	726 人	725 人
	3.5 %	3.0 %	3.3 %	3.7 %	3.7 %
18歳～64歳	4,908 人	4,945 人	5,808 人	6,138 人	5,887 人
	32.6 %	31.7 %	31.5 %	31.0 %	30.0 %
65歳以上	8,984 人	9,538 人	11,167 人	11,732 人	12,111 人
	59.7 %	61.1 %	60.5 %	59.2 %	61.7 %
合 計	15,049 人	15,616 人	18,453 人	19,802 人	19,635 人

* 小数点第 2 位を四捨五入して表記しているため、合計が 100%にならない場合がある。

高速道路救急出動状況の推移

(件)

場所 種別 年	合計			東名高速道路			伊勢湾岸自動車道		
	合計	交通	その他	合計	交通	その他	合計	交通	その他
令和2年	54	20	34	32	13	19	22	7	15
令和3年	37	17	20	22	11	11	15	6	9
令和4年	66	26	40	35	14	21	31	12	19
令和5年	58	16	42	28	6	22	30	10	20
令和6年	58	32	26	25	12	13	33	20	13

救助出動状況

地域		種別	合計	火災	交通	水難	自然	機械	建物	ガス・酸欠	破裂	その他
合計	出動件数	314	8	54	8			6	86	6		146
	活動件数	183	8	33	7			4	59	6		66
	救助人員	166	4	37	24			3	43	5		50
	出動隊数	1,372	83	258	69			25	353	24		560
	出動人員	4,525	263	863	202			85	1,195	81		1,836
豊田 市	出動件数	304	8	47	7			6	86	6		144
	活動件数	175	8	27	7			4	59	6		64
	救助人員	156	4	29	24			3	43	5		48
	出動隊数	1,309	83	216	59			25	353	24		549
	出動人員	4,313	263	720	174			85	1,195	81		1,795
自動車 専用 道路等	出動件数	9		7								2
	活動件数	8		6								2
	救助人員	10		8								2
	出動隊数	53		42								11
	出動人員	184		143								41
管 外	出動件数	1			1							
	活動件数											
	救助人員											
	出動隊数	10			10							
	出動人員	28			28							

※水難救助の管外は、岡崎市

月別救助出動状況

種別 月	出動件数	活動件数	救助人員	出動件数内訳								
				火災	交通	水難	自然	機械	建物	ガス・酸欠	破裂	その他
合計	314	183	166	8	54	8	0	6	86	6	0	146
1月	27	12	11		3			1	4			19
2月	23	13	10		2	1			8			12
3月	29	17	29	2	3	1			6			17
4月	20	10	7		5	1			8			6
5月	24	16	12		4			1	7	2		10
6月	27	11	9		3	1			5	1		17
7月	33	22	18		6	1		2	11			13
8月	30	18	15		9	2			6			13
9月	20	14	13	1	3	1			7	1		7
10月	22	18	16	4	6			1	4	2		5
11月	27	15	13	1	4			1	9			12
12月	32	17	13		6				11			15

救助出動状況の推移

種別		年					
		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
救助人員		155	233	130	122	134	166
合計		307	302	267	267	311	314
火災	建物	4	6	4	8	7	8
	建物以外						
交通		71	67	54	50	60	54
水難		10	7	5	8	3	8
自然		1	2			2	
機械		9	8	10	6	3	6
建物		67	72	73	45	92	86
ガス・酸欠		2	5	10	3	3	6
破裂		1					
その他		142	135	111	157	141	146

火災・救急・救助件数暦年表

(件)

種別 年	火災	救急	救助	種別 年	火災	救急	救助
昭和31年	10			平成2年	201	6,095	140
昭和32年	22			平成3年	208	6,252	151
昭和33年	29			平成4年	216	6,301	131
昭和34年	39			平成5年	212	6,318	158
昭和35年	36			平成6年	256	6,873	177
昭和36年	53			平成7年	259	7,367	206
昭和37年	59			平成8年	251	7,950	187
昭和38年	70	74		平成9年	243	8,581	198
昭和39年	89	329		平成10年	193	9,036	191
昭和40年	95	425		平成11年	185	9,580	210
昭和41年	67	589		平成12年	219	10,496	194
昭和42年	130	957		平成13年	255	11,363	219
昭和43年	143	1,139		平成14年	253	11,756	215
昭和44年	174	1,524		平成15年	211	12,682	228
昭和45年	240	1,776		平成16年	230	13,868	237
昭和46年	278	1,878		平成17年	268	15,962	245
昭和47年	223	1,912		平成18年	220	15,352	271
昭和48年	303	2,170	3	平成19年	198	15,588	236
昭和49年	279	2,234	10	平成20年	202	15,152	233
昭和50年	255	2,051	31	平成21年	229	14,343	219
昭和51年	254	2,219	60	平成22年	175	15,621	235
昭和52年	259	2,665	56	平成23年	205	16,134	239
昭和53年	292	2,981	65	平成24年	162	16,914	266
昭和54年	199	3,284	51	平成25年	231	17,246	310
昭和55年	221	3,657	65	平成26年	194	17,027	319
昭和56年	235	3,941	58	平成27年	152	17,666	292
昭和57年	275	4,333	68	平成28年	131	18,041	292
昭和58年	244	4,428	83	平成29年	132	18,213	339
昭和59年	291	4,528	82	平成30年	130	19,262	279
昭和60年	250	4,771	81	令和元年	137	19,162	307
昭和61年	302	4,785	116	令和2年	118	16,721	302
昭和62年	265	5,069	119	令和3年	113	17,403	267
昭和63年	230	5,414	140	令和4年	107	20,893	277
平成元年	259	5,761	144	令和5年	139	21,722	311
				令和6年	139	21,629	314

*昭和31年 4月 拳母市消防本部・署設置

*昭和31年 7月 消防業務開始

*昭和31年 9月 高橋村合併

*昭和38年 9月 救急業務開始

*昭和39年 3月 上郷町合併

*昭和40年 9月 高岡町合併

*昭和42年 4月 猿投町合併

*昭和45年 4月 松平町合併

*昭和46年 11月 救助工作車運用開始

*平成 4年 10月 高規格救急車運用開始

*平成 8年 4月 藤岡町・小原村消防事務受託業務開始

*平成 17年 4月 豊田市、藤岡町、小原村、足助町、下山村、旭町、稲武町合併

防火対象物査察実施状況

防火対象物：令和7年4月1日現在

立入検査数：令和6年度の実施数（件）

防火対象物の区分	区分	防火対象物					立入検査数				
		合計	一 種	二 種	三 種	そ の 他	合計	一 種	二 種	三 種	そ の 他
豊 田 市 合 計		15,836	892	3,069	5,782	6,093	2,271	345	722	1,178	26
1	イ 劇場、映画館	9	9				3	3			
	ロ 公会堂、集会場	381	80	2	172	127	65	32		33	
2	イ キャバレー、カフェ	5	1		4		1			1	
	ロ 遊技場、ダンスホール	24	20	1	3		7	4	3		
	ハ 風俗営業等を営む店舗	1			1		2	1		1	
	ニ カラオケボックス等	5	1	2	2		1		1		
3	イ 待合、料理店等										
	ロ 飲食店	293	18	9	266		179	15	6	157	1
4	百貨店、マーケット等	584	118	44	309	113	126	51	1	74	
5	イ 旅館、ホテル等	81	53	2	26		22	13		9	
	ロ 共同住宅、マンション等	4,909	4	22	1,920	2,963	228		6	209	13
6	イ 病院、診療所	223	50	4	169		53	9	1	43	
	ロ 老人福祉施設等	123	47	26	50		38	21	6	11	
	ハ デイサービス等	272	95	28	149		78	34	5	39	
	ニ 幼稚園、特別支援学校	28	16	5	7		16	16			
7	小学校、各種学校等	508	8		484	16	96	6		89	1
8	図書館、美術館	23	4	8	10	1	4		4		
9	イ 蒸気浴場、気浴場										
	ロ イ以外の公衆浴場	3		1		2	2				2
10	車両停車場、航空機発着場	11		3	2	6					
11	神社、寺院	257	3	1	126	127	27			26	1
12	イ 工場、作業場	2,503	12	1,450	228	813	383	6	336	41	
	ロ 映画スタジオ										
13	イ 自動車車庫	274	52	78	114	30	45	14	7	23	1
	ロ 飛行機格納庫	1		1							
14	倉庫	1,121	12	588	174	347	200	11	142	44	3
15	前各号以外の事業所	1,916	69	490	710	647	263	18	114	130	1
16	イ 特定の複合用途防火対象物	1,197	195	87	700	215	344	87	36	220	1
	ロ イ以外の複合用途防火対象物	1,078	24	214	155	685	83	3	52	26	2
17	文化財	4	1	2	1		5	1	2	2	
18	アーケード	2		1		1					
19	山林										
20	舟車										

消防用設備等点検状況

令和7年4月1日現在 (件)

区分		点検を要する防火対象物			報告済防火対象物		
		合計	1000 ㎡未満	1000 ㎡以上	合計	1000 ㎡未満	1000 ㎡以上
豊田市合計		14,492	10,752	3,740	9,706	6,388	3,318
1	イ 劇場、映画館	9	1	8	9	1	8
	ロ 公会堂、集会場	308	266	42	151	113	38
2	イ キャバレー、カフェ	5	5				
	ロ 遊技場、ダンスホール	24	7	17	22	6	16
	ハ 風俗営業等を営む店舗	1	1				
	ニ カラオケボックス等	5	5		4	4	
3	イ 待合、料理店等						
	ロ 飲食店	280	278	2	177	175	2
4	百貨店、マーケット等	567	462	105	397	301	96
5	イ 旅館、ホテル等	81	41	40	70	33	37
	ロ 共同住宅、マンション等	4,760	3,697	1,063	3,490	2,529	961
6	イ 病院、診療所	213	172	41	163	125	38
	ロ 老人福祉施設等	118	76	42	93	57	36
	ハ デイサービス等	259	190	69	218	152	66
	ニ 幼稚園、特別支援学校	28	14	14	27	13	14
7	小学校、各種学校等	485	207	278	445	178	267
8	図書館、美術館	22	17	5	21	16	5
9	イ 蒸気浴場、熱気浴場						
	ロ イ以外の公衆浴場	3	2	1	1		1
10	車両停車場、航空機発着場	10	7	3	9	6	3
11	神社、寺院	198	189	9	111	103	8
12	イ 工場、作業場	2,317	1,424	893	1,405	639	766
	ロ 映画スタジオ						
13	イ 自動車車庫	259	121	138	200	84	116
	ロ 飛行機格納庫	1	1		1	1	
14	倉庫	958	751	207	605	429	176
15	前各号以外の事業所	1,506	1,068	438	1,061	675	386
16	イ 特定の複合用途防火対象物	1,123	946	177	643	495	148
	ロ イ以外の複合用途防火対象物	947	800	147	380	250	130
17	文化財	4	3	1	2	2	
18	アーケード	1	1		1	1	
19	山林						
20	舟車						

中高層建築物の現況

令和7年4月1日現在 (件)

区分		合計	3階	4階	5階	6階	7階	8階	9階	10階	11階	12階	13階	14階	15階以上
防火対象物の区分															
豊田市合計		4,115	2,161	905	423	182	126	98	38	50	31	17	15	28	41
1	イ 劇場、映画館	1	1												
	ロ 公会堂、集会場	15	10	3	2										
2	イ キャバレー、カフェ	2	2												
	ロ 遊技場、ダンスホール	5	3		2										
	ハ 風俗営業等を営む店舗	1	1												
3	イ 待合、料理店等														
	ロ 飲食店	22	21			1									
4	百貨店、マーケット等	26	24	1	1										
5	イ 旅館、ホテル等	39	14	3	7	1	6	2		5				1	
	ロ 共同住宅、マンション等	2,089	842	567	268	103	70	65	25	39	27	11	9	26	37
6	イ 病院、診療所	40	23	6	4	1	4	1	1						
	ロ 老人福祉施設等	16	9	5	1	1									
	ハ デイサービス等	17	14	3											
	ニ 幼稚園、特別支援学校	2	2												
7	小学校、各種学校等	189	104	64	10	5	5	1							
8	図書館、美術館	2	1	1											
9	イ 蒸気浴場、熱気浴場														
	ロ イ以外の公衆浴場	1	1												
10	車両停車場、航空機発着場	2	2												
11	神社、寺院	13	12	1											
12	イ 工場、作業場	248	188	43	7	4	1	1		2	1	1			
	ロ 映画スタジオ														
13	イ 自動車車庫	48	14	17	11	5	1								
	ロ 飛行機格納庫														
14	倉庫	40	32	4	3	1									
15	前各号以外の事業所	406	260	60	34	20	11	15	3			1			2
16	イ 特定の複合防火対象物	455	282	69	44	18	17	7	5	2	2	4	4		1
	ロ イ以外の複合防火対象物	435	298	58	29	22	11	6	4	2	1		2	1	1

消防同意件数

令和7年4月1日現在

令和6年度の同意件数（件）

防火対象物の区分		地 域	豊田市
1	イ	劇場、映画館	
	□	公会堂、集会場	3
2	イ	キャバレー、カフェ	
	□	遊技場、ダンスホール	
	ハ	風俗営業等を営む店舗	
	ニ	カラオケボックス等	
3	イ	待合、料理店等	
	□	飲食店	8
4		百貨店、マーケット等	20
5	イ	旅館、ホテル等	
	□	共同住宅、マンション等	42
6	イ	病院、診療所	12
	□	老人福祉施設等	10
	ハ	デイサービス等	7
	ニ	幼稚園、特別支援学校	1
7		小学校、各種学校等	6
8		図書館、美術館	
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場	
	□	イ以外の公衆浴場	
10		車両停車場、航空機発着場	
11		神社、寺院	1
12	イ	工場、作業場	32
	□	映画スタジオ	
13	イ	自動車車庫	9
	□	飛行機格納庫	
14		倉庫	30
15		前各号以外の事業所	69
16	イ	特定の複合用途防火対象物	6
	□	イ以外の複合用途防火対象物	8
16の2		地下街	
16の3		準地下街	
17		文化財	
18		アーケード	
19		山林	
20		舟車	
専 用 住 宅 等			204
合 計			468

危険物規制対象物

令和7年4月1日現在 (件)

区分		製造所等の別	合計	製造所	貯蔵所							
					小計	屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外
施設数			1,196	10	712	209	140	80	165	7	85	26
数量別	5倍以下		431		313	105	15	32	70	7	73	11
	5倍を超え 10倍以下		258	1	168	61	27	39	32			9
	10 " 50 "		280	4	140	27	58	9	34		6	6
	50 " 100 "		77	2	40	6	19		9		6	
	100 " 150 "		37		18	2	14		2			
	150 " 200 "		39		13	5	4		4			
	200 " 1,000 "		73	3	19	2	3		14			
	1,000 " 5,000 "		1		1	1						
	5,000 " 10,000 "											
	10,000倍を超えるもの											

区分		製造所等の別	小計	取扱所					事業所数
				給油	第一種販売	第二種販売	移送	一般	
施設数			474	233	2			239	523
数量別	5倍以下		118	21				97	
	5倍を超え 10倍以下		89	13				76	
	10 " 50 "		136	83	2			51	
	50 " 100 "		35	24				11	
	100 " 150 "		19	18				1	
	150 " 200 "		26	24				2	
	200 " 1,000 "		51	50				1	
1,000 " 5,000 "									
5,000 " 10,000 "									
10,000倍を超えるもの									

消防団員職務報酬

支給対象者	支給単位	階級	金額（円）
基本団員	年額	団 長	136, 500
		副団長	86, 500
		分団長	62, 500
		部 長	40, 500
		班 長	37, 000
		団 員	36, 500
学生機能別団員	年額	団 員	5, 000

* 「学生機能別団員」とは機能別団員のうち、大学生等で構成された団員

消防団員出動報酬

支給対象者	支給単位	種別	出動時間の区分	金額（円）
基本団員 機能別団員	1 回	災害・警戒 出動	1 時間以下	2, 000
			1 時間を超え 3 時間以下	4, 000
			3 時間を超え 5 時間以下	6, 000
			5 時間を超え 7 時間以下	8, 000
		訓練等出動	一律	3, 000

* 「機能別団員」とは入団時に定めた特定の任務に限り従事する団員

* 「災害・警戒出動」とは火災等の災害が発生又は発生するおそれのある場合の出動

* 「訓練等出動」とは、消防署との合同訓練や出初式等の行事に参加する場合の出動

消防団員費用弁償

支給対象者	区分	金額
基本団員 災害支援 機能別団員 特命任務 機能別団員	災害・警戒出動又は訓練 等出動の際に自家用車 を使用した場合	1 回当たり 3 0 0 円
学生機能別団員	上記以外の場合	豊田市職員旅費条例（昭和 41 年 条例第 1 号）別表第 2 号に規定す る支給対象者の旅費相当額
学生機能別団員	一律	

消防団員退職報償金

(円)

階 級	勤 務 年 数						
	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上 20 年未満	20 年以上 25 年未満	25 年以上 30 年未満	30 年以上 35 年未満	35 年以上
団 長	239,000	344,000	459,000	594,000	779,000	979,000	1,079,000
副団長	229,000	329,000	429,000	534,000	709,000	909,000	1,009,000
分団長	219,000	318,000	413,000	513,000	659,000	849,000	949,000
部 長 班 長	204,000	283,000	358,000	438,000	564,000	734,000	834,000
団 員	200,000	264,000	334,000	409,000	519,000	689,000	789,000

消 防 団

豊田市消防団編成表

令和7年4月1日現在

人員配置				区 分			消防団機動力						
団長	副団長	部長	班長	団員	方面区	方面隊	方面	部	班	小型動力ポンプ	機動力		
1	1	1	2	19	190	第1方面隊	1	1	2	元城、竹牛	元城、竹牛		
			1	8				2	1	早芝	平芝		
			1	9				3	1	梅坪	梅坪		
			1	10				4	1	浄水	浄水		
		1	8	49			2	1	1	楳木	楳木		
	1	11	2		1			小坂	小坂				
	1	12	3		2			下市場、金谷	下市場、金谷				
	1	5	47	3	4		1	長興寺	長興寺				
	1	14			1		3	宮門、高上、宮	宮門				
	1	12	37	4	2		2	本新、丁足	本新、丁足				
	1	10			3		2	深田、木地	深田				
	1	5			1		1	今	今				
	1	10	11	1	2		2	前山、談合	前山				
	1	12			3		1	空	空				
	1	1	1	2	2		198	第2方面隊	1	1	1	高橋	高橋
				1	1					1	1	上野	上野
1				0	3	1				市木	市木		
1			14	44	2	1			3	扶桑、平井、百々	扶桑		
1			9			2			2	岩滝	岩滝		
1			10			3			2	矢並、山中	矢並		
1		8	47	3	1	1	野見		野見				
1		8			2	1	広川		広川				
1		20	49	4	3	3	古瀬間、大見		古瀬間、大見				
1		9			1	1	九久平		九久平				
1		16			2	2	幸海、磯崎		幸海				
1		1			3	1	岩倉		岩倉				
1		12	46	5	4	2	桂野		桂野				
1		9			1	3	林添、滝崎、長沢		林添				
1		14			2	2	豊松、松平		豊松				
1		13	35	1	3	3	坂上(仁王)、坂上(白明)、石橋		仁王				
1	1	1			1	1	1	鷲鴯	鷲鴯				
		1			6	2	1	大林	大林				
		1			2	3	2	渡刈、豊米	渡刈、豊米				
		1			1	4	1	永寛	永寛				
	1	8			59	2	1	1	上郷	上郷			
	1	15					2	2	諏部東(中切)、根塚東	諏部東			
	1	17					3	1	配津	配津			
	1	7	4	2			福愛、和合	福愛、和合					
1	9	29	3	1	1	十橋	十橋(中)						
1	6			2	1	木	木						
1	4			3	1	中	中						
1	7	21	4	1	1	若林	若林						
1	1			2	1	中根	中根						
1	3			3	1	花園	花園						
1	13	52	5	1	2	堤、上丘	堤、上丘						
1	21			2	2	西岡、前林	西岡、前林						
1	8			3	2	駒場、巾田	駒場						
1	1	1	10	248	第4方面隊	1	1	2	八豆、広橋	八豆			
			1				8	2	2	人畑、篠原	篠原		
			1				3	3	3	保見、東保見、田村	保見、田村		
			1				23	4	2	貝津、伊保	貝津、伊保		
	1	20	71			2	1	2	猿塚、加納	猿塚、加納			
	1	21					2	2	亀首、舞木	亀首			
	1	20					3	2	乙部	乙部			
	1	9	63			3	1	1	四郎	四郎			
	1	11					2	1	御前	御前			
	1	15					3	3	越戸、花本	越戸			
	1	17					4	1	西成瀬	西成瀬			
	1	17	52			4	1	5	東広瀬、小峯、力石、藤沢、富田	東広瀬、力石、藤沢			
1	12	2		2	寺下、成合		寺下						
1	10	3		4	中金、芳友、野門、中切		中金、野門						

人 員 配 置				区 分			消防団機動力						
団長	副団長	部長	班長	団員	分団計	方面隊計	分団	部	班	小型動力ホンプ	消防団機動力 （台）		
1	1	1	2	17	44	118	第5方面隊	1	1	木瀬	木瀬 (木)		
		1	1	21					2	藤岡敏野	藤岡敏野 (木)		
		1	2	10				2	1	西中山	西中山		
		1	2	8				2	1	深見	深見		
	1	1	2	16	21	3	1	1	御作	御作			
		1	0	0				2	1	上川口	上川口		
	1	1	2	7	26	4	1	1	二箇	二箇			
		1	2	5				2	1	折平	折平		
			1	3	3			3	1	白川	白川		
	1	1	1	3	14	34	78	第6方面隊	1	1	人平	人平 (木)	
			1	2	1					2	1	乙ケ林	乙ケ林
			1	2	8					3	1	北森平	北森平
		1	1	2	3	24			2	1	1	上仁木	上仁木
			1	2	3						2	1	雑敷
			1	3	7			3	1	永太郎	永太郎		
	1	1	3	9	19	3	1	1	小原	小原			
1		1	3	2				1	市場	市場			
1	1	1	2	25	36	226	第7方面隊	1	1	足助 (田町)	足助 (田町)		
		1	1	5					2	1	山谷	山谷	
	1	1	4	27	36			2	1	1	足助 (宮平)	足助 (宮平)	
		1	1	1						2	1	養沢	養沢
	1	1	2	11	28			3	1	1	近岡	近岡	
		1	2	10						2	1	国谷	国谷
	1	1	3	27	41			4	1	1	則定	則定	
		1	1	7						2	1	上佐切	上佐切
	1	1	1	12	35			5	1	1	龍岡	龍岡	
		1	2	17						2	3	朗川、大多留、五辰田	朗川
		1	2	18				1	1	新盛	新盛		
1	1	2	10	49	6	2	2	2	大河原、大蔵	大蔵			
	1	2	11				3	2	御蔵、戸原	御蔵			
1	1	1	1	8	29	89	第8方面隊	1	1	1	下山田代、花沢	下山田代、花沢	
		1	1	7					2	1	1	大沼	大沼 (木)
		1	1	7						2	1	3	1
	1	1	2	4	20			3	1	1	1	阿蔵、立岩、野原	阿蔵、立岩、羽石
		1	2	3						2	2	2	2
		1	2	3				3	2	阿蔵、立岩、野原	阿蔵、立岩、羽石		
1	1	1	1	4	16	61	第9方面隊	1	1	1	田津原	田津原	
		1	1	6					2	1	小渡	小渡 (木)	
	1	1	1	1	4			3	1	2	2	笹戸	笹戸
		1	1	4						1	2	杉本、入田	杉本
	1	2	1	7	17			2	2	2	2	加治、柳野	柳野
1		1	4	1		1	橋本			橋本			
		1	1	4			4	2	1	伊原			
1	1	1	3	10	5	1	1	1	浅谷	浅谷			
	1	1	2				2	1					
1	1	1	2	11	29	84	第10方面隊	1	1	1	稲武	稲武、稲武 (木)	
		1	1	4					2	1	川手	川手	
		1	1	6					3	1	大野瀬	大野瀬	
		1	1	3					2	1	3	小田木、黒田、福新貝津	小田木、黒田、福新貝津
		1	2	17			3	1	2	武節、桑原	武節 (木)、桑原		
0	0	1	2	21	24	24	消防団機動力 団長+ (カラーカート機7、フナイヤーワード機8、PR機7台ほか2名付加機あり)						
1	0	0	0	235	235	235	災害支援機機別 (2方面隊33) (4方面隊2) (6方面隊53) (小守地区15) (足助地区23) (下山地区33) (他地区73) (稲武地区23)						
0	0	0	0	26	26	26	学生機別団員 (中央大学22) (日本専修学院看護大学2) (愛知工業大学2)						
1	4	10	43	123	216	1382	1764	1779	43	117	173	168台	129台

●Fは、シバワフ (85台) ○は、トーマツ (83台) ※防災対策課管理分隊<

その他

出動基準

(隊)

出動種別	出動区分	ポンプ車	救助工作車	救急車	指揮隊車	はしご車	化学車	水槽車	資機材搬送車	支援車	ドローン	
火	小規模	1次	2		1							
		2次	1									
		3次										
	一般建物	1次	4	1	1	2			1			
		2次	2									
		3次	2									
	中高層建物	1次	4	1	1	2	1					
		2次	2				1		1			
		3次	2									
	指定建物	2次	5	1	1	2	1	1	1			
		3次	2									
	危険物	1次	3	1	1	2		1	1			
		2次	2					1	1			
		3次	2									
	中高層危険物	1次	3	1	1	2	1	1	1			
		2次	2				1	1				
		3次	2									
	トンネル	1次	3	1	1	2			1	1		
		2次	2									
		3次	2									
	地下	1次	3	1	1	2			1	1		
		2次	2									
		3次	2									
地下中高層建物	1次	3	1	1	2	1		1	1			
	2次	2										
	3次	2										
地下中高層危険物	1次	2	1	1	2	1	1	1	1			
	2次	2					1					
	3次	2										
林野	1次	3			1			1			1	
	2次	2			1							
	3次	2										
車両	1次	2		1	1							
	2次	2										
	3次	2										
鉄道	1次	2	1	2	2			1				
	2次	1	1	2					1			
	3次	2										
航空機	1次	1	1	2	2		1	1				
	2次	1					1					
	3次	2										
船舶	1次	2		1	1				1			
	2次	2			1							
	3次	2										
その他	1次	2			1							
	2次	1						1				
事後聞知	1次	1			1							

その他

(隊)

出動種別	出動区分	ポンプ車	救助工作車	救急車	指揮隊車	はしご車	化学車	水槽車	資機材搬送車	支援車	ドローン	
警 戒	ガ ス	1次	1									
		2次		1		1						
		3次										
	危 険 物	1次	1									
		2次				1		1	1			
		3次										
	水 位	1次	1									
		2次	1									
		3次										
一 般	1次	1										
	2次	1			1							
	3次											
探 索	怪 煙	1次	1									
		2次	1									
		3次										
	自 火 報	1次	1									
		2次										
		3次										
	一 般	1次	1			1						
		2次										
		3次										
救 助	一 般	1次	1	1	1							
		2次		1								
		3次	1									
	水 難	1次	2	1	1	2				1	1	
		2次	2	1						1		
		3次	1									
	交 通	1次	1	1	1	1						
		2次		1								
		3次	1									
	鉄 道	1次	2	1	2	2						
		2次	1	1	2					1		
		3次	1									
	自 然	1次	1	1	1	1						
		2次		1								
		3次	1									
高 所	1次	1	1	1	1	1						
	2次		1			1						
	3次	1										
低 所	1次	1	1	1	1							
	2次		1									
	3次											
特 殊	1次	3	1	1	2				1			
	2次	2	1									
	3次	1										
山 岳	1次	2	1	1	1							
	2次	1	1		1							
	3次	1										
救 急	複数救急	1次	(1)	(1)	3	1						
		2次			1							
		3次			1							
	救急支援 搬送支援	1次	(1)	(1)	1							
		2次	(1)	(1)	1							
		3次										
	多数傷病者 救急	1次	2	1	4	2				1	1	
		2次	1	1	3							
		3次	1		2							

* (1) はどちらか1隊

消防水利状況

令和7年4月1日現在

●消火栓 5,738基

管径別 (mm)	合計	5,738
	75未満	2
	75～ 300未満	5,181
	300以上	555

消火栓 地区別	合計	5,738
	猿投地区	1,149
	拳母地区	1,657
	高橋地区	650
	松平地区	277
	上郷地区	452
	高岡地区	1,056
	藤岡地区	494
	下山地区	3

■防火水槽 1,977基

容量別	合計	1,977
	40m ³ 以上	1,716
	40m ³ 未満	261

防火水槽 地区別	合計	1,977
	猿投地区	307
	拳母地区	247
	高橋地区	166
	松平地区	138
	上郷地区	89
	高岡地区	206
	藤岡地区	118
	小原地区	136
	足助地区	222
	下山地区	82
旭地区	143	
稻武地区	123	

◆指定水利 158か所

種類別	合計	158
	プール	86
	防火水槽	42
	池	21
	消火栓	1
	その他	3
	明治用水	5

月別気象状況

測定場所 豊田市消防本部

月 区分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	最高値	最低値
		雨量 (mm)	月積算	25.0	99.5	173.5	137.5	215.5	225.0	141.0	251.5	88.5	167.0	88.5	0.5
日最大積算	9.0		33.5	55.5	61.0	53.5	68.0	39.5	89.0	32.0	33.5	42.5	0.5	89.0	0.5
風速 (m/s)	平均	3.1	3.2	3.7	2.6	3.0	2.1	2.4	2.3	2.0	2.0	2.6	2.9	3.7	2.0
	風向	北東	北	北北西	北北西	北北西	南西	北東	南	北東	北東	北東	北東	—	—
	最大瞬間	22.4	30.3	24.3	24.0	25.5	14.8	18.5	14.8	14.9	15.9	18.7	19.7	30.3	14.8
	最大瞬間風向	北	北	北北西	北	南南西	西北西	北	南	南西	北	北	北	—	—
気温 (℃)	平均	6.0	8.3	9.2	17.3	19.5	23.3	29.1	29.8	27.8	21.5	14.6	6.6	29.8	6.0
	最高	17.9	23.2	24.2	27.1	31.2	32.4	39.0	39.7	38.3	33.6	26.9	20.6	39.7	17.9
	最低	-2.8	-1.7	-1.8	4.6	7.8	13.6	20.7	22.4	19.9	11.4	2.4	-2.2	22.4	-2.8

* 最高値及び最低値は、10分間あたりの平均値（雨量・最大瞬間風速を除く。）。

○年間降雨日数 116日

○年間総雨量 1613.0mm

○時間最大降雨量 36.5mm 8月31日観測

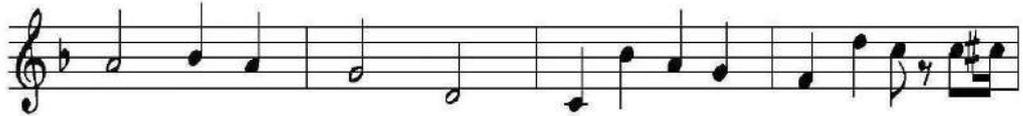
豊田消防歌

吉田 稔 作詞

片桐安夫 詩補作
作 曲



みどりばぐくむころものさとに うまれしわれちちいさのために



と一よた しょうぼう しめいに もえて さか



る もう か み も かえりみ ず はげ



むぞ きょうも ひのーまもり

豊田消防歌

一 緑育くむ衣の里に

生まれしわれら地域のために

豊田消防使命に燃えて

さかる猛火身も省みず

励むぞ今日も火の守り

二 東に流れる矢作の川に

誓うわれら市民のために

豊田消防団結かたく

迫る激流身も省みず

進むぞ今日も水の守り

三

西にそびえる七州の城
祈るわれら社会のために

豊田消防力を磨き

寄せる危難身も省みず

築くぞ今日も民の守り

「賛歌」豊田消防

岡田幸雄作詞
片桐安夫作曲

しちしゅうのぞむ さなげ-やま- けやきの ゆうし あこ-がれて-

せ-い き はつ-ら つや く-し-ん- の

わ-かきちしおが はせつどいそ な え-も か-た く ゆ

る-ぎ な し と-よたしろうぼう わがほこり

「賛歌」豊田消防

一 七州望む猿投山

けやきの雄姿あこがれて
清気はつらつ躍進の
若き血潮がはせ集い
備えもかたくゆるぎなし
豊田消防わがほこり

二 流れは清し矢作川

ひまわりの灯に火がともり
あふれる勇気りんりんの
男一匹腕自慢
命を救い火を防ぐ
豊田消防わがほこり

三

衣の里のこの台地
ゆかしき歴史伝統を
永久に承け継ぐ丈夫ぞ
謹しみ磨く消防技
郷土の平和守るもの
豊田消防わがほこり

とよたの消防（第68号）

発行・編集 豊田市消防本部総務課
〒471-0879
豊田市長興寺5丁目17番地1
電話：0565（35）9717
FAX：0565（35）9709
メール：shoubou-soumu@city.toyota.aichi.jp

発行年月 令和7年5月

全国統一防火標語（令和7年度）

急ぐ日も

足止め火を止め

準備よし

